

鳥取県がん検診実績報告書

令和4年3月

鳥 取 県
鳥取県健康対策協議会

鳥取県がん検診実績報告書

はじめに

先日報告された令和2年度鳥取県におけるがんの「75歳未満年齢調整死亡率」は68.6と「第三次鳥取県がん対策推進計画」で設定した目標値70.0を下回り、都道府県別の順位でも前年の45位から22位と改善しておりました。人口規模の小さい当県においては変動の幅が大きく今後の経過を注視する必要がありますが、目標が達成されたことは一定の評価をしてよいのではないのでしょうか。さらなる改善に向けて引き続き取り組んでいく必要があります。ところがコロナ禍はがん対策、特にがん検診に大きな影響を及ぼしています。鳥取県においても令和2年度のがん検診の実績では、医療機関検診に比較して集団検診の受診者数減少が目立ちました。胃がん検診受診者数では集団検診19.9%減、医療機関検診10.5%減で全体では12.1%の減少。肺がん検診では集団検診24.2%減、医療機関検診3.1%増で全体では9.0%の減少。大腸がん検診では集団検診15.3%減、医療機関検診5.9%減で全体では9.3%の減少。乳がん検診では集団検診18.1%減、医療機関検診13.5%減で全体では15.5%の減少。子宮がん検診では集団検診18.2%減、医療機関検診2.9%減で全体では8.0%の減少でした。

一時的であれ、がん検診受診者数の減少は将来の検診発見がんにおける早期がん比率を押し下げる要因となることが危惧されます。さらにはがん死亡率にも一定の影響を及ぼすものと考えられます。コロナ禍の先行きはなかなか見通せませんが、集団検診会場での感染対策の徹底や医療機関検診のさらなる活用などががん検診受診率の回復に向けてさらなる取り組みが必要と考えます。

このたび、例年通り、令和2年度の「鳥取県がん検診実績報告書」を発行いたします。当県におけるがん検診の更なる充実に向けてご活用いただければ幸いに存じます。

令和4年3月

鳥取県健康対策協議会

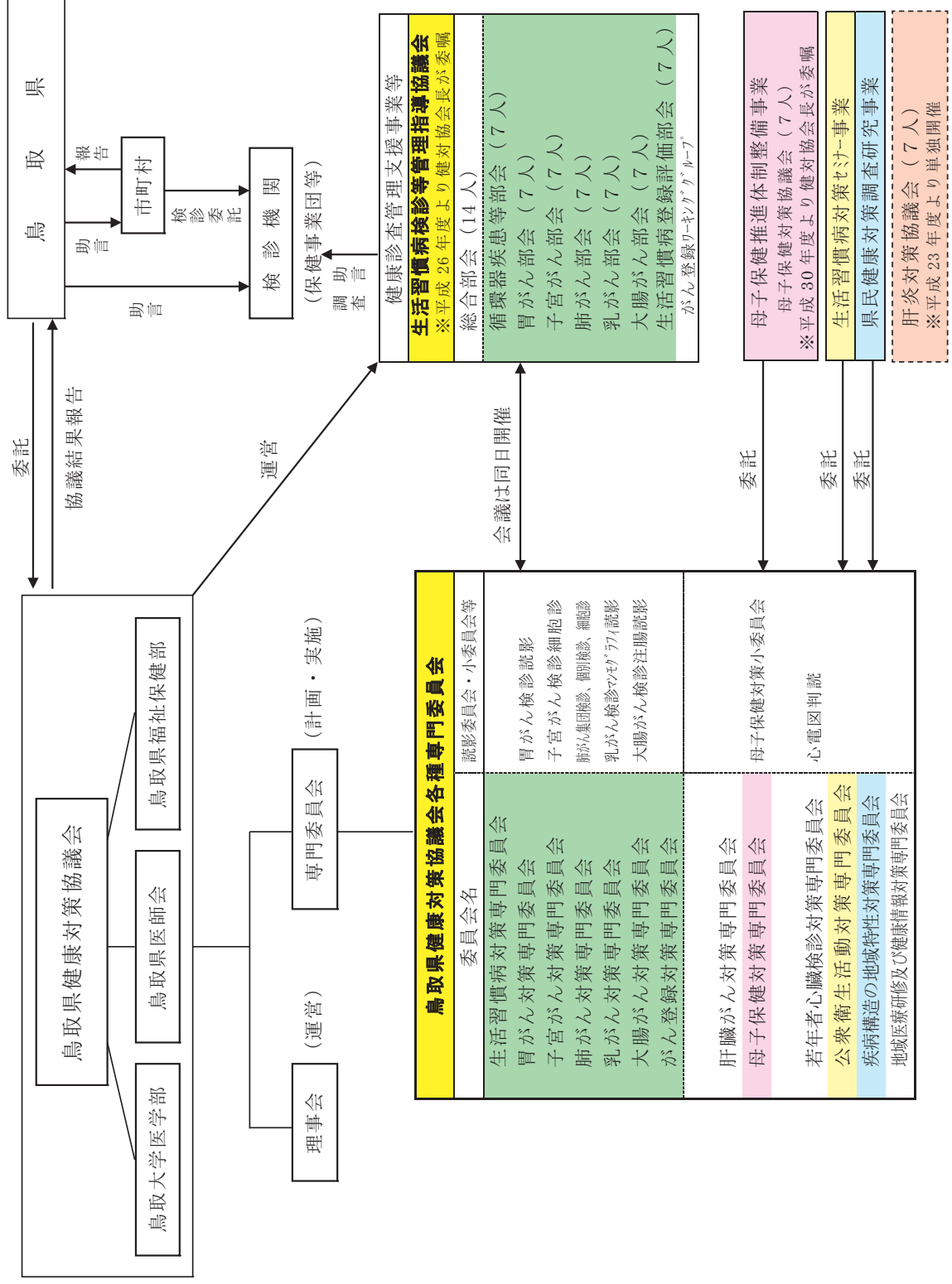
会長 渡辺 憲

目 次

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図	1
II. 令和2年度各がん検診事業実績	
1. 胃がん検診	4
2. 子宮がん検診	17
3. 肺がん検診	26
4. 乳がん検診	41
5. 大腸がん検診	48
6. 肝臓がん検診	57
7. 全国がん検診実績との比較	71
III. 令和3年度各がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況	
1. 胃がん検診症例研究会報告	76
2. 大腸がん検診症例研究会報告	77
3. 肝臓がん検診症例研究会報告	78
4. 各地区がん検診症例検討会開催状況	81
IV. 各がん検診精密検査医療機関登録について	82

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図

(昭和46年1月26日発足)



Ⅱ. 令和2年度各がん検診事業実績

指 標 の 解 説

1. 対象者数：職域等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数。

※1 対象者数については、平成20年度から全市町村共通で以下の算式により推計対象者数を算出することとしている。

40歳以上（子宮がん検診は20歳以上）・男女ごとに、以下の計算式で算出した人数を「推計対象者数」とする。

各係数は直近の国勢調査において報告された人数を用いる。

$$\boxed{\text{推計}} \boxed{\text{対象者数}} = \boxed{\text{市区町村}} \boxed{\text{人口}} - \left(\boxed{\text{就業者数}} - \boxed{\text{農林水産業}} \boxed{\text{従業者数}} \right)$$

（「市町村がん検診事業の充実強化について」平成21年3月厚生労働省総務）

胃、肺、大腸がん検診：40歳以上。

乳がん検診：平成17年度より対象者は40歳以上。（同一人の隔年検診）

子宮がん検診：平成17年度より対象者は20歳以上。

肝炎ウイルス検査：以下に該当する者を対象者とする。

(1) 節目検診：健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、40歳の者。

(2) 節目外検診：上記以外の健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、①基本健康診査で肝機能（GPT値）により要指導と診断された者。②平成14年～平成18年度までの本事業からに基づく肝炎ウイルス検査の対象者であって、受診の機会を逸した者。

2. 受診者数：検診を受診した人数

3. 受診率：がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合

4. 要精検者数：一次検診の結果、精密検査が必要と診断された人数

5. 要精検率：がん検診受診者のうち、精密検査が必要とされた者の割合

6. 精検受診者数：精密検査が必要と診断された者のうち、精密検査を受診した人数

7. 精検受診率：精密検査が必要な者のうち、精密検査を受けた者の割合

8. がん、がん疑いの人数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された人数

9. がん発見率：がん検診受診者のうち、がんとされた者の割合

10. 陽性反応適中度：要精密検査者のうち、がんとされた者の割合

11. 確定癌数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された者について、鳥取県健康対策協議会において確定調査を行った結果、「癌」であった者の人数

12. 確定癌率：がん検診受診者のうち、確定調査の結果、癌であった者の割合

1. 胃 がん 検 診

1. 胃がん検診実績

令和2年度の対象者数（40歳以上のうち職域等で受診の機会がない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計値）は189,132人のうち、受診者数はX線検査7,738人、内視鏡検査は38,430人で合計46,168人、受診率は24.4%で前年度より3.4ポイント減少した。

受診者数全体のうち、内視鏡検査の実施割合は83.2%で、年々増加している。

このうち、40歳から69歳（国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法）では、対象者数76,814人、受診者数22,205人、受診率28.9%であった。

検査結果が胃がんであった者は138人発見され（X線検査9人、内視鏡検査129人）、がん発見率は0.30%であった。

X線検査でのがん発見率は0.12%に対し、内視鏡検査でのがん発見率は0.34%である。

陽性反応適中度（がん/要精検査者）はX線検査1.6%である。また、内視鏡検査の陽性反応適中度はがんを組織診実施者数で割った率で求めたところ13.2%であった。

胃がん及び胃がん疑いについて行った確定調査の結果、確定癌は133例、発見癌率は0.29%であった。

(1) X線検査は19市町村で実施され、受診者数は7,738人で、受診率は4.1%である。一次検診の要精検査者は555人で、要精検査率は7.2%で、前年度より0.9ポイント減少した。精検受診者数473人、精検受診率は85.2%で前年度より1.2ポイント減少した。車検診の要精検査率7.0%（東部4.6%、中部8.8%、西部9.5%）、施設検診は8.3%（東部8.5%、中部11.8%、西部7.6%）だった。

精検結果が胃がんであった者は9人で、胃がん発見率は0.12%であった。検査の結果が胃がん及び胃がん疑いについて行った確定調査の結果は9人であった。

X線検査における国のプロセス指標については、鳥取県では、精検受診率目標値（90%以上）以外、許容値（要精検査率11.0以下、精検受診率70.0%以上、陽性反応適中度1.0%以上と、がん発見率0.11%以上）の指標はクリアしており、精度の高い検診がおこなわれている。ただし、例年と同様に施設検診におけるX線検査では要精検査率が高い。

(2) 内視鏡検査は、19市町村で実施され、受診者数は38,430人で、検査結果は胃がんであった者は129人が発見され、発見率は0.34%であった。検査の結果が胃がん及び胃がん疑いについて行った確定調査の結果は124人であった。

内視鏡検査の組織診実施者数は978人で、組織診実施率2.5%、東部3.0%、中部3.1%、西部1.9%である。また、陽性反応適中度（がん/組織診実施者数）は13.2%で、東部11.1%、中部15.2%、西部15.1%であった。

〈検診方法別結果〉

区 分	市町村数		受診者数（率）	がん	がん発見率（%）
	実 施	未実施			
X 線 検 診	19	0	7,738 (16.8%)	9	0.116
内視鏡検診	19	0	38,430 (83.2%)	129	0.336
計			46,168 (100%)	138	0.299

〈検診機関別結果〉

(1) X線検診

・一次検診

区 分	受診者数 (率)	要精検者数	要精検率 (%)			
			計	東部	中部	西部
車検診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	6,953 (89.9%)	490	7.0	4.6	8.8	9.5
施設検診 (病院・診療所)	785 (10.1%)	65	8.3	8.5	11.8	7.6
計	7,738 (100%)	555	7.2	5.1	8.9	9.3

・精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診 率 (%)	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
車 検 診	417	85.1	8	0.115	0.092	0.115	0.154
施 設 検 診	56	86.2	1	0.127	0.000	0.000	0.316
計	473	85.2	9	0.116	0.081	0.113	0.177

(2) 内視鏡検診

区 分	受診者数	組 織 診 実 施 者	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
病 院	9,657	308	37	0.383	0.327	0.433	0.500
診 療 所	28,773	670	92	0.320	0.335	0.477	0.257
計	38,430	978	129	0.336	0.332	0.464	0.287

〈圏域別結果〉

(1) X線検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	がん	がん発見率 (%)
東 部	3,704	188	5.1	158	84.0	3	0.081
中 部	1,768	157	8.9	135	86.0	2	0.113
西 部	2,266	210	9.3	180	85.7	4	0.177
計	7,738	555	7.2	473	85.2	9	0.116

(2) 内視鏡検診

区 分	受診者数	組織診実施者	実施率 (%)	がん	がん発見率 (%)	陽性反応適中度 (%)
東 部	15,969	476	3.0	53	0.332	11.1
中 部	6,459	198	3.1	30	0.464	15.2
西 部	16,002	304	1.9	46	0.287	15.1
計	38,430	978	2.5	129	0.336	13.2

2. 胃がん検診発見胃がん確定調査結果

令和2年度に発見された胃がん及び胃がん疑いについて確定調査を行った結果、確定胃癌は133例（一次検査がX線検査：車検診8例、施設検診1例、一次検査が内視鏡検査：124例）で、癌発見率は0.288%（東部0.280%、中部0.316%、西部0.285%）で、前年度に比べ、癌は72例減、癌発見率は0.1ポイント減少した。

調査結果は以下のとおりである。

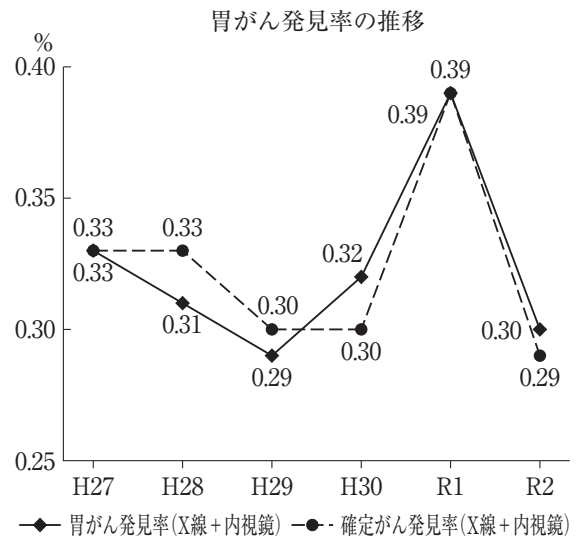
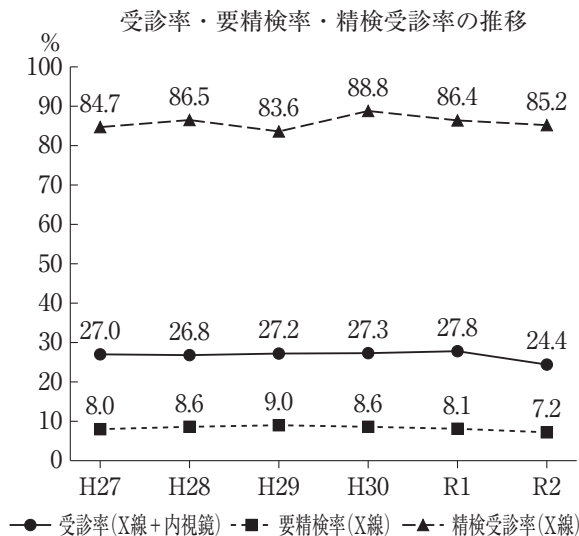
- (1) 早期癌は105例、進行癌は28例であった。早期癌率は78.9%（東部85.5%、中部76.9%、西部73.1%）であった。
- (2) 切除は58例で、内視鏡切除が70例であった。非切除例が5例であった。
- (3) 性・年齢別では、男性90例、女性43例であった。40歳代1例、50歳代3例、60歳代24例、70歳代69例、80歳以上36例で、例年と同様に60歳代、70歳代の男性が多い。
- (4) 早期癌では「Ⅱc」が55%を占めている。進行癌の肉眼分類は「2」が50%を占めている。例年通りの傾向であった。
- (5) 切除例の大きさは2cm以下のものが60%を占め、令和元年度の約50%に比べ、小さい癌が見つかっている。一方で5cm以上のものが16例認められた。
- (6) 肉眼での進行度は、X線検査ではstageⅠAが5例で71.4%、内視鏡検査ではstageⅠAが96例で78.7%であった。StageⅣが内視鏡検査で3例見つかっている。
- (7) 逐年検診発見進行癌は5例（東部1例、中部2例、西部2例）であった。各地区で症例検討を行っていただき、問題点等について検討していただく。

(1) 胃がん検診の受診者数、受診率等の推移

区 分		平成27年度			平成28年度			平成29年度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対象者数(人) A			190,556			189,132			189,132
	受診者数(人) B	13,642	37,828	51,470	11,961	38,684	50,645	11,029	40,453	51,482
	受診率(%) C = B/A	7.2	19.9	27.0	6.3	20.5	26.8	5.8	21.4	27.2
一次検診結果	異常認めず(人) D	12,548			10,933			10,036		
	要精検者数(人) E	1,094			1,028			993		
	要精検率(%) F = E/B 指標:許容値1.0%以下	8.0			8.6			9.0		
精密検査	精検受診者数(人) G	927			889			830		
	精検受診率(%) H = G/E 指標:目標値90%以上	84.7			86.5			83.6		
精密検査結果	胃がんの者(人) I	18(1)	153(102)	171(103)	15(6)	144(92)	159(98)	15(3)	133(85)	148(88)
	胃がん発見率(%) J = I/B 指標:許容値0.11%以上	0.13	0.40	0.33	0.13	0.37	0.31	0.14	0.33	0.29
	陽性反応適中度(%) K = I/E 指標:許容値1.0%以上	1.6			1.5			1.5		
確定調査結果	確定がん数(人) L	18	151	169	18	150	168	16	138	154
	確定がん率(%) M = L/B	0.13	0.40	0.33	0.15	0.39	0.33	0.15	0.34	0.30

区 分		平成30年度			令和元年度			令和2年度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対象者数(人) A			189,132			189,132			189,132
	受診者数(人) B	10,415	41,196	51,611	9,649	42,845	52,494	7,738	38,430	46,168
	受診率(%) C = B/A	5.5	21.8	27.3	5.1	22.7	27.8	4.1	20.3	24.4
一次検診結果	異常認めず(人) D	9,520			8,863			7,183		
	要精検者数(人) E	895			786			555		
	要精検率(%) F = E/B 指標:許容値1.0%以下	8.6			8.1			7.2		
精密検査	精検受診者数(人) G	795			679			473		
	精検受診率(%) H = G/E 指標:目標値90%以上	88.8			86.4			85.2		
精密検査結果	胃がんの者(人) I	15(2)	149(42)	164(44)	14(4)	193(74)	207(78)	9(0)	129(71)	138(71)
	胃がん発見率(%) J = I/B 指標:許容値0.11%以上	0.14	0.36	0.32	0.15	0.45	0.39	0.12	0.34	0.30
	陽性反応適中度(%) K = I/E 指標:許容値1.0%以上	1.7			1.8			1.6		
確定調査結果	確定がん数(人) L	14	141	155	17	188	205	9	124	133
	確定がん率(%) M = L/B	0.13	0.34	0.30	0.18	0.44	0.39	0.12	0.32	0.29

- ※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上
- ※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- ※3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出
- ※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 令和2年度胃がんX線検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年齢	対象者数 (人)		一次検診受診者数		受診率 (%)			一次検診結果				要精検率 (%)		
	a		b		c = b / a			要精検者数 d		異常認めず		e = d / b		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,702	3,950	202	420	7.5	10.6	9.4	7	12	195	408	3.5	2.9	3.1
45～49歳	2,391	3,400	181	389	7.6	11.4	9.8	7	13	174	376	3.9	3.3	3.5
50～54歳	2,494	3,868	158	371	6.3	9.6	8.3	11	11	147	360	7.0	3.0	4.2
55～59歳	3,464	5,767	215	375	6.2	6.5	6.4	9	17	206	358	4.2	4.5	4.4
60～64歳	7,789	11,161	375	666	4.8	6.0	5.5	29	28	346	638	7.7	4.2	5.5
65～69歳	13,314	16,514	645	801	4.8	4.9	4.8	67	51	578	750	10.4	6.4	8.2
70～74歳	11,961	15,344	728	818	6.1	5.3	5.7	86	65	642	753	11.8	7.9	9.8
75～79歳	11,039	16,002	365	397	3.3	2.5	2.8	26	37	339	360	7.1	9.3	8.3
80歳以上	18,509	39,463	330	302	1.8	0.8	1.1	42	37	288	265	12.7	12.3	12.5
計	73,663	115,469	3,199	4,539	4.3	3.9	4.1	284	271	2,915	4,268	8.9	6.0	7.2
合計	189,132		7,738		4.1			555		7,183		7.2		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	精密検査受診者数 f		精密検査受診率 (%) g = f / d			精密検査結果								胃がん発見率 (%) i = h / b			陽性反応の中度 (%) j = h / d		
	男	女	男	女	計	異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん h		男	女	計	男	女	計
						男	女	男	女	男	女	男	女						
40～44歳	6	10	85.7	83.3	84.2	1	6	4	4	0	0	1	0	0.495	0.000	0.161	14.3	0.0	5.3
45～49歳	4	11	57.1	84.6	75.0	2	1	2	10	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	10	9	90.9	81.8	86.4	4	1	6	8	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
55～59歳	8	14	88.9	82.4	84.6	0	2	8	12	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
60～64歳	23	27	79.3	96.4	87.7	4	5	19	22	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
65～69歳	48	49	71.6	96.1	82.2	9	14	37	35	0	0	2	0	0.310	0.000	0.138	3.0	0.0	1.7
70～74歳	73	53	84.9	81.5	83.4	12	15	59	37	0	0	2	1	0.275	0.122	0.194	2.3	1.5	2.0
75～79歳	24	35	92.3	94.6	93.7	6	10	17	24	0	0	1	1	0.274	0.252	0.262	3.8	2.7	3.2
80歳以上	36	33	85.7	89.2	87.3	10	4	25	29	0	0	1	0	0.303	0.000	0.158	2.4	0.0	1.3
計	232	241	81.7	88.9	85.2	48	58	177	181	0	0	7	2	0.219	0.044	0.116	2.5	0.7	1.6
合計	473		85.2			106		358		0		9		0.116			1.6		

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

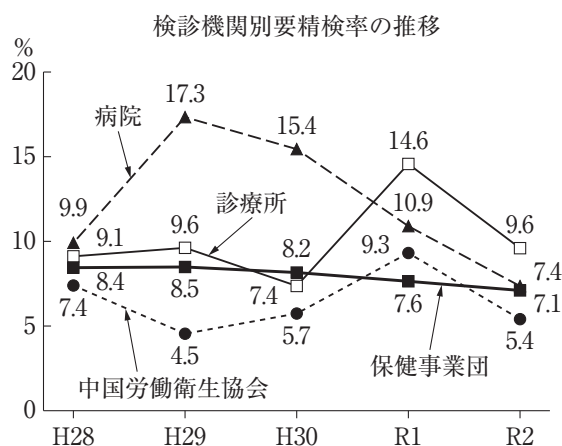
一次検診機関	一次検診受診者数 a'		一次検診結果				要精検率 (%) c' = b' / a'		
	男	女	要精検者数 b'		異常認めず		男	女	計
			男	女	男	女			
保健事業団	2,765	3,966	248	230	2,517	3,736	9.0	5.8	7.1
中国労働衛生協会	77	145	7	5	70	140	9.1	3.4	5.4
病院	194	268	15	19	179	249	7.7	7.1	7.4
診療所	163	160	14	17	149	143	8.6	10.6	9.6
計	3,199	4,539	284	271	2,915	4,268	8.9	6.0	7.2
合計	7,738		555		7,183		7.2		

b. 検診機関別

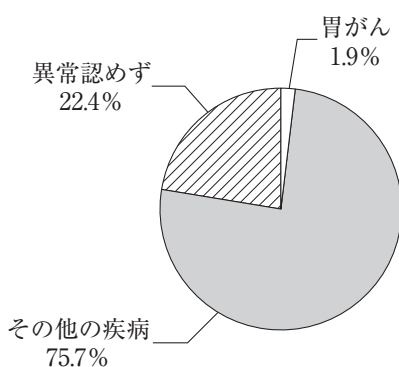
年 齢	精密検査受診者数 d'		精密検査受診率 (%) e' = d'/b'			精密検査結果								胃がん発見率 (%) g' = f'/a'			陽性反応的中度 (%) h' = f'/b'		
	男	女	男	女	計	異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん		男	女	計	男	女	計
						男	女	男	女	男	女	男	女						
保健事業団	201	206	81.0	89.6	85.1	40	52	155	152	0	0	6	2	0.217	0.050	0.119	2.4	0.9	1.7
中国労働衛生協会	5	5	71.4	100.0	83.3	2	0	3	5	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
車検診小計	206	211	80.8	89.8	85.1	42	52	158	157	0	0	6	2	0.211	0.049	0.115	2.4	0.9	1.6
病院	13	14	86.7	73.7	79.4	2	3	11	11	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
診療所	13	16	92.9	94.1	93.5	4	3	8	13	0	0	1	0	0.613	0.000	0.310	7.1	0.0	3.2
施設検診小計	26	30	89.7	83.3	86.2	6	6	19	24	0	0	1	0	0.280	0.000	0.127	3.4	0.0	1.5
計	232	241	81.7	88.9	85.2	48	58	177	181	0	0	7	2	0.219	0.044	0.116	2.5	0.7	1.6
合計	473		85.2			106		358		0		9		0.116			1.6		

・ 検診機関別要精検率の推移

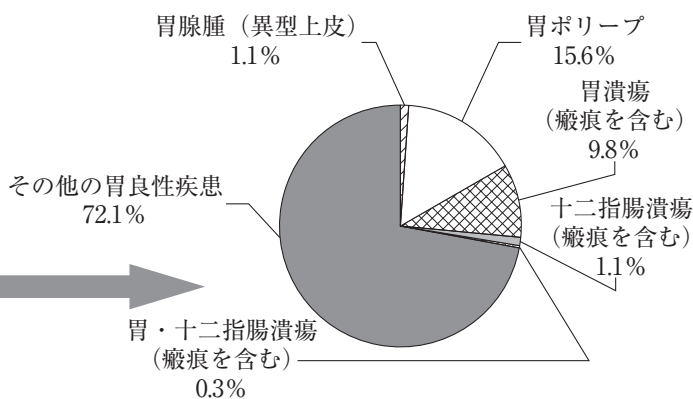
一次検診機関	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
保健事業団	8.4	8.5	8.2	7.6	7.1
中国労働衛生協会	7.4	4.5	5.7	9.3	5.4
車検診小計	8.4	8.4	8.1	7.7	7.0
病院	9.9	17.3	15.4	10.9	7.4
診療所	9.1	9.6	7.4	14.6	9.6
施設検診小計	9.6	9.6	13.7	12.4	8.3
合計	8.6	9.0	9.0	8.6	7.2



精密検査結果 (X線)



その他の疾病の内訳



4) 令和2年度胃がんX線検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員						がん発見率 (%) Q = O/D R = O/H	陽性反応 適中度						
	対象者数 A	車検診 B	施設検診 C	計 D = B + C	受診率 (%) E = D/A	車検診 F	施設検診 G	計 H = F + G	要精検率 (%) I = H/D	精 受診者数 J	精 検 受診率 (%) K = J/H	異 常 認めず L	その他の 疾病 M	がん N			がん疑い O	有所見者 P = M + N + O				
																			鳥取市	米子市	倉吉市	境港市
鳥取市	59,003	1,857	400	2,257	3.8	80	34	114	5.1	95	83.3	17	75	3	0	78	0.133	2.6				
米子市	44,119	306	205	511	1.2	25	17	42	8.2	38	90.5	8	29	1	0	30	0.196	2.4				
倉吉市	17,150	364	14	378	2.2	32	2	34	9.0	32	94.1	7	25	0	25	0.000	0.0					
境港市	11,206	226	86	312	2.8	18	3	21	6.7	18	85.7	10	7	1	8	0.321	4.8					
岩美町	4,582	462	2	464	10.1	28	0	28	6.0	24	85.7	4	20	0	20	0.000	0.0					
八頭町	6,230	733	28	761	12.2	33	1	34	4.5	29	85.3	3	26	0	26	0.000	0.0					
若桜町	1,539	92	5	97	6.3	3	2	5	5.2	5	100.0	0	5	0	5	0.000	0.0					
智頭町	3,027	125	0	125	4.1	7	0	7	5.6	5	71.4	0	5	0	5	0.000	0.0					
湯梨浜町	5,676	414	6	420	7.4	39	0	39	9.3	30	76.9	7	22	1	23	0.238	2.6					
三朝町	2,574	177	0	177	6.9	20	0	20	11.3	17	85.0	7	10	0	10	0.000	0.0					
北栄町	5,516	395	10	405	7.3	25	1	26	6.4	23	88.5	10	13	0	13	0.000	0.0					
琴浦町	6,751	384	4	388	5.7	37	1	38	9.8	33	86.8	5	27	1	28	0.258	2.6					
南部町	4,011	185	0	185	4.6	24	0	24	13.0	22	91.7	4	18	0	18	0.000	0.0					
伯耆町	4,257	281	0	281	6.6	29	0	29	10.3	25	86.2	6	18	1	19	0.356	3.4					
日吉津村	1,008	120	25	145	14.4	8	4	12	8.3	10	83.3	3	7	0	7	0.000	0.0					
大山町	6,967	429	0	429	6.2	47	0	47	11.0	43	91.5	9	33	1	34	0.233	2.1					
日南町	2,551	200	0	200	7.8	22	0	22	11.0	15	68.2	4	11	0	11	0.000	0.0					
日野町	1,553	96	0	96	6.2	5	0	5	5.2	2	40.0	0	2	0	2	0.000	0.0					
江府町	1,412	107	0	107	7.6	8	0	8	7.5	7	87.5	2	5	0	5	0.000	0.0					
合計	189,132	6,953	785	7,738	4.1	490	65	555	7.2	473	85.2	106	358	9	367	0.116	1.6					
東部	74,381	3,269	435	3,704	5.0	151	37	188	5.1	158	84.0	24	131	3	134	0.081	1.6					
中部	37,667	1,734	34	1,768	4.7	153	4	157	8.9	135	86.0	36	97	2	99	0.113	1.3					
西部	77,084	1,950	316	2,266	2.9	186	24	210	9.3	180	85.7	46	130	4	134	0.177	1.9					

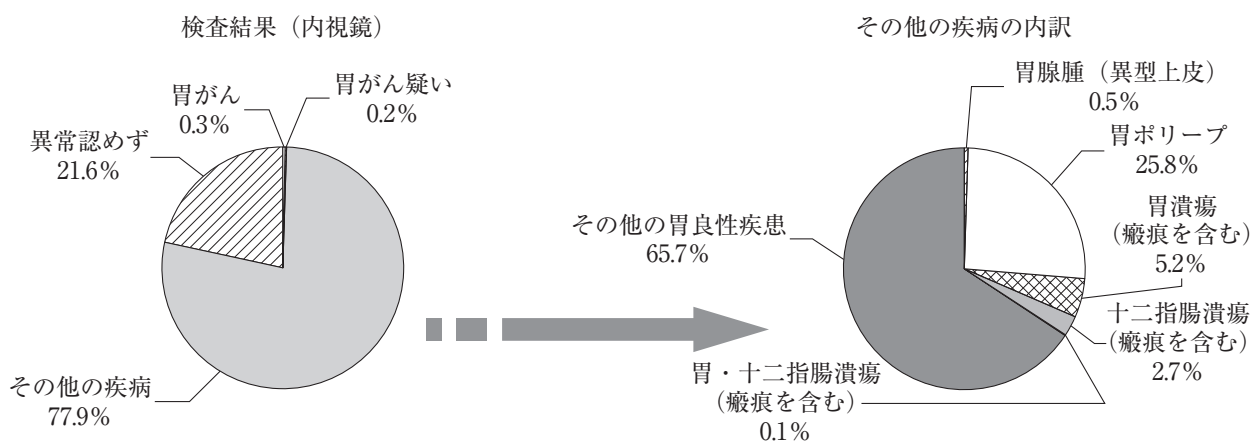
(3) 令和2年度胃がん内視鏡検診

1) 年齢階級別

年 齢	一次検診 受診者数 a		検 査 結 果								胃がん発見率 (%) c = b / a		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃 が ん b				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	521	954	218	404	303	550	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000
45～49歳	572	1,053	207	367	364	686	1	0	0	0	0.000	0.000	0.000
50～54歳	593	1,083	198	333	394	749	0	1	1	0	0.169	0.000	0.060
55～59歳	664	1,419	165	397	496	1,022	1	0	2	0	0.301	0.000	0.096
60～64歳	1,347	2,407	288	539	1,052	1,860	4	4	3	4	0.223	0.166	0.186
65～69歳	3,099	3,695	563	823	2,510	2,866	15	3	11	3	0.355	0.081	0.206
70～74歳	4,282	5,188	716	991	3,522	4,176	12	5	32	16	0.747	0.308	0.507
75～79歳	2,571	3,204	436	639	2,111	2,557	9	3	15	5	0.583	0.156	0.346
80歳以上	2,481	3,297	398	626	2,048	2,656	8	5	27	10	1.088	0.303	0.640
計	16,130	22,300	3,189	5,119	12,800	17,122	50	21	91	38	0.564	0.170	0.336
合 計	38,430		8,308		29,922		71		129		0.336		

2) 検診機関別

年 齢	一次検診 受診者数 a'		検 査 結 果								胃がん発見率 (%) c' = b' / a'		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん b'				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
病 院	4,277	5,380	698	1,005	3,530	4,354	24	9	25	12	0.585	0.223	0.383
診 療 所	11,853	16,920	2,491	4,114	9,270	12,768	26	12	66	26	0.557	0.154	0.320
計	16,130	22,300	3,189	5,119	12,800	17,122	50	21	91	38	0.564	0.170	0.336
合計	38,430		8,308		29,922		71		129		0.336		



3) 令和2年度胃がん内視鏡検診受診状況

市町村名	受診者数 A	組織診 実施者数 B	組織診 実施率 (%) C = B/A	検査結果別人員						
				異常 認めず D	その他 の疾病 E	がん 疑い F	がん G	有所見者 H = E + F + G	が ん 発 見 率 (%) I = G/A	陽性反応 適中度 (%) J = G/B
鳥取市	12,960	368	2.8	1,726	11,178	16	40	11,234	0.309	10.9
米子市	10,711	173	1.6	2,101	8,567	15	28	8,610	0.261	16.2
倉吉市	2,727	98	3.6	722	1,982	13	10	2,005	0.367	10.2
境港市	2,437	44	1.8	1,084	1,336	2	15	1,353	0.616	34.1
岩美町	557	17	3.1	38	517	0	2	519	0.359	11.8
八頭町	1,278	46	3.6	225	1,046	0	7	1,053	0.548	15.2
若桜町	551	21	3.8	129	421	0	1	422	0.181	4.8
智頭町	623	24	3.9	39	581	0	3	584	0.482	12.5
湯梨浜町	1,096	0	0.0	285	797	7	7	811	0.639	0.0
三朝町	340	0	0.0	336	1	1	2	4	0.588	0.0
北栄町	1,076	36	3.3	277	789	5	5	799	0.465	13.9
琴浦町	1,220	64	5.2	433	777	4	6	787	0.492	9.4
南部町	973	47	4.8	122	844	5	2	851	0.206	4.3
伯耆町	724	8	1.1	71	652	0	1	653	0.138	12.5
日吉津村	193	10	5.2	20	173	0	0	173	0.000	0.0
大山町	422	0	0.0	422	0	0	0	0	0.000	0.0
日南町	235	14	6.0	57	175	3	0	178	0.000	0.0
日野町	75	0	0.0	44	31	0	0	31	0.000	0.0
江府町	232	8	3.4	177	55	0	0	55	0.000	0.0
合 計	38,430	978	2.5	8,308	29,922	71	129	30,122	0.336	13.2
東 部	15,969	476	3.0	2,157	13,743	16	53	13,812	0.332	11.1
中 部	6,459	198	3.1	2,053	4,346	30	30	4,406	0.464	15.2
西 部	16,002	304	1.9	4,098	11,833	25	46	11,904	0.287	15.1

(4) 令和2年度胃がん検診受診状況（X線＋内視鏡）

市町村名	対象者数 A	受診者数				X線精密検査結果＋内視鏡検査結果					がん発見率 (%) K = I / D
		X線 受診者 B	内視鏡 受診者 C	計 D = B + C	受診率 (%) E = D / A	異常 認めず F	その他 の疾病 G	が ん 疑 い H	が ん I	有 所 見 者 J = G + H + I	
鳥取市	59,003	2,257	12,960	15,217	25.8	1,743	11,253	16	43	11,312	0.283
米子市	44,119	511	10,711	11,222	25.4	2,109	8,596	15	29	8,640	0.258
倉吉市	17,150	378	2,727	3,105	18.1	729	2,007	13	10	2,030	0.322
境港市	11,206	312	2,437	2,749	24.5	1,094	1,343	2	16	1,361	0.582
岩美町	4,582	464	557	1,021	22.3	42	537	0	2	539	0.196
八頭町	6,230	761	1,278	2,039	32.7	228	1,072	0	7	1,079	0.343
若桜町	1,539	97	551	648	42.1	129	426	0	1	427	0.154
智頭町	3,027	125	623	748	24.7	39	586	0	3	589	0.401
湯梨浜町	5,676	420	1,096	1,516	26.7	292	819	7	8	834	0.528
三朝町	2,574	177	340	517	20.1	343	11	1	2	14	0.387
北栄町	5,516	405	1,076	1,481	26.8	287	802	5	5	812	0.338
琴浦町	6,751	388	1,220	1,608	23.8	438	804	4	7	815	0.435
南部町	4,011	185	973	1,158	28.9	126	862	5	2	869	0.173
伯耆町	4,257	281	724	1,005	23.6	77	670	0	2	672	0.199
日吉津村	1,008	145	193	338	33.5	23	180	0	0	180	0.000
大山町	6,967	429	422	851	12.2	431	33	0	1	34	0.118
日南町	2,551	200	235	435	17.1	61	186	3	0	189	0.000
日野町	1,553	96	75	171	11.0	44	33	0	0	33	0.000
江府町	1,412	107	232	339	24.0	179	60	0	0	60	0.000
合計	189,132	7,738	38,430	46,168	24.4	8,414	30,280	71	138	30,489	0.299
東部	74,381	3,704	15,969	19,673	26.4	2,181	13,874	16	56	13,946	0.285
中部	37,667	1,768	6,459	8,227	21.8	2,089	4,443	30	32	4,505	0.389
西部	77,084	2,266	16,002	18,268	23.7	4,144	11,963	25	50	12,038	0.274

(5) 令和2年度胃がん検診発見患者確定調査結果について

表1 報告胃癌追跡調査

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	
確定胃癌数	3	0	52	2	0	24	3	1	48	133
胃癌発見率%	0.092	0.000	0.326	0.115	0.000	0.372	0.154	0.316	0.300	
	55 0.280			26 0.316			52 0.285			0.288
早期胃癌数	3	0	44	2	0	18	1	1	36	105
早期胃癌率%	47 85.5			20 76.9			38 73.1			
進行胃癌数	0	0	8	0	0	6	2	0	12	28
切除例	2	0	24	0	0	12	1	1	18	58
内視鏡切除例	1	0	27	2	0	12	1	0	27	70
非切除例	0	0	1	0	0	0	1	0	3	5

表2 性・年齢別

	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	計
男	1	3	16	44	26	90
女	0	0	8	25	10	43

表3 早期癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診		
I	0	0	3	0	0	0	0	0	2	5	5%
I + II a	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2%
II a	0	0	3	0	0	2	1	0	13	19	18%
II a + II b	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1%
II b	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	2%
II c	1	0	24	2	0	13	0	0	18	58	55%
II c + III	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1%
II b + II c	1	0	2	0	0	0	0	0	0	3	3%
II a + II c	0	0	9	0	0	1	0	1	2	13	12%
不明	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1%
計	3	0	44	2	0	18	1	1	36	105	

表4 進行癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診		
1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4%
2	0	0	5	0	0	3	0	0	6	14	50%
3	0	0	2	0	0	1	1	0	3	7	25%
4	0	0	1	0	0	2	0	0	2	5	17%
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
不明	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	4%
計	0	0	8	0	0	6	2	0	12	28	

表5 切除例の深達度

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	
t1a	2	0	36	1	0	14	1	0	29	83
t1b	1	0	7	1	0	4	0	1	7	21
t2	0	0	4	0	0	3	0	0	2	9
t3	0	0	0	0	0	2	0	0	5	7
t4a	0	0	2	0	0	1	1	0	1	5
t4b	0	0	2	0	0	0	0	0	1	3
計	3	0	51	2	0	24	2	1	45	128
不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表6 切除例の大きさ

mm	～ 10	11 ～ 20	小計 (%)		21 ～ 50	51 ～	計	不 明
車	0	2	2	29%	4	1	7	0
施	0	1	1	100%	0	0	1	0
内	27	44	71	62%	29	15	115	5
計	27	47	74	60%	33	16	123	5

表7-1 早期癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	1	0	16
M	3	1	48
L	2	0	33
全 体	0	0	0
計	6	1	97
不 明	0	0	1

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	3	0	30
大 弯	0	0	12
前 壁	0	0	23
後 壁	3	1	32
全 周	0	0	0
計	6	1	97
不 明	0	0	1

表7-2 進行癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	0	0	10
M	1	0	9
L	1	0	6
D	0	0	0
全 体	0	0	0
計	2	0	25
不 明	0	0	1

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	0	0	8
大 弯	1	0	5
前 壁	0	0	2
後 壁	0	0	6
全 周	1	0	4
計	2	0	25
不 明	0	0	1

表8 発見胃癌の進行度

stage	東 部			中 部			西 部			計			計			
	車 検診	施設 検診	内視鏡 検 診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検 診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検 診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検 診	X 線		内	
I A	2	0	43	1	0	19	1	1	34	4	1	96	5	71.43%	96	78.69%
I B	1	0	0	0	0	2	0	0	3	1	0	5	1	14.29%	5	4.10%
II A	0	0	3	0	0	1	0	0	4	0	0	8	0	0.00%	8	6.56%
II B	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	2	1	14.29%	2	1.64%
III A	0	0	0	0	0	1	0	0	4	0	0	5	0	0.00%	5	4.10%
III B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%	0	0.00%
III C	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0.00%	3	2.46%
IV	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0.00%	3	2.46%
計	3	0	51	1	0	24	2	1	47	6	1	122	7	100%	122	100%
不明	0	0	1	1	0	0	1	0	1	2	0	2	2		2	

2. 子宮がん検診

1. 子宮がん検診実績

令和2年度子宮頸部がん検診は対象者数（20歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）129,896人のうち、受診者数29,851人、受診率23.0%で、令和元年度に比べ、受診率は1.9ポイント減であった。

このうち、40歳から69歳の値（国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法）は、対象者数59,087人、受診者数24,040人、受診率40.7%であった。

要精検者数は534人（判定不能で再検査未実施となった者を含む）、一次検査の結果判定不能で、再検査の結果、判定不能だった者が13人であった。要精検率は1.79%で、令和元年度に比べ、要精検者数が68人、要精検率が0.35ポイントそれぞれ増加した。

精検受診者数467人、精検受診率87.5%で令和元年度に比べ2.5ポイント増加した。

精検の結果、がん6人、がん発見率（がん/受診者数）は0.02%で、前年度と同率であった。陽性反応適中度（がん/要精検者数）は1.1%であった。上皮内病変は144人（CIN3またはAIS 37人、CIN2 25人、CIN1 76人、CIN2か3区別不能6人）であった。

精検受診率は国の許容値70%以上は上回るものの、目標値90%以上には届いていない状況である。また、要精検率は許容値を超え、がん発見率、陽性反応適中度、いずれも国の許容値に届いていない状況である。

精密検査結果のうち、上皮内病変30.8%を占めており、若年者層から多く見つまっている。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数(率)	要精検者数	要精検率(%)			
			計	東部	中部	西部
車 検 診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	8,904 (29.8%)	73 (72)	0.82 (0.81)	0.96	0.52	0.90
施 設 検 診 (病院・診療所)	20,947 (70.2%)	461 (451)	2.20 (2.15)	2.37	1.70	2.21
計	29,851 (100%)	534 (523)	1.79 (1.75)	1.84	1.13	2.02

※要精検者数の()は、判定不能の者のうち、再検が未実施者を除く

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	がん	がん発見率(%)			
				計	東部	中部	西部
車 検 診	67	91.8	0	0.000	0.000	0.000	0.000
施 設 検 診	400	86.8	6	0.029	0.026	0.000	0.038
計	467	87.5	6	0.020	0.016	0.000	0.032

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	上皮内病変	がん	がん発見率
東 部	4,600	44	0.96	40	90.9	12	0	0.000
中 部	2,523	13	0.52	13	100.0	3	0	0.000
西 部	1,781	16	0.90	14	87.5	3	0	0.000
計	8,904	73	0.82	67	91.8	18	0	0.000

(2) 施設検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	上皮内病変	がん	がん発見率
東 部	7,551	179	2.37	163	91.1	59	2	0.026
中 部	2,765	47	1.70	38	80.9	12	0	0.000
西 部	10,631	235	2.21	199	84.7	55	4	0.038
計	20,947	461	2.20	400	86.8	126	6	0.029

2. 子宮体部がん検診

子宮がん検診受診者29,851人中、体部がん検診対象者数は1,231人、一次検診会場での受診者は1,040人であった。一次検診会場で受診できず医療機関で別途検査した者は126人、受診者の合計は1,166人、受診率は94.7%であった。

一次検診の結果、要精検となった者26人、要精検率2.5%、精密検査受診者数は23人で、精密検査受診率88.5%であった。精検の結果、子宮体部がんが4人発見され、がん発見率は0.38%であった。陽性反応適中度15.4%であった。子宮内膜増殖症は6件であった。

3. 子宮がん検診発見子宮がん確定調査結果

1) 子宮頸部癌

令和2年度は子宮頸部癌6例で、I A期1例、I B期以上が5例であった。治療対象のCIN3またはAISは42例であった。CIN1、2または腺異形成103例であった。令和元年度に比べ、CIN3またはAISは4例減少した。なお、I B期以上5例の検診歴は、前年受診0例、3年以上前の受診2例であった。

2) 子宮体部癌

子宮体部癌は4例、子宮内膜増殖症7例であった。

4. その他

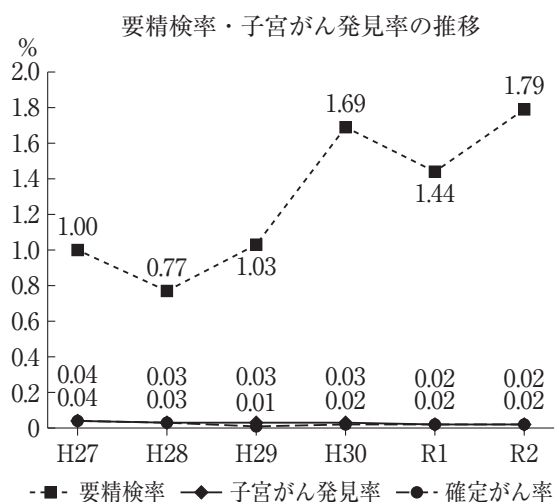
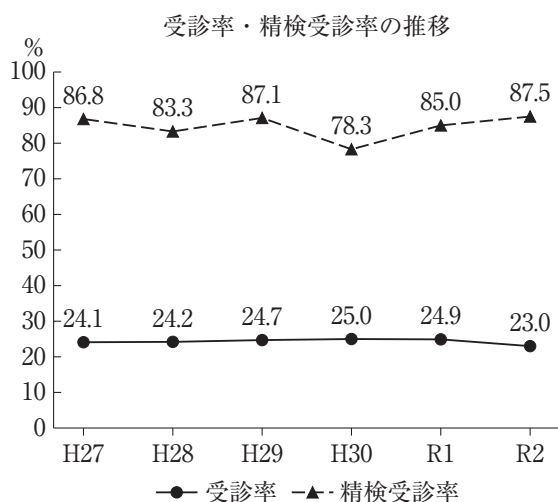
1) 令和2年度妊婦健康診査における子宮頸部がん検診受診状況について

令和2年度実績は、妊婦健康診査受診者3,667人中、子宮頸部がん検診受診者数3,620人、受診率98.7%で、要精検者数117人、要精検率3.2%、精検受診者数100人、精検受診率85.5%で精検結果はがんが2人（25～29歳1人、35～39歳1人）発見された。

(1) 子宮頸部がん検診の受診者数、受診率等の推移

	区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
一次検診	対象者数(人) A	135,485	129,896	129,896	129,896	129,896	129,896
	受診者数(人) B	32,600	31,447	32,138	32,455	32,318	29,851
	受診率(%) C = B/A	24.1	24.2	24.7	25.0	24.9	23.0
一次検診結果	異常認めず(人) D	32,275	31,206	31,807	31,906	31,852	29,317
	要精検者数(人) E	325	241	331	549	466	534
	判定不能(人) F	23	19	36	45	14	13
	要精検率(%) G = E/B 指標：許容値1.4%以下	1.00	0.77	1.03	1.69	1.44	1.79
精密検査	精検受診者数(人) H	262	185	257	430	396	467
	精検受診率(%) I = H/E 指標：目標値90%以上	86.8	83.3	87.1	78.3	85.0	87.5
精密検査結果	子宮がんの者(人) J	14(146)	9(90)	10(130)	9(189)	6(127)	6(144)
	子宮がん発見率(%) K = J/B 指標：許容値0.05%以上	0.04	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02
	陽性反応適中度(%) L = J/E 指標：許容値4.0%以上	4.6	4.1	3.4	1.6	1.3	1.1
確定調査結果	確定がん数(人) M	14	9	3	5	5	6
	確定がん率(%) N = M/B	0.04	0.03	0.01	0.02	0.02	0.02

- *1 精密検査結果欄の()内の数値は、平成29年度までは異形成の者、平成30年度からは上皮内病変の者の数を外数で計上
- *2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
- *3 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出
- *4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上
- *5 対象者数について、平成20年度報告から、20歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚労省が示す算定式により算出した推計数を計上
- *6 要精検者数について、平成22年度報告から、一次検診で判定不能の者のうち、再検が未実施の者も含んだ数を計上



(2) 令和2年度子宮頸部がん検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b / a	経年受診者数 再掲	一次検診結果			要精検率 (%) e = d / b
					要精検者数 d	判定不能	異常認めず	
20~24歳	3,705	573	15.5	152	31	0	542	5.41
25~29歳	2,963	1,160	39.1	592	61	0	1,099	5.26
30~34歳	3,735	2,012	53.9	1,224	89	0	1,923	4.42
35~39歳	4,024	2,510	62.4	1,839	88	1	2,422	3.51
40~44歳	3,950	3,195	80.9	2,397	85	1	3,110	2.66
45~49歳	3,400	3,075	90.4	2,378	82	3	2,993	2.67
50~54歳	3,868	2,501	64.7	2,013	42	3	2,459	1.68
55~59歳	5,767	2,498	43.3	2,071	25	2	2,473	1.00
60~64歳	11,161	3,174	28.4	2,653	12	1	3,162	0.38
65~69歳	16,514	3,342	20.2	2,971	6	1	3,336	0.18
70~74歳	15,344	3,477	22.7	3,182	3	0	3,474	0.09
75~79歳	16,002	1,467	9.2	1,344	7	0	1,460	0.48
80歳以上	39,463	867	2.2	763	3	1	864	0.35
計	129,896	29,851	23.0	23,579	534	13	29,317	1.79

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	精密検査受診者数 f	精密検査受診率 (%) g = f/d	異常認めず	子宮がん h	精密検査結果							未受診	未把握	子宮がん発見率 (%) i = h/b	陽性反応適中度 (%) k = h/d
					上皮内病変			その他							
					うち微小浸潤がん	CIN3 又はAIS	CIN2	CIN1	腺異形成	がん疑い又は未確定	その他疾患				
20~24歳	27	87.1	9	0	0	0	1	8	0	1	8	1	3	0.000	0.0
25~29歳	59	96.7	27	0	0	3	2	12	1	3	11	1	2	0.000	0.0
30~34歳	80	89.9	29	0	0	9	6	16	2	2	16	5	3	0.000	0.0
35~39歳	79	89.8	30	2	0	9	6	12	3	2	15	5	4	0.080	2.3
40~44歳	77	90.6	33	0	0	6	5	11	0	5	17	3	5	0.000	0.0
45~49歳	67	81.7	30	2	0	4	4	7	0	3	17	4	5	0.065	2.4
50~54歳	34	81.0	15	0	0	2	1	5	0	3	8	3	3	0.000	0.0
55~59歳	19	76.0	6	0	0	2	0	1	0	2	8	0	1	0.000	0.0
60~64歳	10	83.3	2	1	0	0	0	3	0	0	4	0	1	0.032	8.3
65~69歳	5	83.3	2	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0.030	16.7
70~74歳	2	66.7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.000	0.0
75~79歳	6	85.7	2	0	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0.000	0.0
80歳以上	2	66.7	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0.000	0.0
計	467	87.5	188	6	0	37	25	76	6	24	105	22	28	0.020	1.1

3) 検診機関別

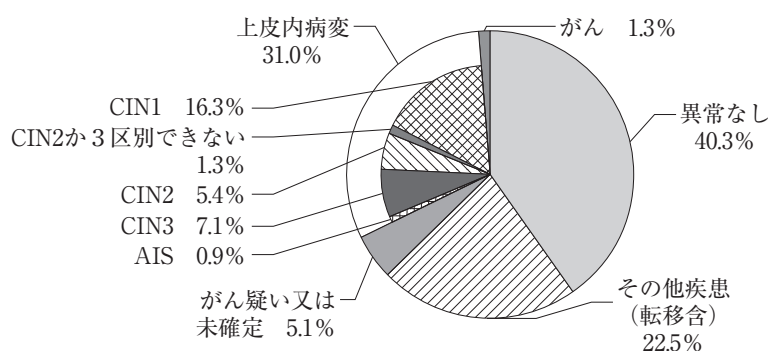
a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'	一次検診結果			要精検率 (%) c' = b'/a'
		要精検者数 b'	判定不能	異常認めず	
保健事業団	8,668				65
中国労働衛生協会	236	8	1	228	3.39
病院	6,599	53	3	6,546	0.80
診療所	14,348	408	9	13,940	2.84
計	29,851	534	13	29,317	1.79

b. 精密検査結果

年齢	精密検査受診者数 d'	精密検査受診率 (%) e' = d'/b'	異常認めず f'	子宮がん f'	精密検査結果							未受診	未把握	子宮がん発見率 (%) g' = f'/a'	陽性反応適中度 (%) h' = f'/b'
					上皮内病変			その他							
					うち微小浸潤がん	CIN3 又はAIS	CIN2	CIN1	腺異形成	がん疑い又は未確定	その他疾患				
保健事業団	60	92.3	22	0	0	5	4	5	1	7	16	1	0	0.000	0.0
中国労働衛生協会	7	87.5	2	0	0	1	1	1	0	0	2	0	0	0.000	0.0
病院	41	77.4	18	0	0	6	2	4	0	2	9	3	4	0.000	0.0
診療所	359	88.0	146	6	0	25	18	66	5	15	78	18	24	0.042	1.5
計	467	87.5	188	6	0	37	25	76	6	24	105	22	28	0.020	1.1

精密検査結果 (受診者数 = 467人)



4) 令和2年度子宮頸部がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員							がん発見率 (%) R = O/D	陽性反応適中 (%) S = O/H		
	対象者数	車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	異常認めず	その他疾病等	がん又は上皮内病変	がん			上皮内病変	有所見者
A	B	C	D = B + C	E = D/A	F	G	H = F + G	I = H/D	J	K = J/H	L	M	N = O + P	O	P	Q = M + N	R = O/D	S = O/H	
鳥取市	41,588	2,799	6,670	9,469	22.8	34	154	188	1.99	172	91.5	76	35	61	2	59	96	0.021	1.1
米子市	32,218	71	7,308	7,379	22.9	1	173	174	2.36	151	86.8	59	44	48	2	46	92	0.027	1.1
倉吉市	11,532	418	1,402	1,820	15.8	2	24	26	1.43	23	88.5	5	10	8	0	8	18	0.000	0.0
境港市	7,734	310	1,537	1,847	23.9	7	31	38	2.06	33	86.8	14	14	5	2	3	19	0.108	5.3
岩美町	2,911	504	229	733	25.2	7	5	12	1.64	11	91.7	1	6	4	0	4	10	0.000	0.0
八頭町	3,960	876	345	1,221	30.8	1	14	15	1.23	12	80.0	4	3	5	0	5	8	0.000	0.0
若桜町	941	235	52	287	30.5	1	1	2	0.70	2	100.0	1	1	0	0	0	1	0.000	0.0
智頭町	1,916	186	255	441	23.0	1	5	6	1.36	6	100.0	3	0	3	0	3	3	0.000	0.0
湯梨浜町	3,660	563	485	1,048	28.6	2	7	9	0.86	7	77.8	4	2	1	0	1	3	0.000	0.0
三朝町	1,636	177	125	302	18.5	2	0	2	0.66	2	100.0	2	0	0	0	0	0	0.000	0.0
北栄町	3,548	697	435	1,132	31.9	4	10	14	1.24	13	92.9	4	5	4	0	4	9	0.000	0.0
琴浦町	4,321	668	318	986	22.8	3	6	9	0.91	6	66.7	1	3	2	0	2	5	0.000	0.0
南部町	2,585	205	490	695	26.9	0	13	13	1.87	10	76.9	7	1	2	0	2	3	0.000	0.0
伯耆町	2,771	355	322	677	24.4	3	2	5	0.74	4	80.0	3	1	0	0	0	1	0.000	0.0
日吉津村	724	52	274	326	45.0	1	2	3	0.92	2	66.7	1	1	0	0	0	1	0.000	0.0
大山町	4,395	437	429	866	19.7	4	11	15	1.73	11	73.3	3	3	5	0	5	8	0.000	0.0
日南町	1,567	170	55	225	14.4	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
日野町	989	181	11	192	19.4	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
江府町	900	0	205	205	22.8	0	3	3	1.46	2	66.7	0	0	2	0	2	2	0.000	0.0
合計	129,896	8,904	20,947	29,851	23.0	73	461	534	1.79	467	87.5	188	129	150	6	144	279	0.020	1.1
東部	51,316	4,600	7,551	12,151	23.7	44	179	223	1.84	203	91.0	85	45	73	2	71	118	0.016	0.9
中部	24,697	2,523	2,765	5,288	21.4	13	47	60	1.13	51	85.0	16	20	15	0	15	35	0.000	0.0
西部	53,883	1,781	10,631	12,412	23.0	16	235	251	2.02	213	84.9	87	64	62	4	58	126	0.032	1.6

※1 令和元年度から上皮内病変には「AIS」「CIN3」「CIN2」「CIN1」及び「CIN2又は3のいずれかで区別できない者(HSIL)」の合計を計上。

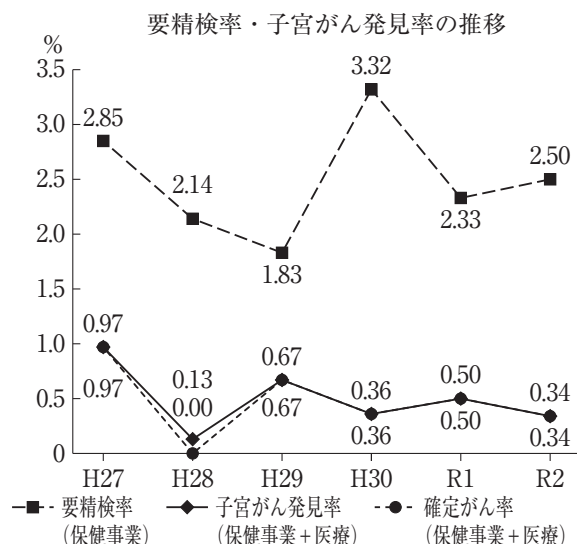
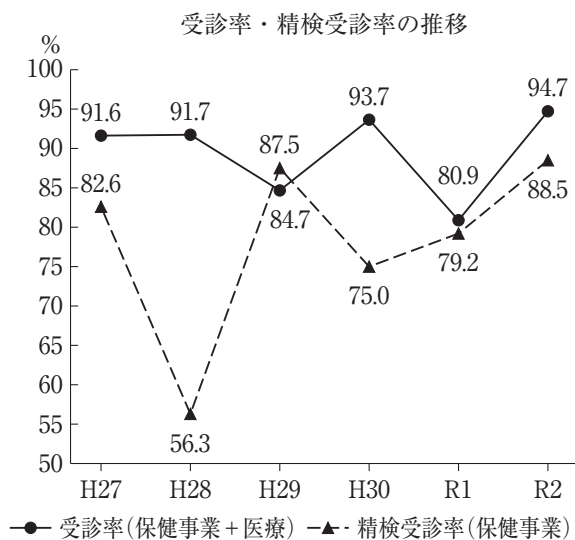
※2 平成30年度から「その他疾病等」には「子宮頸がんの疑いがある者又は未確定」及び「子宮頸がんおよびCIN(異形成等)以外の疾患であった者(転移性の子宮頸がんを含む)」を計上。

(3) 子宮体部がん検診の受診者数、受診率等の推移

区 分		平成27年度			平成28年度			平成29年度		
		保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計
一次検診	対 象 者 数(人) A	896		896	823		823	1,057		1,057
	受 診 者 数(人) B	806	15	821	748	7	755	874	21	895
	受 診 率(%) C = B / A	90.0		91.6	90.9		91.7	82.7		84.7
一次検診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	782			726			845		
	要 精 検 者 数(人) E	23			16			16		
	判 定 不 能(人) F	1			6			13		
精密検査	要 精 検 率(%) G = E / B	2.85			2.14			1.83		
	精 検 受 診 者 数(人) H	19			9			14		
精密検査 結 果	精 検 受 診 率(%) I = H / E	82.6			56.3			87.5		
	子 宮 が ん の 者(人) J	6(2)	2(4)	8(6)	1(1)	0(2)	1(3)	3(1)	3(0)	6(1)
	子 宮 が ん 発 見 率(%) K = J / B	0.74	13.33	0.97	0.13	0.00	0.13	0.34	14.29	0.67
確定調査 結 果	陽 性 反 応 適 中 度(%) L = J / E	26.1			6.25			18.8		
	確 定 が ん 数(人)	6	2	8	0	0	0	3	3	6
	確 定 が ん 率(%)			0.97			0.00			0.67

区 分		平成30年度			令和元年度			令和2年度		
		保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計
一次検診	対 象 者 数(人) A	1,197		1,197	1,476		1,476	1,231		1,231
	受 診 者 数(人) B	964	157	1,121	1,031	163	1,194	1,040	126	1,166
	受 診 率(%) C = B / A	80.5		93.7	69.9		80.9	84.5		94.7
一次検診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	919			1,000			1,006		
	要 精 検 者 数(人) E	32			24			26		
	判 定 不 能(人) F	13			7			8		
精密検査	要 精 検 率(%) G = E / B	3.32			2.33			2.50		
	精 検 受 診 者 数(人) H	24			19			23		
精密検査 結 果	精 検 受 診 率(%) I = H / E	75.0			79.2			88.5		
	子 宮 が ん の 者(人) J	4(2)	0(1)	4(3)	3(2)	3(1)	6(3)	4(6)	0(0)	4(6)
	子 宮 が ん 発 見 率(%) K = J / B	0.41	0.00	0.36	0.29	1.84	0.50	0.38	0.00	0.34
確定調査 結 果	陽 性 反 応 適 中 度(%) L = J / E	12.5			12.5			15.4		
	確 定 が ん 数(人)	4	0	4	3	3	6	4	0	4
	確 定 が ん 率(%)			0.36			0.50			0.34

- ※1 「保健事業分」= 集団検診及び医療機関検診により検診を受けた者、「医療分」= 集団検診において当日体部がん検診を受診せず、後日医療機関において受診した者
 ※2 精密検査結果欄の()内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上
 ※3 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
 ※4 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出
 ※5 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(4) 令和2年度子宮体部がん検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	子宮がん検診受診者数 a	体部がん検診対象者数 b	対象率 (%) c = b / a	一次検診受診者数 d	受診率 (%) e = d / b	一次検診結果			要精検率 (%) g = f / d
						要精検 f	異常認めず	判定不能	
20～24歳	573	6	1.05	0	0.0	0	0	0	0.00
25～29歳	1,160	11	0.95	7	63.6	0	7	0	0.00
30～34歳	2,012	65	3.23	54	83.1	0	53	1	0.00
35～39歳	2,510	84	3.35	63	75.0	0	63	0	0.00
40～44歳	3,195	173	5.41	141	81.5	2	139	0	1.42
45～49歳	3,075	279	9.07	238	85.3	9	229	0	3.78
50～54歳	2,501	231	9.24	204	88.3	7	196	1	3.43
55～59歳	2,498	128	5.12	111	86.7	2	107	2	1.80
60～64歳	3,174	76	2.39	63	82.9	2	59	2	3.17
65～69歳	3,342	71	2.12	61	85.9	2	59	0	3.28
70～74歳	3,477	65	1.87	59	90.8	1	58	0	1.69
75～79歳	1,467	28	1.91	27	96.4	1	24	2	3.70
80歳以上	867	14	1.61	12	85.7	0	12	0	0.00
計	29,851	1,231	4.12	1,040	84.5	26	1,006	8	2.50

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 h	精検受診率 (%) i = h / f	精密検査結果				子宮がん 発見率 (%) k = j / d	陽性反応 適中度 (%) l = j / f
			異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮がん j		
20～24歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
25～29歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
30～34歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
35～39歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
40～44歳	2	100.0	1	0	1	0	0.00	0.0
45～49歳	9	100.0	7	0	2	0	0.00	0.0
50～54歳	5	71.4	4	0	1	0	0.00	0.0
55～59歳	2	100.0	0	0	1	1	0.90	50.0
60～64歳	2	100.0	0	0	1	1	1.59	50.0
65～69歳	1	50.0	0	0	0	1	1.64	50.0
70～74歳	1	100.0	0	1	0	0	0.00	0.0
75～79歳	1	100.0	0	0	0	1	3.70	100.0
80歳以上	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
計	23	88.5	12	1	6	4	0.38	15.4

3) 一次検診会場で子宮体部がん検診を受診しなかった者の結果 (年齢階級別)

年 齢	体部がん検診受診者数	精密検査結果				子宮がん発見率 (%)
		異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮がん	
20～24歳	1	1	0	0	0	0.00
25～29歳	2	2	0	0	0	0.00
30～34歳	8	8	0	0	0	0.00
35～39歳	14	14	0	0	0	0.00
40～44歳	14	14	0	0	0	0.00
45～49歳	30	30	0	0	0	0.00
50～54歳	18	18	0	0	0	0.00
55～59歳	14	14	0	0	0	0.00
60～64歳	12	12	0	0	0	0.00
65～69歳	7	6	1	0	0	0.00
70～74歳	5	5	0	0	0	0.00
75～79歳	0	0	0	0	0	0.00
80歳以上	1	1	0	0	0	0.00
計	126	125	1	0	0	0.00

4) 令和2年度子宮体部がん検診受診状況(保健事業分)

市町村名	受診者数				要精検者数						精密検査結果別人員						がん発見率(%) R=O/D	陽性反応適中度(%) S=O/H
	対象者数	車検診	施設検診	計	受診率(%) E=D/A	車検診	施設検診	計	要精検率(%) I=H/D	精検受診者数	精検受診率(%) K=J/H	異常認めず	その他の疾病	がん又は子宮内膜増殖症	がん	子宮内膜増殖症		
A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N=O+P	O	P	Q=M+N	R=O/D	S=O/H
鳥取市	404	0	244	60.4	0	10	10	4.10	10	100.0	5	1	4	0	4	5	0.00	0.0
米子市	387	0	387	100.0	0	9	9	2.33	8	88.9	4	0	4	3	1	4	0.78	33.3
倉吉市	132	0	129	97.7	0	2	2	1.55	2	100.0	1	0	1	0	1	1	0.00	0.0
境港市	69	0	68	98.6	0	2	2	2.94	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
岩美町	14	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
八頭町	23	0	17	73.9	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
若桜町	2	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
智頭町	4	0	4	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
湯梨浜町	28	0	28	100.0	0	1	1	3.57	1	100.0	0	0	1	1	0	1	3.57	100.0
三朝町	9	0	9	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
北栄町	27	0	27	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
琴浦町	33	0	33	100.0	0	1	1	3.03	1	100.0	1	0	0	0	0	0	0.00	0.0
南部町	23	0	23	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
伯耆町	4	0	4	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
日吉津村	20	0	20	100.0	0	1	1	5.00	1	100.0	1	0	0	0	0	0	0.00	0.0
大山町	24	0	24	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
日南町	0	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
日野町	0	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
江府町	28	0	23	82.1	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
合計	1,231	0	1,040	84.5	0	26	26	2.50	23	88.5	12	1	10	4	6	11	0.38	15.4
東部	447	0	265	59.3	0	10	10	3.77	10	100.0	5	1	4	0	4	5	0.00	0.0
中部	229	0	226	98.7	0	4	4	1.77	4	100.0	2	0	2	1	1	2	0.44	25.0
西部	555	0	549	98.9	0	12	12	2.19	9	75.0	5	0	4	3	1	4	0.55	25.0

(5) 令和2年度子宮がん検診発見がん患者確定調査結果

表1 子宮がん検診確定調査結果（頸部）

最終診断	車検診		施設検診	
	令和元年度	令和2年度	令和元年度	令和2年度
CIN1、2または腺異形成	13	9	65	94
CIN 3 または AIS	8	5	38	37
頸癌 I A 期	1	0	1	1
頸癌 I B 期以上	0	1	4	4
合計	21	15	104	136

表2 子宮がん検診確定調査結果（体部）

最終診断	令和元年度	令和2年度
内膜増殖症	3	7
体癌 I A 期	4	1
体癌 I B 期以上	3	3
合計	10	11

表3 発見子宮がん症例（I B 期以上）のがん検診受診歴

受診歴	車検診	施設検診	計
前年受診	0	0	0
2年間隔	1	0	1
3年以上の間隔	0	2	2
初回受診	0	3	3

表4 治療機関

	CIN3またはAIS	頸癌 I A 期	頸癌 I B 期以上	計
鳥取大学医学部附属病院	14	0	4	18
鳥取県立中央	14	1	0	15
鳥取県立厚生病院	3	0	0	3
博愛病院	3	0	0	3
鳥取市立病院	2	0	1	2
鳥取赤十字病院	1	0	0	1
山陰労災病院	1	0	0	1
みやもと医院	3	0	0	3
彦名クリニック	1	0	0	1
ミオクリニック	1	0	0	1
県外など	0	0	0	0
計	43	1	5	48

3. 肺 が ん 検 診

1. 肺がん検診実績

令和2年度対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）189,132人のうち、受診者数49,733人、受診率26.3%で令和元年度に比べ2.6ポイント減であった。

このうち、40歳から69歳の値（国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法）は、対象者数76,814人、受診者数21,364人、受診率27.8%であった。

要精検者は1,850人、要精検率3.72%で前年度より273人（0.16ポイント）減少した。精密検査受診者は1,664人、精検受診率89.9%で前年度より1.0ポイント増であった。要精検率は国の指標（許容値）である3.0%以下を上回っているが、前年度より減少した。精検受診率は国の目標値90%と同等で、原発性肺がん32人、肺がん疑い68人の計100人が発見された。肺がん発見率は0.06%で、国の指標（許容値）0.03%以上より高率であったが、前年度より6人（0.01ポイント）減少した。また、陽性反応的中度は1.7%であり、国の指標（許容値）1.3%を上回り、前年度より0.1ポイント減少した。令和2年度の結果から、鳥取県においても新型コロナウイルス感染症の感染拡大による肺がん検診の受診控えがあったものと考えられる。また要精検率は許容値を上回るものの、陽性反応的中度は高く、引き続き多くの肺がんが発見されており、精度管理も良好と考えられた。

施設検診と車検診を比較すると、要精検率は施設検診4.06%、車検診3.14%であり、施設検診の方が0.92ポイント高い傾向にあった。要精検率については地域差があり、継続して精度管理には注意を払う必要がある。

X線受診者総数49,733人のうち経年受診者は31,547人、経年受診率63.4%である。

喀痰検査の対象となる高危険群所属者は6,220人（12.5%）で、そのうち喀痰検査を受診した者は1,890人で、X線検査受診者の3.8%、要精検者は5人で、うちがんが2人発見され、がん発見率0.106%であった。

経年と非経年受診者、高危険群と非高危険群所属者のがん発見率の比較では、経年受診者のがん発見率は0.063%で、非経年受診者のがん発見率0.066%で、ほぼ同率であった。また、高危険群所属者6,220人のうちがんが10人発見され、がん発見率0.161%、非高危険群所属者43,513人のうちがんが22人発見され、がん発見率0.051%で、高危険群所属者の方が3.18倍高かった。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数 (率)	要精検者数	要精検率 (%)			
			計	東 部	中 部	西 部
車 検 診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	18,466 (37.1%)	580	3.14	2.03	3.64	3.93
施 設 検 診 (病 院 ・ 診 療 所)	31,267 (62.9%)	1,270	4.06	3.53	4.48	4.75
計	49,733 (100%)	1,850	3.72	3.09	4.03	4.43

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精 検 受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)			
				計	東 部	中 部	西 部
車 検 診	502	86.6	6	0.032	0.029	0.059	0.015
施 設 検 診	1,162	91.5	26	0.083	0.090	0.045	0.089
計	1,664	89.9	32	0.064	0.072	0.052	0.060

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	6,897	140	2.03	121	86.4	8	2	0.029
中 部	5,106	186	3.64	162	87.1	15	3	0.059
西 部	6,463	254	3.93	219	86.2	5	1	0.015
計	18,466	580	3.14	502	86.6	28	6	0.032

(2) 施設検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	16,696	590	3.53	547	92.7	26	15	0.090
中 部	4,489	201	4.48	179	89.1	9	2	0.045
西 部	10,082	479	4.75	436	91.0	5	9	0.089
計	31,267	1,270	4.06	1,162	91.5	40	26	0.083

〈経年受診者の状況〉

※経年受診者＝昨年度も肺がん検診を受診した者

(1) 受診者数の推移

年 度	全体 (X線受診者数)			経年受診者数 (率)		
	男	女	計	男	女	計
H30	22,197	32,853	55,050	16,343 (73.6%)	24,323 (74.0%)	40,666 (73.9%)
R 1	22,150	32,521	54,671	15,612 (70.5%)	23,244 (71.5%)	38,856 (71.1%)
R 2	20,342	29,391	49,733	12,759 (62.7%)	18,788 (63.9%)	31,547 (63.4%)

(2) がん発見率の推移

年 度	経 年 受 診 者			非 経 年 受 診 者			発見率倍率 (非経年/経年)
	受診者数	が ん	がん発見率	受診者数	が ん	がん発見率	
H30	40,666	16	0.039	14,384	15	0.104	2.65
R 1	38,856	19	0.049	15,815	19	0.120	2.46
R 2	31,547	20	0.063	18,186	12	0.066	1.04

〈高危険群所属者の状況〉

※高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として下記の条件に該当する者
年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者

(1) 受診者数の推移

年 度	全体（X線受診者数）			高危険群所属者数（率）		
	男	女	計	男	女	計
H30	22,197	32,853	55,050	6,664 (30.0%)	362 (1.1%)	7,026 (12.8%)
R 1	22,150	32,521	54,671	6,093 (27.5%)	302 (0.9%)	6,395 (11.7%)
R 2	20,342	29,391	49,733	5,658 (27.8%)	562 (1.9%)	6,220 (12.5%)

(2) がん発見率の推移

年 度	高危険群所属者			非高危険群所属者			発見率倍率 (高危険/非高危険)
	受診者数	が ん	がん発見率	受診者数	が ん	がん発見率	
H30	7,026	4	0.057	48,024	27	0.056	1.01
R 1	6,395	7	0.109	48,276	31	0.064	1.70
R 2	6,220	10	0.161	43,513	22	0.051	3.18

〈喀痰細胞診の実施状況〉

※喀痰細胞診対象者＝X線検査受診者における高危険群所属者

(1) 結果の推移

年 度	X線検査受診者中 高危険群所属者	喀痰検査受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	がん	がん発見率
H30	7,026	2,162	7	0.32	7	2	0.093
R 1	6,395	1,828	1	0.05	0	0	0.000
R 2	6,220	1,890	5	0.26	4	2	0.106

〈発見がん患者の状況〉

(1) 要精検カテゴリー別患者数（人）

年 度	全 体	X線のみ要精検	喀痰のみ要精検	ともに要精検
H30	31	29	1	1
R 1	38	38	0	0
R 2	32	30	1	1

2. 肺がん検診発見肺がん追跡調査結果

昭和62年度から令和2年度までに発見された肺がん又は肺がん疑いについて予後調査した結果、肺がん確定診断1,685例、内訳は原発性肺癌1,526例、転移性肺腫瘍159例であった。

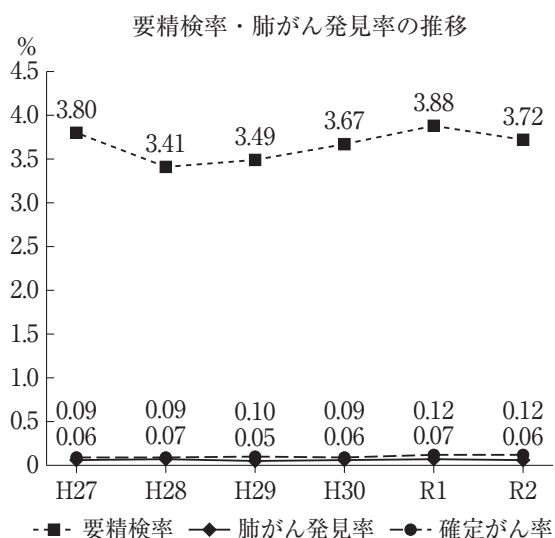
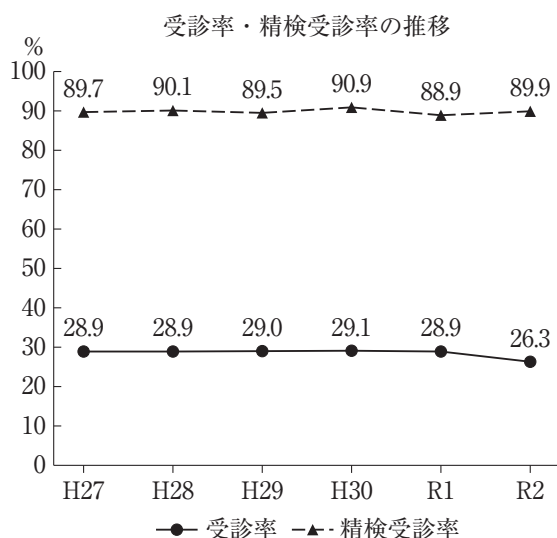
令和2年度については、以下のとおりであった。

- (1) 原発性肺癌55例、転移性肺腫瘍4例、合計59例の肺がん確定診断を得た。
- (2) 発見された原発性肺癌は53例(96.4%)が胸部X線で発見され、胸部X線と喀痰細胞診で2例(3.6%)発見された。
- (3) 対人口10万人あたりの原発性肺癌発見者は111人と前年同様高い。
- (4) 原発性肺癌の平均年齢は74.3歳、男性38例、女性は17例、臨床病期はⅠA期25例(45.5%)、Ⅰ期33例(60.0%)となっている。組織型は、腺癌は31例(56.4%)であった。
- (5) 手術症例の割合は33例(60.0%)、術後病期Ⅰ期の肺癌は24例(72.7%)であった。腺癌が26例(78.8%)で圧倒的に多かった。
- (6) 腫瘍径は平成30年度より第8版となり充実成分径で計測するようになったため、平均27.7mmであった。最高は80mmだった。
- (7) 転移性肺腫瘍は4例あり、胃癌1例、腎臓癌1例、乳癌1例、甲状腺癌1例であった。
- (8) 原発性肺癌確定者の施設検診と車検診の比較では、施設検診受診者数が圧倒的に多かった。また、要精検者率が車検診3.14%、施設検診4.06%であり、施設検診の要精検率が高い。
- (9) 東部地区の施設検診受診者のうち24例が確定癌となっている。東部地区の施設検診での発見癌の病期について、解析してほしい。癌が発見された時には、進行癌で見つかってしまっていないか、など、結果的には肺癌死亡が増えてしまうことのないように、推移を注視していくべきとの意見があった。
- (10) 個人票の様式は、第7版、第8版、それぞれ記入するようになっている。第8版に改定されてからしばらく経っているため、第8版のみを記載するよう様式の変更を検討していく。

(1) 肺がん検診の受診者数、受診率等の推移

区 分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	190,556	189,132	189,132	189,132	189,132	189,132
	受 診 者 数(人) B	55,045	54,679	54,776	55,050	54,671	49,733
	受 診 率(%) C = B/A	28.9	28.9	29.0	29.1	28.9	26.3
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	52,953	52,815	52,867	53,032	52,549	47,886
	要 精 検 者 数(人) E	2,092	1,864	1,909	2,023	2,123	1,850
	要 精 検 率(%) F = E/B <small>指標：許容値3.0%以下</small>	3.80	3.41	3.49	3.67	3.88	3.72
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	1,877	1,680	1,709	1,839	1,887	1,664
	精 検 受 診 率(%) H = G/E <small>指標：目標値90%以上</small>	89.7	90.1	89.5	90.9	88.9	89.9
精 密 検 査 結 果	肺 がん の 者(人) I	34(78)	40(52)	28(94)	31(115)	46(104)	42(68)
	上記のうち原発性肺がんの数 J	33	37	27	31	38	32
	肺 がん 発 見 率(%) K = J/B <small>指標：許容値0.03%以上</small>	0.06	0.07	0.05	0.06	0.07	0.06
	陽 性 反 応 適 中 度(%) L = J/E <small>指標：許容値1.3%以上</small>	1.6	2.0	1.4	1.5	1.8	1.7
確 定 調 査 結 果	確 定 がん 数(人) M	48	50	53	52	63	59
	上記のうち原発性肺がん数(人) N	47	46	50	49	59	55
	確 定 がん 率(%) O = N/B	0.09	0.09	0.10	0.09	0.12	0.12

- * 1 精密検査結果中の () 内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出
- * 4 確定がん数は、確定調査結果、がんと確定された数を計上
- * 5 要精密検査者数 (E)、精検受診者数 (G)、肺がんの者 (I)、確定がん数 (L) については、E 判定者数を計上



(2) 令和2年度肺がん検診結果

1) 一次検診（年齢階級別）

a. X線検査結果

年 齢	対象者数		胸 部 エ ッ ク ス 線 検 査									エックス線フィルム読影結果					
			一次検診 受診者数		受診率 (%)			経年受診者数 再掲※		経年受診者 割合 (%)		要精検者数		要精検率 (%)			
	a		b		c = b / a			d		e = d / b		f		g = f / b			
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	計	
40～44歳	2,702	3,950	660	1,233	24.4	31.2	28.5	219	431	33.2	35.0	15	19	2.27	1.54	1.80	
45～49歳	2,391	3,400	630	1,136	26.3	33.4	30.5	304	549	48.3	48.3	19	18	3.02	1.58	2.10	
50～54歳	2,494	3,868	616	1,128	24.7	29.2	27.4	316	605	51.3	53.6	18	21	2.92	1.86	2.24	
55～59歳	3,464	5,767	698	1,424	20.2	24.7	23.0	381	811	54.6	57.0	21	29	3.01	2.04	2.36	
60～64歳	7,789	11,161	1,611	3,020	20.7	27.1	24.4	882	1,817	54.7	60.2	50	86	3.10	2.85	2.94	
65～69歳	13,314	16,514	3,993	5,215	30.0	31.6	30.9	2,445	3,455	61.2	66.3	149	171	3.73	3.28	3.48	
70～74歳	11,961	15,344	5,664	7,116	47.4	46.4	46.8	3,936	5,036	69.5	70.8	258	234	4.56	3.29	3.85	
75～79歳	11,039	16,002	3,110	4,127	28.2	25.8	26.8	2,098	2,881	67.5	69.8	152	163	4.89	3.95	4.35	
80歳以上	18,509	39,463	3,360	4,992	18.2	12.6	14.4	2,178	3,203	64.8	64.2	198	226	5.89	4.53	5.08	
計	73,663	115,469	20,342	29,391	27.6	25.5	26.3	12,759	18,788	62.7	63.9	880	967	4.33	3.29	3.71	
合計	189,132		49,733		26.3			31,547		63.4		1,847		3.71			

※経年受診者＝昨年度も肺がん検診を受診した者

b. 喀痰細胞診結果

年 齢	X線検査受診者中高危険群 所属者※		喀痰容器 提出者数		喀痰細胞診結果						X線・ 喀痰細胞診 ともに 要精検 k	一次検診総合結果					
					要精検者数		精検不要		要精検率 (%)			要精検者数		要精検率 (%)			
	h	i	j = i / h		l = f + i - k		m = l / b										
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計		
40～44歳	2	1	1	1	0	0	1	1	0.00	0.00	0	0	15	19	2.27	1.54	1.80
45～49歳	4	1	5	0	0	0	5	0	0.00	0.00	0	0	19	18	3.02	1.58	2.10
50～54歳	98	30	42	7	0	0	42	7	0.00	0.00	0	0	18	21	2.92	1.86	2.24
55～59歳	196	36	74	11	0	0	74	11	0.00	0.00	0	0	21	29	3.01	2.04	2.36
60～64歳	464	66	153	7	0	0	153	7	0.00	0.00	0	0	50	86	3.10	2.85	2.94
65～69歳	1,322	131	441	17	2	0	439	17	0.45	0.00	2	0	149	171	3.73	3.28	3.48
70～74歳	1,944	147	662	25	1	0	661	25	0.15	0.00	0	0	259	234	4.57	3.29	3.86
75～79歳	913	102	260	13	1	0	259	13	0.38	0.00	0	0	153	163	4.92	3.95	4.37
80歳以上	715	48	167	4	1	0	166	4	0.60	0.00	0	0	199	226	5.92	4.53	5.09
計	5,658	562	1,805	85	5	0	1,800	85	0.28	0.00	2	0	883	967	4.34	3.29	3.72
合計	6,220		1,890		5		1,885		0.26		2		1,850		3.72		

※高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として下記の条件に該当するもの
年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	要精検者数 (再掲)		精密検査 受診者数		精密検査受診率 (%)			精 密 検 査 結 果								肺がん発見率(%)			陽性反応適中度 (%)		
	n		o		p = o / n			異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん		r = q / b			s = q / n		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	15	19	13	18	86.7	94.7	91.2	8	14	5	4	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	19	18	17	16	89.5	88.9	89.2	13	10	3	6	1	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	18	21	15	16	83.3	76.2	79.5	8	12	6	3	1	1	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
55～59歳	21	29	17	29	81.0	100.0	92.0	13	14	4	12	0	2	0	1	0.000	0.070	0.047	0.0	3.4	2.0
60～64歳	50	86	42	80	84.0	93.0	89.7	23	38	15	36	3	6	1	0	0.062	0.000	0.022	2.0	0.0	0.7
65～69歳	149	171	132	158	88.6	92.4	90.6	53	77	72	71	3	9	4	1	0.100	0.019	0.054	2.7	0.6	1.6
70～74歳	259	234	228	218	88.0	93.2	90.5	88	109	119	100	12	8	9	1	0.159	0.014	0.078	3.5	0.4	2.0
75～79歳	153	163	137	153	89.5	93.9	91.8	66	77	66	66	3	8	2	2	0.064	0.048	0.055	1.3	1.2	1.3
80歳以上	199	226	176	199	88.4	88.1	88.2	80	82	86	105	4	7	6	5	0.179	0.100	0.132	3.0	2.2	2.6
計	883	967	777	887	88.0	91.7	89.9	352	433	376	403	27	41	22	10	0.108	0.034	0.064	2.5	1.0	1.7
合計	1,850		1,664		89.9			785		779		68		32		0.064			1.7		
X線のみ要精検	1,845		1,660		90.0			785		777		68		30		/			1.6		
喀痰のみ要精検	3		3		100.0			0		2		0		1					33.3		
X線+喀痰要精検	2		1		50.0			0		0		0		1					50.0		

3) 検診機関別

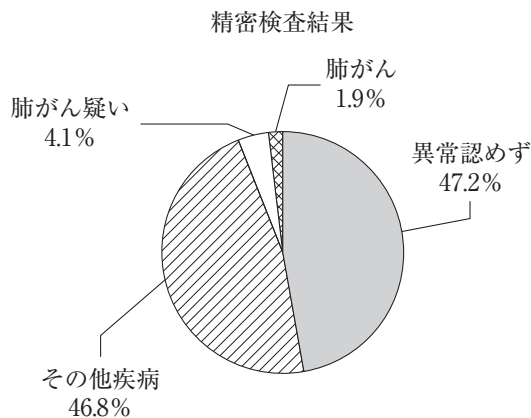
a. 一次検診結果

一 次 検 診 機 関	胸部エックス線検査				エックス線フィルム読影結果							X線検査受診 者中高危険群 所 属 者	
	受診者数 a'		経年受診者数再掲		要精検者数 b'		異常認めず		要精検率 (%) c' = b' / a'				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女
保 健 事 業 団	6,777	10,833	4,456	7,274	248	293	6,529	10,540	3.66	2.70	3.07	1,786	66
中国労働衛生協会	275	581	210	436	16	23	259	558	5.82	3.96	4.56	29	1
病 院	3,946	4,962	2,568	3,257	172	166	3,774	4,796	4.36	3.35	3.79	1,165	332
診 療 所	9,344	13,015	5,525	7,821	444	485	8,900	12,530	4.75	3.73	4.15	2,678	163
計	20,342	29,391	12,759	18,788	880	967	19,462	28,424	4.33	3.29	3.71	5,658	562
合 計	49,733		31,547		1,847		47,886		3.71			6,220	

一次検診機関	喀痰容器提出者数		喀痰細胞診結果						X線・喀痰細胞診ともに要精検(C)		一次検診総合結果				
			要精検者数		精検不要		要精検率(%)				要精検者数		要精検率(%)		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保健事業団	372	13	1	0	371	13	0.27	0.00	1	0	248	293	3.66	2.70	3.07
中国労働衛生協会	4	1	0	0	4	1	0.00	0.00	0	0	16	23	5.82	3.96	4.56
病院	446	21	0	0	446	21	0.00	0.00	0	0	172	166	4.36	3.35	3.79
診療所	983	50	4	0	979	50	0.41	0.00	1	0	447	485	4.78	3.73	4.17
計	1,805	85	5	0	1,800	85	0.28	0.00	2	0	883	967	4.34	3.29	3.72
合計	1,890		5		1,885		0.26		2		1,850		3.72		

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数		精密検査受診率(%)			精密検査結果								肺がん発見率(%)			陽性反応適中度(%)		
						異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん							
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	203	264	81.9	90.1	86.3	101	137	90	106	8	19	4	2	0.059	0.018	0.034	1.6	0.7	1.1
中国労働衛生協会	14	21	87.5	91.3	89.7	2	5	12	15	—	1	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
病院	158	155	91.9	93.4	92.6	65	73	90	76	2	5	1	1	0.025	0.020	0.022	0.6	0.6	0.6
診療所	402	447	89.9	92.2	91.1	184	218	184	206	17	16	17	7	0.182	0.054	0.107	3.8	1.4	2.6
計	777	887	88.0	91.7	89.9	352	433	376	403	27	41	22	10	0.108	0.034	0.064	2.5	1.0	1.7
合計	1,664		89.9			785		779		68		32		0.064			1.7		



4) 令和2年度肺がん検診受診状況

市町村名	受診者数			要精検者数			精密検査結果別人員						がん陽性反応 適中 度 (%) R = O / H					
	対象者数 A	車検 B	施設検診 C	計 D = B + C	受診率 (%) E = D / A	車検 F	施設検診 G	計 H = F + G	要精検率 (%) I = H / D	精 受診者数 J	精検受診率 (%) K = J / H	異 認め L		常 す M	他の 病 N	肺 が ん O	がん 発見率 (%) Q = O / D	
鳥取市	59,003	3,288	14,274	17,562	29.8	61	505	566	3.22	523	92.4	243	235	31	14	280	0.080	2.5
米子市	44,119	1,596	6,966	8,562	19.4	49	334	383	4.47	343	89.6	173	157	4	9	170	0.105	2.3
倉吉市	17,150	598	2,471	3,069	17.9	23	106	129	4.20	114	88.4	53	52	9	0	61	0.000	0.0
境港市	11,206	864	1,877	2,741	24.5	41	83	124	4.52	116	93.5	37	78	0	1	79	0.036	0.8
岩美町	4,582	1,118	343	1,461	31.9	23	10	33	2.26	30	90.9	14	16	0	0	16	0.000	0.0
八頭町	6,230	1,871	927	2,798	44.9	45	39	84	3.00	72	85.7	36	31	3	2	36	0.071	2.4
若桜町	1,539	166	658	824	53.5	1	24	25	3.03	25	100.0	7	17	0	1	18	0.121	4.0
智頭町	3,027	454	494	948	31.3	10	12	22	2.32	18	81.8	13	5	0	0	5	0.000	0.0
湯梨浜町	5,676	1,004	912	1,916	33.8	35	40	75	3.91	69	92.0	35	28	4	2	34	0.104	2.7
三朝町	2,574	860	116	976	37.9	42	8	50	5.12	42	84.0	23	12	6	1	19	0.102	2.0
北栄町	5,516	1,295	567	1,862	33.8	46	25	71	3.81	62	87.3	27	30	5	0	35	0.000	0.0
琴浦町	6,751	1,349	423	1,772	26.2	40	22	62	3.50	54	87.1	29	23	0	2	25	0.113	3.2
南部町	4,011	296	1,239	1,535	38.3	17	62	79	5.15	73	92.4	34	38	1	0	39	0.000	0.0
伯耆町	4,257	1,030	0	1,030	24.2	35	0	35	3.40	27	77.1	24	1	2	0	3	0.000	0.0
日吉津村	1,008	196	0	196	19.4	3	0	3	1.53	3	100.0	1	1	1	0	2	0.000	0.0
大山町	6,967	1,191	0	1,191	17.1	47	0	47	3.95	37	78.7	18	19	0	0	19	0.000	0.0
日南町	2,551	536	0	536	21.0	17	0	17	3.17	15	88.2	8	5	2	0	7	0.000	0.0
日野町	1,553	198	0	198	12.7	8	0	8	4.04	8	100.0	3	5	0	0	5	0.000	0.0
江府町	1,412	556	0	556	39.4	37	0	37	6.65	33	89.2	7	26	0	0	26	0.000	0.0
合計	189,132	18,466	31,267	49,733	26.3	580	1,270	1,850	3.72	1,664	89.9	785	779	68	32	879	0.064	1.7
東部	74,381	6,897	16,696	23,593	31.7	140	590	730	3.09	668	91.5	313	304	34	17	355	0.072	2.3
中部	37,667	5,106	4,489	9,595	25.5	186	201	387	4.03	341	88.1	167	145	24	5	174	0.052	1.3
西部	77,084	6,463	10,082	16,545	21.5	254	479	733	4.43	655	89.4	305	330	10	10	350	0.060	1.4

(3) 令和2年度肺がん検診発見がん患者の予後調査の確定について

肺がん確定診断（原発性1,526、転移性159） 1,685例

他部位癌（鼻腔1、咽頭2、喉頭3、悪性中皮腫1、その他5） 12例

総計

1,697例

1) 肺がん確定診断

(単位：例)

	昭和62年	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年
原発性肺癌	6	22	18	32	36	37	41	22	38	38	53	40
転移性肺腫瘍	0	4	4	4	7	9	3	5	5	4	2	7
合計	6	26	22	36	43	46	44	27	43	42	55	47

	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
原発性肺癌	41	42	30	48	65	50	57	62	48	52	41	65
転移性肺腫瘍	7	6	7	6	3	2	5	6	7	3	8	4
合計	48	48	37	54	68	52	62	68	55	55	49	69

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	合計
原発性肺癌	55	49	58	74	47	46	50	49	59	55	1,526
転移性肺腫瘍	6	5	4	7	1	4	3	3	4	4	159
合計	61	54	62	81	48	50	53	52	63	59	1,685

2) 原発性肺がん診断方法

				〔令和2年度集計〕			
胸 X 間 接	Dのみ	245例	} 1,417例(92.9%)	Dのみ	0例	} 53例(96.4%)	(E1:26例、E2:7例、E:20例)
	Eのみ	1,172例		Eのみ	53例		
細 胞 診	Dのみ	23例	} 58例(3.8%)	Dのみ	0例	} 0例(0.0%)	
	Eのみ	35例		Eのみ	0例		
胸X線間接と細胞診	D + D	1例	} 47例(3.1%)	D + D	1例	} 2例(3.6%)	
	D + E	9例		D + E	0例		
	E + D	6例		E + D	0例		
	E + E	22例		E + E	1例		
	不明	3例	} 3例(0.2%)	不明	0例	} 0例(0.0%)	
計 1,526例				計 55例			

3) 精密検診受診・原発性肺癌発見の状況

年	受診者 (人)	要精検者 (人)	精検受診者 (人)	肺癌発見者 (人)	発見者 (対人口10万)
S 62	16,420	745(4.54%)	652(87.5%)	6	37
S 63	38,445	65(0.17%)	60(92.3%)	22	57
H 元	52,473	117(0.22%)	107(91.5%)	18	34
H 2	68,374	153(0.22%)	132(86.3%)	32	49
H 3	70,189	95(0.14%)	89(93.7%)	36	51
H 4	69,909	133(0.19%)	111(83.5%)	37	53
H 5	69,027	133(0.19%)	98(72.9%)	41	59
H 6	66,316	103(0.16%)	89(86.4%)	22	33
H 7	65,226	162(0.25%)	135(83.3%)	38	58
H 8	64,169	114(0.18%)	91(79.8%)	38	59
H 9	67,092	152(0.23%)	123(80.9%)	53	79
H10	64,540	137(0.21%)	111(81.0%)	40	62
H11	64,845	169(0.26%)	142(84.0%)	41	64
H12	62,837	311(0.49%)	242(77.8%)	42	67
H13	62,631	216(0.34%)	152(70.4%)	30	48
H14	63,616	343(0.54%)	271(79.0%)	48	75
H15	63,649	640(1.01%)	489(76.4%)	65	102
H16	60,113	1,791(2.98%)	1,433(80.0%)	50	83
H17	51,020	1,659(3.25%)	1,409(84.9%)	57	112
H18	49,296	1,780(3.61%)	1,505(84.6%)	62	126
H19	49,806	1,940(3.90%)	1,656(85.4%)	48	96
H20	46,015	2,041(4.44%)	1,799(88.1%)	52	113
H21	46,247	2,122(4.59%)	1,888(89.0%)	41	89
H22	45,482	2,004(4.41%)	1,767(88.2%)	65	142
H23	48,513	2,467(5.09%)	2,208(89.5%)	55	113
H24	50,376	2,460(4.88%)	2,201(89.5%)	49	97
H25	50,569	2,345(4.64%)	2,062(87.9%)	58	115
H26	53,208	2,303(4.33%)	2,021(87.8%)	74	139
H27	55,045	2,092(3.80%)	1,877(89.7%)	47	85
H28	54,679	1,864(3.41%)	1,680(90.1%)	46	84
H29	54,776	1,909(3.49%)	1,709(89.5%)	50	91
H30	55,050	2,021(3.67%)	1,839(91.0%)	49	89
R 元	54,671	2,123(3.88%)	1,887(88.9%)	59	106
R 2	49,733	1,850(3.72%)	1,666(90.1%)	55	111
計	1,904,357	38,561(2.02%)	33,701(87.3%)	1,526	80

4) 原発性肺癌 (1,526例)

(1) 年齢・性別

区分	原発性肺癌	比率(%)
～59歳	90例	5.9
60～69歳	455	29.8
70～79歳	697	45.7
80～	284	18.6
計	1,526	100.0

平均年齢=72.3
男：女=911例：614例 (不明：1例)

〔R 2年度集計〕

区分	原発性肺癌	比率(%)
～59歳	1例	1.8
60～69歳	15	27.3
70～79歳	24	43.6
80～	15	27.3
計	55	100.0

平均年齢=74.3
男：女=38例：17例 (不明：0例)

(2) 原発性肺癌の臨床病期と組織型

a. 病期分類 (第7版+8版)

臨床病期	(%)
Occult	2例
0	2
I A	644(42.2)
I B	234
II A	58
II B	76
III A	174
III B	92
III C	3
IV	205
不明	36
計	1,526

[R2年度集計] (第8版)

臨床病期	(%)
Occult	0例
0	2
I A	25(45.5)
I B	6
II A	2
II B	2
III A	5
III B	2
III C	1
IV	10
不明	0
計	55

33(60.0%)
I期肺癌

多発癌は病期の
進んだ方を採用

b. 組織型

組織型	(%)
扁平上皮癌	326例
腺癌	965(63.3)
大細胞癌	20
小細胞癌	90
腺扁平上皮癌	14
腺様嚢胞癌	1
カルチノイド	1
不明	112
計	1,529*

[R2年度集計]

組織型	(%)
扁平上皮癌	16例
腺癌	31(56.4)
大細胞癌	1
小細胞癌	2
腺扁平上皮癌	1
腺様嚢胞癌	0
カルチノイド	0
不明	4
計	55

* 3例：扁平上皮癌と腺癌、腺癌と大細胞癌、腺癌と腺癌の同時多発癌を含む

(3) 原発性肺癌の手術症例

(955例、手術率：62.6%)

[R2年度集計]

a. 臨床病期、術後病期

原発性肺癌の手術症例 (33例、手術率：60.0%)

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	2例	Occult	2例
0	0(0.0)	0	2(0.2)
I A	570(59.7)	I A	488(51.1)
I B	193	I B	211
II A	36	II A	46
II B	48	II B	64
III A	81	III A	92
III B	15	III B	24
III C	0	III C	0
IV	9	IV	21
不明	1	不明	5
計	955	計	955

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	0例	Occult	0例
0	0	0	0
I A*	22(66.7)	I A**	15(45.5)
I B	6	I B	9
II A	1	II A	4
II B	2	II B	2
III A	2	III A	3
III B	0	III B	0
III C	0	III C	0
IV	0	IV	0
不明	0	不明	0
計	33	計	33

24
(72.7%)

IAの内訳…*臨床病期 IA1：10例、IA2：12例

**術後病期 IA1：9例、IA2：6例

b. 組織型分類

〔R 2年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	179例
腺癌	717(75.1)
大細胞癌	15
小細胞癌	11
腺扁平上皮癌	15
腺様嚢胞癌	1
カルチノイド	1
不明	16
計	955

組織型	(%)
扁平上皮癌	6例
腺癌	26(78.8)
大細胞癌	0
小細胞癌	0
腺扁平上皮癌	1
腺様嚢胞癌	0
カルチノイド	0
不明	0
計	33

(4) 腫瘍径

腫瘍径 (mm)	H10年度 (%)	H11年度 (%)	H12年度 (%)	H13年度 (%)	H14年度 (%)	H15年度 (%)	H16年度 (%)	H17年度 (%)	H18年度 (%)	H19年度 (%)	H20年度 (%)	H21年度 (%)
0~10	1	2	1	0	2	1	2	4	2	4	3	2
11~20	9 (22.5)	10	15(35.7)	11(36.7)	17(35.4)	11	17(34.7)	11	26(41.9)	14(29.2)	21(40.4)	10
21~30	6	15(36.6)	7	6	13	13	10	16(28.6)	15	18	6	13(31.7)
31~40	6	9	8	9	8	17(26.2)	12	11	10	5	14	8
41~50	7	1	3	1	3	8	4	4	2	3	5	6
51~	7	2	6	3	3	13	5	6	4	1	1	2
不明	4	2	2	0	2	2	0	5	3	3	2	0
計	40	41	42	30	48	65	50	57	62	48	52	41
平均	37.1mm	27.9mm	32.2mm	33.5mm	28.8mm	38.7mm	29.6mm	30.6mm	26.0mm	24.6mm	26.1mm	25.9mm

最高90mm 70mm 80mm 100mm 85mm 145mm 70mm 85mm 59mm 57mm 71mm 68mm

腫瘍径 (mm)	H22年度 (%)	H23年度 (%)	H24年度 (%)	H25年度 (%)	H26年度 (%)	H27年度 (%)	H28年度 (%)	H29年度 (%)	H30年度 (%)	R元年度 (%)	R2年度 (%)
0~10	2	1	4	3	3	0	1	8	1	1	9
11~20	13	16(29.1)	14(28.6)	16	28(37.8)	16(34.0)	14(30.4)	15(30.0)	14(30.6)	13	14(25.5)
21~30	26 (40)	16(29.1)	13	20(34.5)	21	8	10	15	15	16(27.1)	11
31~40	15	6	8	8	7	14	13	2	5	16(27.1)	6
41~50	6	4	6	5	6	6	5	2	7	8	6
51~	2	11	2	6	5	3	2	8	5	2	8
不明	1	1	2	0	4	0	1	0	2	3	1
計	65	55	49	58	74	47	46	50	49	59	55
平均	29.4mm	33.2mm	28.4	28.3mm	26.7mm	30.4mm	28.6mm	32.2mm	32.1mm	29.5mm	27.7mm

最高80mm 90mm 100mm 60mm 70mm 70mm 56mm 83mm 71mm 68mm 80mm

5) 転移性肺腫瘍 (159例)

大腸癌：34例 乳癌：21例 前立腺癌：14例 甲状腺癌：13例 腎臓癌：12例
 肝臓癌：9例 胃癌：7例 子宮癌：5例 胆管癌：4例 膵臓癌：4例
 尿管癌：4例 胆のう癌：4例 膀胱癌：3例 肺癌：2例 食道癌：2例
 卵巣癌：2例 子宮肉腫：1例 胸腺癌：1例 肛門癌：1例 顎下腺癌：1例
 咽頭癌：1例 後腹膜腫瘍：1例 卵管肉腫：1例 腹膜癌：1例 不明：8例

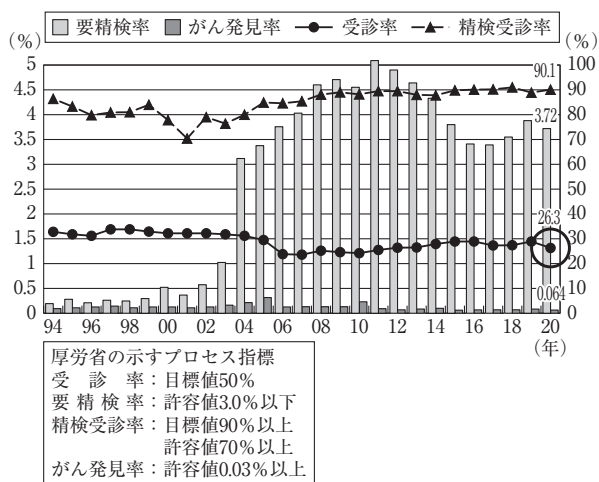
〔R 2年度集計〕 (4例)

胃癌：1例、腎臓癌：1例、乳癌：1例、甲状腺癌：1例

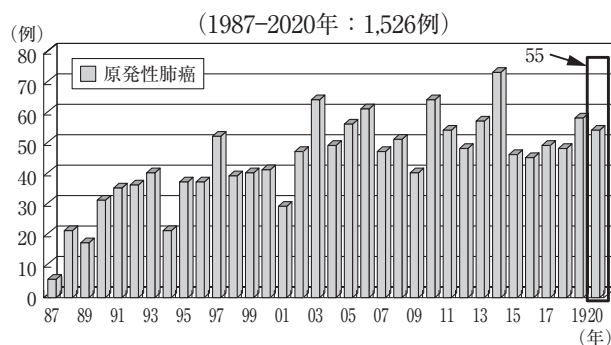
6) 令和2年度原発性肺がん確定者の施設検診と車検診の比較

	車 検 診	施 設 検 診
受診者数	18,466	31,267
要精検数	580 (3.14) 東部：140 (2.03) 中部：186 (3.64) 西部：254 (3.93)	1,270 (4.06) 東部：590 (3.53) 中部：201 (4.48) 西部：479 (4.75)
確定者数	13名 (0.070) (東：6、中：4、西：3)	42名 (0.134) (東：24、中：7、西：11)
発見方法	E1：7、E2：4、E：2	E1：20、E2：3、E：17 E + 喀痰E：1 喀痰D判定：1
年 齢	72.4歳	74.9歳
性 差	男性：9名 女性：4名	男性：29名 女性：13名
臨床病期	0 1名、I A 4名、I B 3名、 II A 1名、II B 1名、III A 1名、 III B 0名、IV 2名	0 1名、I A 21名、I B 3名、 II A 1名、II B 1名、III A 4名、 III B 2名、III C 1名、IV 8名、 不明0名
組 織 型	扁平上皮癌4名、腺癌8名、 大細胞癌0名、小細胞癌0名、 不明1名	扁平上皮癌12名、腺癌23名、 腺扁平上皮癌1名、大細胞癌1名、 小細胞癌2名、 不明3名
手 術	あり10名、なし3名	あり23名、なし19名
腫 瘍 径	27.0mm	27.9mm

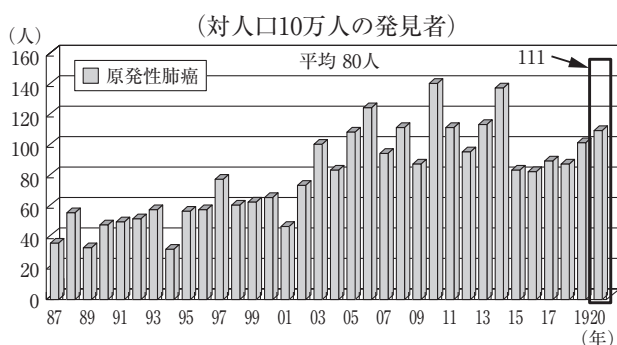
7) 肺癌検診の受診率・精検率・がん発見率の推移



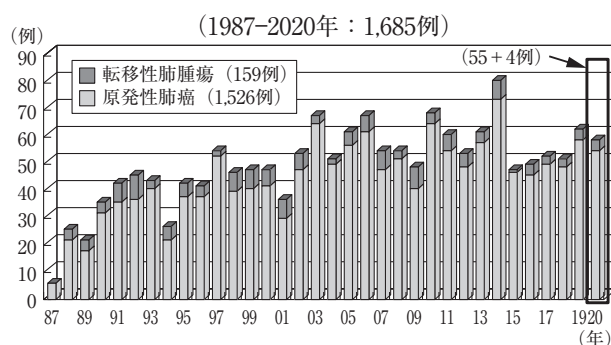
8) 検診で発見された原発性肺癌の推移



9) 検診で発見された原発性肺癌の推移

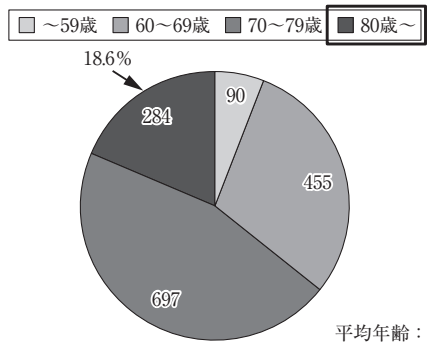


10) 検診で発見された肺癌と転移性肺腫瘍の推移

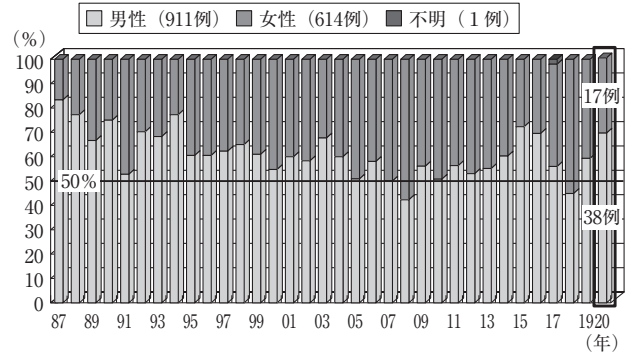


11) 検診発見肺癌の年齢

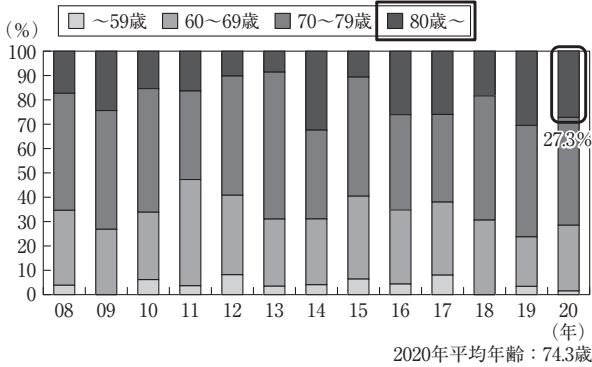
(1987-2020年：1,526例)



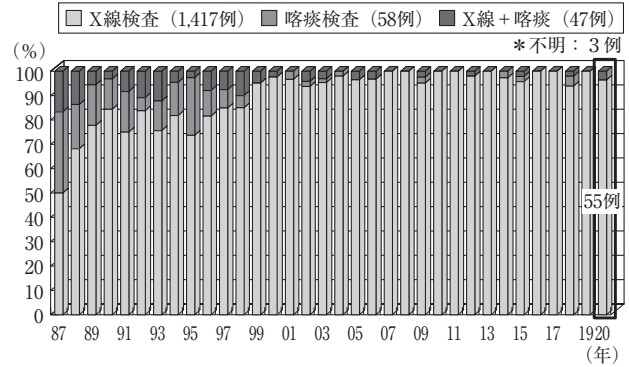
検診発見肺癌の性差



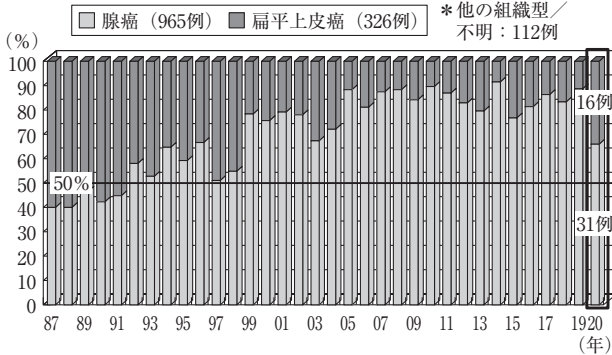
検診発見肺癌の年齢分布 (年次推移)



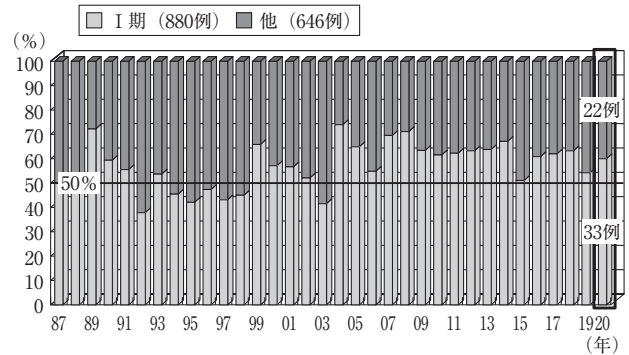
検診発見肺癌の発見動機



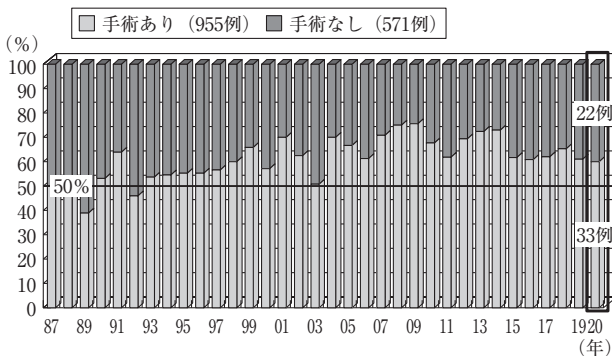
検診発見肺癌の組織型



検診発見肺癌の臨床病期 I 期肺癌の割合

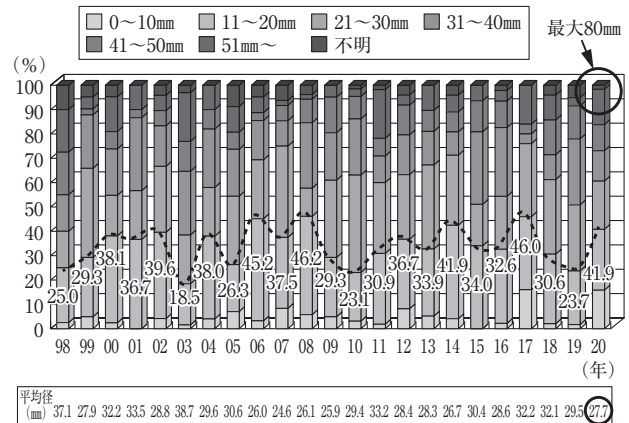


検診発見肺癌の手術の有無



検診発見肺癌の腫瘍径

(1998-2020年：1,526例)



4. 乳 がん 検 診

1. 乳がん検診実績

令和2年度対象者数115,469人（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）、受診者数16,249人、受診率14.1%で、受診率は令和元年度より2.6ポイント減少した。

このうち、40歳から69歳の値（国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法）は、対象者数44,660人、受診者数11,637人、受診率26.1%であった。

要精検者数1,100人、要精検率6.77%で前年度より1.06ポイント増加した。精検受診者数1,049人、精検受診率は95.4%で、令和元年度より1.1ポイント増であった。

精検の結果、乳がん96人、がん発見率（がん/受診者数）0.59%、陽性反応適中度（がん/要精検者数）8.73%であった。がん疑いは1人発見された。令和元年度に比べ、がん発見率は0.21ポイント、陽性反応適中度は2.1ポイント増加した。

検診受診率は令和元年までは16～17%台で推移していたが、コロナ感染症の影響で受診率、受診人数の低下が起こったものと思われる。しかし、検診精度（精検受診率、検診発見がん率、陽性反応適中度）の上昇により、検診発見がんの症例は増加した。

〈検診機関別受診結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数（率）	要精検者数	要精検率（%）
車 検 診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	6,730 (41.4%)	423	6.29
施 設 検 診 (病院・診療所)	9,519 (58.6%)	677	7.11
計	16,249 (100%)	1,100	6.77

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)
車 検 診	398	94.1	34	0.51
施 設 検 診	651	96.2	62	0.65
計	1,049	95.4	96	0.59

〈圏域別結果〉

区 分	対象者数	受診者数	受診率 (%)	要精検率 (%)	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)
東 部	45,081	6,840	15.17	4.87	318	95.5	25	0.37
中 部	22,648	2,976	13.14	8.74	244	93.8	14	0.47
西 部	47,740	6,433	13.48	7.88	487	96.1	57	0.89
計	115,469	16,249	14.07	6.77	1,049	95.4	96	0.59

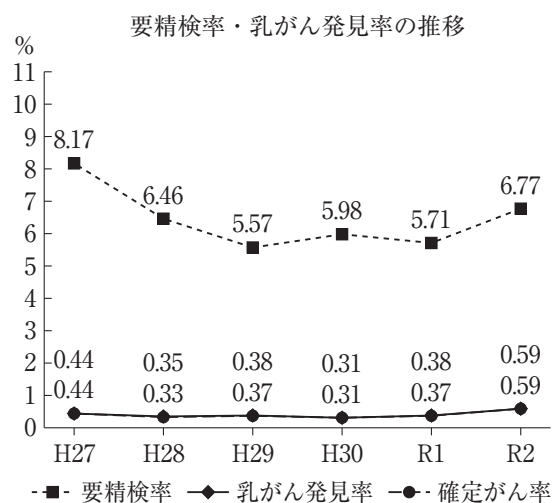
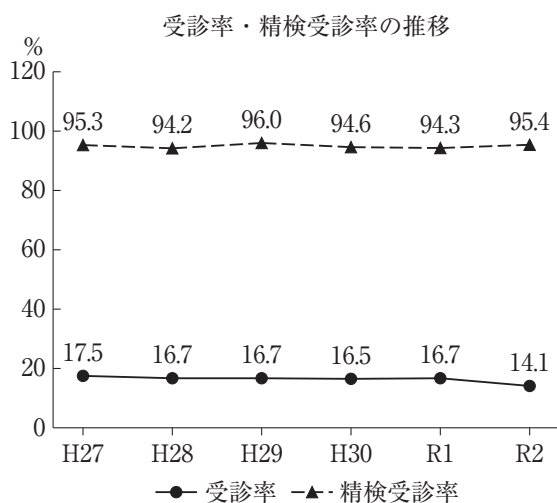
2. 乳がん検診発見乳がん確定調査結果

令和2年度の確定乳がんは96例で、前年度より23例増加した。確定乳癌の平均年齢は63.7歳で、60歳代の患者が最も多かった。早期癌は66.7%を占め、前年度とほぼ同率であった。しかし、初回受診者からステージ4の症例が2例あった。術式は乳房温存手術の割合が33.3%であり、前年度の34.2%と同様の傾向であった。

(1) 乳がん検診の受診者数及び受診率等の推移

区 分		平成 27年度	平成 28年度	平成28年度 鳥取市分含	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
一次検診	対象者数(人) A	118,248	115,469	115,469	115,469	115,469	115,469	115,469
	受診者数(人) B	20,666	13,226	19,245	19,317	19,075	19,228	16,249
	受診率(%) C = B/A	32.3	27.6	33.1	32.3	31.9	33.1	—
一次検診結果	異常認めず(人) D	18,977	12,265	18,001	18,242	17,935	18,131	15,149
	要精検者数(人) E	1,689	961	1,244	1,075	1,140	1,097	1,100
	要精検率(%) F = E/B 指標 11.0%以下	8.17	7.27	6.46	5.57	5.98	5.71	6.77
精密検査	精検受診者数(人) G	1,609	896	1,172	1,032	1,078	1,034	1,049
	精検受診率(%) H = G/E	95.3	93.2	94.2	96.0	94.6	94.3	95.4
精密検査結果	乳がんの者(人) I	91(3)	49(2)	67(3)	74(3)	60(1)	73(0)	96(1)
	乳がん発見率(%) J = I/B 指標 0.23%以上	0.44	0.37	0.35	0.38	0.31	0.38	0.59
	陽性反応適中度(%) K = I/E 指標 2.5%以上	5.39	5.10	5.39	6.88	5.26	6.65	8.73
確定調査結果	確定がん数(人) L	90	45	63	72	60	73	96
	確定がん率(%) M = L/B	0.44	0.34	0.33	0.37	0.31	0.37	0.59

- * 1 精密検査結果欄の () 内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。
- * 4 確定がん数について
 - ・確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上
- * 5 平成30年度報告（平成29年度実績）から、検診方法がマンモグラフィのみとなった。



(2) 令和2年度乳がん検診（マンモグラフィーのみの受診者）

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年齢	対象者数 a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b/a	一次検診結果		要精検率 (%) e = d/b
				要精検者数 d	異常認めず	
40～44歳	3,950	2,002	50.7	195	1,807	9.74
45～49歳	3,400	1,719	50.6	181	1,538	10.53
50～54歳	3,868	1,696	43.8	120	1,576	7.08
55～59歳	5,767	1,538	26.7	91	1,447	5.92
60～64歳	11,161	2,515	22.5	153	2,362	6.08
65～69歳	16,514	2,167	13.1	113	2,054	5.21
70～74歳	15,344	2,761	18.0	135	2,626	4.89
75～79歳	16,002	1,126	7.0	66	1,060	5.86
80歳以上	39,463	725	1.8	46	679	6.34
計	115,469	16,249	14.1	1,100	15,149	6.77

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 f	精密検査受診率 (%) g = f / d	精密検査結果				乳がん発見率 (%) i = h / b	陽性反応適中率 (%) j = h / d
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん h		
40～44歳	184	94.4	80	98	0	6	0.30	3.08
45～49歳	170	93.9	61	99	0	10	0.58	5.52
50～54歳	120	100.0	51	62	0	7	0.41	5.83
55～59歳	86	94.5	46	37	0	3	0.20	3.30
60～64歳	149	97.4	67	57	1	24	0.95	15.69
65～69歳	106	93.8	55	40	0	11	0.51	9.73
70～74歳	129	95.6	59	53	0	17	0.62	12.59
75～79歳	62	93.9	29	23	0	10	0.89	15.15
80歳以上	43	93.5	20	15	0	8	1.10	17.39
計	1,049	95.4	468	484	1	96	0.59	8.73

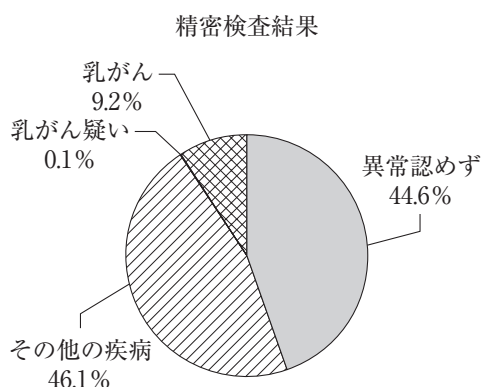
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

検診機関	一次検診受診者数 a'	一次検診結果		要精検率 (%) c' = b' / a'
		要精検者数 b'	異常認めず	
保健事業団	6,488	408	6,080	6.29
病院	7,571	529	7,042	6.99
診療所	1,948	148	1,800	7.60
中国労働衛生協会	242	15	227	6.20
計	16,249	1,100	15,149	6.77

b. 精密検査結果

検診機関	精密検査受診者数 d'	精密検査受診率 (%) f' = d' / b'	精密検査結果				乳がん発見率 (%) h' = g' / a'	陽性反応適中率 (%) I' = h' / b'
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん g'		
保健事業団	384	94.12	191	160	0	33	0.51	8.09
病院	509	96.22	210	253	1	45	0.59	8.51
診療所	142	95.95	60	65	0	17	0.87	11.49
中国労働衛生協会	14	93.3	7	6	0	1	0.41	6.67
計	1,049	95.4	468	484	1	96	0.59	8.73



4) 令和2年度乳がん検診受診状況(マンモグラフィのみの受診者)

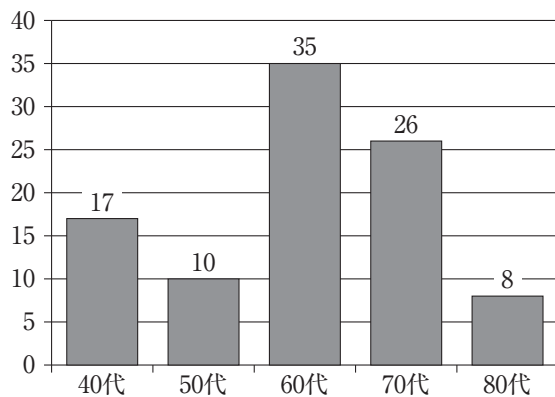
市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員						がん発見率(%) Q=O/D	陽性反応 適中度(%) R=O/H		
	対象者数 A	車検診 B	施設検診 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	車検診 F	施設検診 G	計 H=F+G	要精検率 (%) I=H/D	精 受診者数 J	精検受診 率(%) K=J/H	異常 認めず L	その他 の疾病 M	がん 疑い N			がん O	有所見者 P=M+N+O
鳥取市	35,981	2,117	3,122	5,239	14.6	132	140	272	5.19	261	96.0	111	129	0	21	150	0.401	7.7
米子市	27,725	438	3,103	3,541	12.8	28	275	303	8.56	300	99.0	123	141	0	36	177	1.017	11.9
倉吉市	10,453	366	533	899	8.6	34	55	89	9.90	84	94.4	35	42	0	7	49	0.779	7.9
境港市	6,910	312	720	1,032	14.9	22	51	73	7.07	67	91.8	19	39	0	9	48	0.872	12.3
岩美町	2,704	142	316	458	16.9	7	9	16	3.49	15	93.8	7	8	0	0	8	0.000	0.0
八頭町	3,681	547	165	712	19.3	16	10	26	3.65	24	92.3	15	7	0	2	9	0.281	7.7
若桜町	908	147	19	166	18.3	6	2	8	4.82	7	87.5	5	1	0	1	2	0.602	12.5
智頭町	1,807	104	161	265	14.7	5	6	11	4.15	11	100.0	6	4	0	1	5	0.377	9.1
湯梨浜町	3,347	450	174	624	18.6	38	18	56	8.97	51	91.1	29	18	1	3	22	0.481	5.4
三朝町	1,544	158	52	210	13.6	7	9	16	7.62	14	87.5	7	7	0	0	7	0.000	0.0
北栄町	3,260	475	134	609	18.7	31	16	47	7.72	46	97.9	23	20	0	3	23	0.493	6.4
琴浦町	4,044	442	192	634	15.7	29	23	52	8.20	49	94.2	23	25	0	1	26	0.158	1.9
南部町	2,416	153	270	423	17.5	5	26	31	7.33	31	100.0	15	9	0	7	16	1.655	22.6
伯耆町	2,584	191	180	371	14.4	12	11	23	6.20	19	82.6	13	5	0	1	6	0.270	4.3
日吉津村	649	86	67	153	23.6	6	6	12	7.84	12	100.0	8	4	0	0	4	0.000	0.0
大山町	4,109	320	159	479	11.7	20	14	34	7.10	29	85.3	10	16	0	3	19	0.626	8.8
日南町	1,521	159	35	194	12.8	12	2	14	7.22	13	92.9	9	4	0	0	4	0.000	0.0
日野町	962	123	0	123	12.8	13	0	13	10.57	12	92.3	8	3	0	1	4	0.813	7.7
江府町	864	0	117	117	13.5	0	4	4	3.42	4	100.0	2	2	0	0	2	0.000	0.0
合計	115,469	6,730	9,519	16,249	14.1	423	677	1,100	6.77	1,049	95.4	468	484	1	96	581	0.591	8.7
東部	45,081	3,057	3,783	6,840	15.2	166	167	333	4.87	318	95.5	144	149	0	25	174	0.365	7.5
中部	22,648	1,891	1,085	2,976	13.1	139	121	260	8.74	244	93.8	117	112	1	14	127	0.470	5.4
西部	47,740	1,782	4,651	6,433	13.5	118	389	507	7.88	487	96.1	207	223	0	57	280	0.886	11.2

(3) 令和2年度検診発見乳がん追跡調査結果

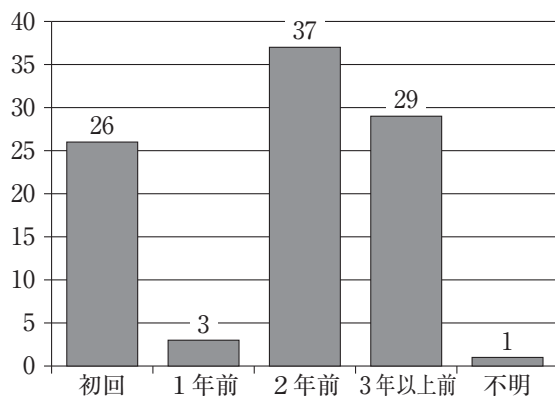
1) 確定乳癌96例

東部地区(25例)：鳥取市21例 若桜町1例 八頭町2例 智頭町1例
 中部地区(14例)：倉吉市7例 北栄町3例 湯梨浜町3例 琴浦町1例
 西部地区(57例)：米子市36例 境港市9例 大山町3例 南部町7例
 伯耆町1例 日野町1例

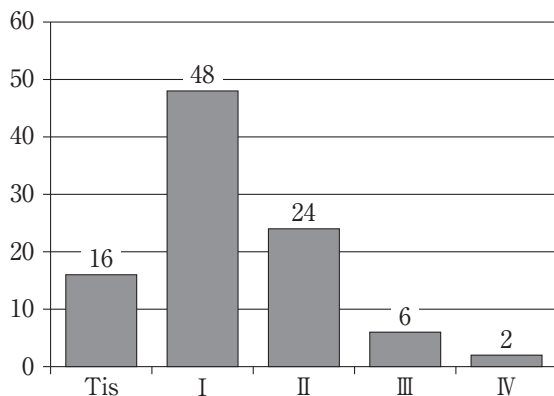
2) 年齢構成



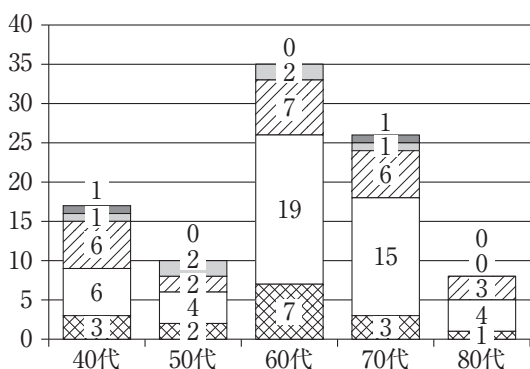
3) 検診歴



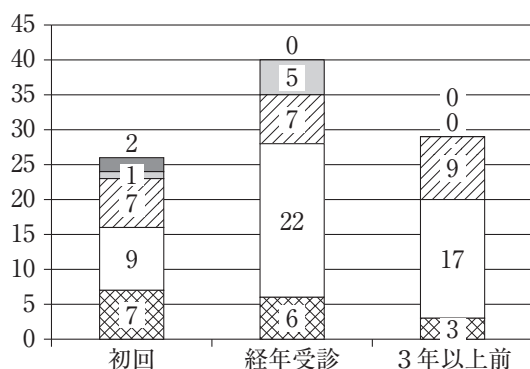
4) 病期



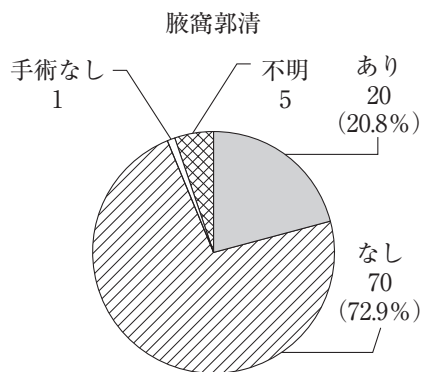
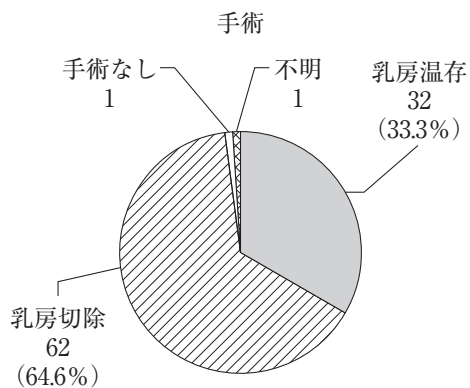
年代と病期



受診歴と病期



5) 治療



まとめ

1. 令和2年度の乳癌確定症例は96例であった。前年度より23例増加していた。地域ごとの患者数は西部地区での発見乳癌が多かった。
2. 発見癌患者の平均年齢は63.7歳であった。前年度（64.3歳）と同様で、60代の患者が多かった。近年国内の罹患率のピークは65～69歳であり、国内の状況に一致するものであった。
3. 検診受診歴は初回受診27.1%（前年31.5%）、経年受診41.7%（前年46.6%）であった。
4. 病期に関しては、66.7%が早期癌症例であり、前年度の68.5%とほぼ同様であった。初回受診者から2例のStage IV症例が発見されていた。
5. 術式に関しては、乳房部分切除（乳房温存）が33.3%で前年度の34.2%と同様の傾向であった。

5. 大腸がん検診

1. 大腸がん検診実績

令和2年度の対象者数は189,132人（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）で、うち受診者数は52,107人（前年度比5,369人減）であった。受診者数は平成22年度以来、受診率は平成23年度以来の低い値となった。なお、40歳から69歳の値（国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法）は、対象者数76,814人、受診者数24,213人、受診率31.5%であった。

一次検査による要精検者数は4,654人で要精検率は8.93%（前年度比0.02ポイント減）であった。要精検者のうち精密検査を受診したのは3,563人で精検受診率は76.6%（前年度比1.3ポイント減）であった。また、精検の結果大腸がんであったのが149人（前年度比41人減）で、がん発見率は0.29%（前年度比0.04ポイント減）、陽性反応的中度は3.2%（前年度比0.5ポイント減）であった。要精検率は国が示す許容値を上回っているが、がん発見率、陽性反応的中度は国の許容値を満たしており、例年と同様に精度は保たれていると考えられる。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数（率）	要精検者数	要精検率（％）			
			計	東部	中部	西部
地域検診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	17,763 (34.1%)	1,327	7.5	7.0	7.8	7.7
施設検診 (病院・診療所)	34,344 (65.9%)	3,327	9.7	8.8	12.0	10.0
計	52,107 (100%)	4,654	8.9	8.2	9.5	9.5

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精 検 受診率 (%)	がん	がん発見率（％）			
				計	東部	中部	西部
地 域 検 診	1,049	79.1	36	0.203	0.226	0.188	0.186
施 設 検 診	2,514	75.6	113	0.329	0.272	0.341	0.384
計	3,563	76.6	149	0.286	0.258	0.251	0.336

〈圏域別結果〉

(1) 地域検診

区 分	要精検者数	要 精 検 率	精検受診者数	精検受診率	が ん 疑 い	が ん	がん発見率
東 部	498	7.0	391	78.5	2	16	0.226
中 部	456	7.8	358	78.5	3	11	0.188
西 部	373	7.7	300	80.4	0	9	0.186
計	1,327	7.5	1,049	79.1	5	36	0.203

(2) 施設検診

区 分	要精検者数	要 精 検 率	精検受診者数	精検受診率	が ん 疑 い	が ん	がん発見率
東 部	1,350	8.8	1,063	78.7	3	42	0.272
中 部	491	12.0	358	72.9	—	14	0.341
西 部	1,486	10.0	1,093	73.6	2	57	0.384
計	3,327	9.7	2,514	75.6	5	113	0.329

2. 大腸がん検診発見大腸がん確定調査結果

検診で発見された大腸がん及びがん疑い159例について確定調査を行った結果、確定癌145例（地域検診35例、施設検診110例）、腺腫2例、その他12例であった。そのうち早期がんは91例、早期癌率は62.8%であった。令和元年度の確定癌190例に比べ、令和2年度は2割減となっており、コロナの影響で受診控えがあったことが考えられる。

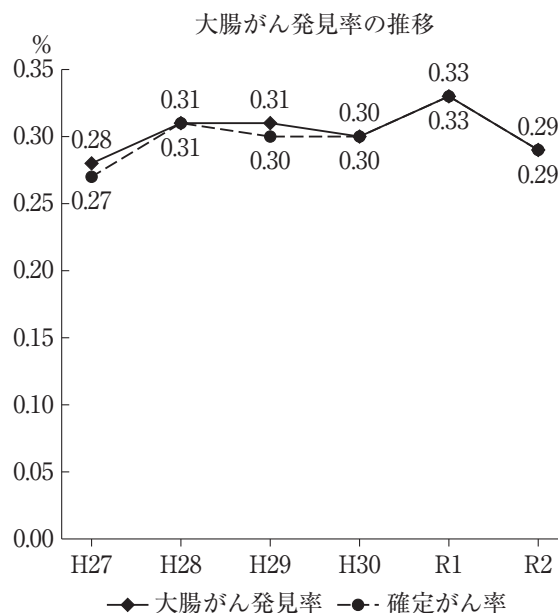
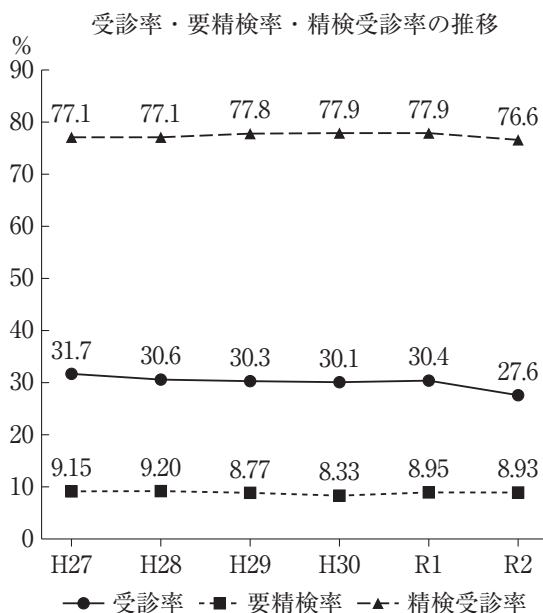
調査の結果は、以下のとおりであった。

- (1) 性及び年齢では男女とも例年通り65歳以上から癌が多く発見され、70歳代が一番多かった。令和元年度は40歳代から癌が5例発見されたが、令和2年度は2例であり、いずれも早期癌であった。
- (2) 部位では「R」と「S」が60%で、肉眼分類では「2」31.7%であった。早期癌91例の肉眼分類で「Is」「Isp」「Ip」の順で多かった。
- (3) 深達度「m」が46.2%、「sm」が16.6%で、早期癌率62.8%であった。
- (4) Dukes分類は「A」が67.6%、組織型分類は「Well」が53.8%、「Mod」が37.2%であった。
- (5) 治療方法は外科手術が31例(21.4%)、内視鏡下手術38例(26.2%)、内視鏡治療は74例(51.0%)であった。内視鏡治療の割合が多く、増加傾向である。ただし、外科手術の割合は例年10%程度だが、令和2年度は20%を超えている。
- (6) 逐年検診発見進行癌は16例（東部8例、中部3例、西部5例）であった。例年20例以上であるが、令和2年度は確定癌数が少なかった分、逐年検診発見進行癌も少なくなっている。

(1) 大腸がん検診の受診者数及び受診率等の推移

区 分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	190,556	189,132	189,132	189,132	189,132	189,132
	受 診 者 数(人) B	60,329	57,917	57,352	56,991	57,476	52,107
	受 診 率(%) C = B/A	31.7	30.6	30.3	30.1	30.4	27.6
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	54,810	52,596	52,323	52,245	52,330	47,453
	要 精 検 者 数(人) E	5,519	5,321	5,029	4,746	5,146	4,654
	要 精 検 率(%) F = E/B 指標：許容値7.0%以下	9.15	9.20	8.77	8.33	8.95	8.93
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	4,253	4,102	3,911	3,696	4,009	3,563
	精 検 受 診 率(%) H = G/E 指標：目標値90%以上	77.1	77.1	77.8	77.9	77.9	76.6
精 密 検 査 結 果	大 腸 がん の 者(人) I	166(14)	177(14)	175(7)	170(13)	190(6)	149(10)
	大 腸 がん 発 見 率(%) J = I/B 指標：許容値0.13%以上	0.28	0.31	0.31	0.30	0.33	0.29
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/E 指標：許容値1.9%以上	3.0	3.3	3.5	3.6	3.7	3.2
確 定 調 査 結 果	確 定 がん 数(人) L	165	181	171	170	190	149
	確 定 がん 率(%) M = L/B	0.27	0.31	0.30	0.30	0.33	0.29

- ※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上
- ※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- ※3 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出
- ※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 令和2年度大腸がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 a		一次検診 受診者数 b		受診率 (%) c = b / a			一次検診結果				要精検率 (%) e = d / b		
								要精検者数 d		異常認めず				
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,702	3,950	732	1,548	27.1	39.2	34.3	39	116	693	1,432	5.3	7.5	6.8
45～49歳	2,391	3,400	738	1,515	30.9	44.6	38.9	34	100	704	1,415	4.6	6.6	5.9
50～54歳	2,494	3,868	692	1,524	27.7	39.4	34.8	45	105	647	1,419	6.5	6.9	6.8
55～59歳	3,464	5,767	856	1,902	24.7	33.0	29.9	47	111	809	1,791	5.5	5.8	5.7
60～64歳	7,789	11,161	1,764	3,509	22.6	31.4	27.8	154	250	1,610	3,259	8.7	7.1	7.7
65～69歳	13,314	16,514	4,033	5,400	30.3	32.7	31.6	404	346	3,629	5,054	10.0	6.4	8.0
70～74歳	11,961	15,344	5,508	7,190	46.0	46.9	46.5	561	615	4,947	6,575	10.2	8.6	9.3
75～79歳	11,039	16,002	3,285	4,277	29.8	26.7	28.0	376	384	2,909	3,893	11.4	9.0	10.1
80歳以上	18,509	39,463	3,284	4,350	17.7	11.0	13.2	480	487	2,804	3,863	14.6	11.2	12.7
計	73,663	115,469	20,892	31,215	28.4	27.0	27.6	2,140	2,514	18,752	28,701	10.2	8.1	8.9
合計	189,132		52,107		27.6			4,654		47,453		8.9		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数 f		精密検査受診率 (%) g = f / d			精密検査結果								大腸がん発見率 (%) i = h y / b			陽性反応適中度 (%) j = h / d		
						異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん h							
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	32	80	82.1	69.0	72.3	10	50	22	28	0	0	0	2	0.000	0.129	0.088	0.0	1.7	1.3
45～49歳	26	69	76.5	69.0	70.9	12	35	14	34	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	35	83	77.8	79.0	78.7	7	39	26	41	0	0	2	3	0.289	0.197	0.226	4.4	2.9	3.3
55～59歳	32	83	68.1	74.8	72.8	2	28	26	51	1	0	3	4	0.350	0.210	0.254	6.4	3.6	4.4
60～64歳	116	203	75.3	81.2	79.0	23	77	90	122	0	0	3	4	0.170	0.114	0.133	1.9	1.6	1.7
65～69歳	313	280	77.5	80.9	79.1	41	90	254	180	1	0	17	10	0.422	0.185	0.286	4.2	2.9	3.6
70～74歳	425	510	75.8	82.9	79.5	63	150	335	331	2	2	25	27	0.454	0.376	0.410	4.5	4.4	4.4
75～79歳	303	303	80.6	78.9	79.7	45	78	246	218	0	1	12	6	0.365	0.140	0.238	3.2	1.6	2.4
80歳以上	349	321	72.7	65.9	69.3	70	88	265	213	2	1	12	19	0.365	0.437	0.406	2.5	3.9	3.2
計	1,631	1,932	76.2	76.8	76.6	273	635	1,278	1,218	6	4	74	75	0.354	0.240	0.286	3.5	3.0	3.2
合計	3,563		76.6			908		2,496		10		149		0.286			3.2		

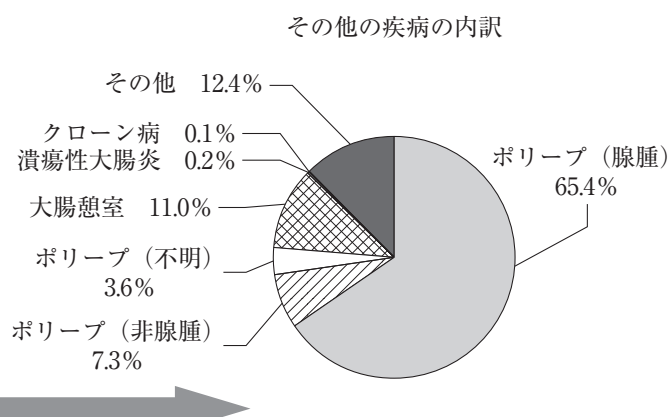
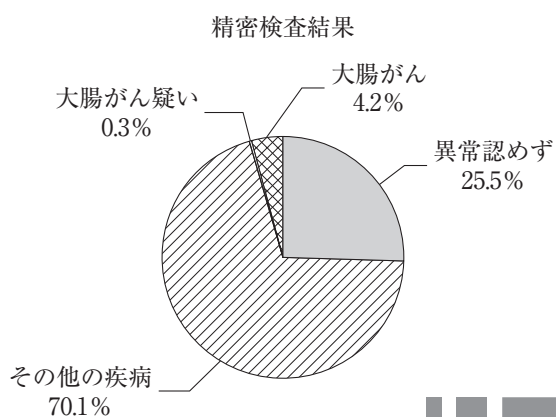
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数		一次検診結果				要精検率 (%)		
	a'		要精検者数 b'		異常認めず		c' = b' / a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保健事業団	6,474	10,407	576	695	5,898	9,712	8.9	6.7	7.5
中国労働衛生協会	283	599	22	34	261	565	7.8	5.7	6.3
地域検診小計	6,757	11,006	598	729	6,159	10,277	8.9	6.6	7.5
病院	4,159	5,329	463	462	3,696	4,867	11.1	8.7	9.7
診療所	9,976	14,880	1,079	1,323	8,897	13,557	10.8	8.9	9.7
施設検診小計	14,135	20,209	1,542	1,785	12,593	18,424	10.9	8.8	9.7
計	20,892	31,215	2,140	2,514	18,752	28,701	10.2	8.1	8.9
合計	52,107		4,654		47,453		8.9		

b. 精密検査結果

年齢	精密検査受診者数 d'		精密検査受診率 (%) e' = d' / b'			精密検査結果								大腸がん発見率 (%) g' = f' / a'			陽性反応適中度 (%) h' = f' / b'		
	d'		e'			異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん f'		g'			h'		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	452	550	78.5	79.1	78.8	72	178	363	350	3	2	14	20	0.216	0.192	0.201	2.4	3.5	2.7
中国労働衛生協会	18	29	81.8	85.3	83.9	7	10	11	17	0	0	0	2	0.000	0.334	0.227	0.0	9.1	3.6
地域検診小計	470	579	78.6	79.4	79.1	79	188	374	367	3	2	14	22	0.207	0.200	0.203	2.3	3.0	2.7
病院	325	323	70.2	69.9	70.1	65	98	249	218	0	0	11	7	0.264	0.131	0.190	2.4	1.5	1.9
診療所	836	1,030	77.5	77.9	77.7	129	349	655	633	3	2	49	46	0.491	0.309	0.382	4.5	4.3	4.0
施設検診小計	1,161	1,353	75.3	75.8	75.6	194	447	904	851	3	2	60	53	0.424	0.262	0.329	3.9	3.0	3.4
計	1,631	1,932	76.2	76.8	76.6	273	635	1,278	1,218	6	4	74	75	0.354	0.240	0.286	3.5	3.5	3.2
合計	3,563		76.6			908		2,496		10		149		0.286			3.2		



4) 令和2年度大腸がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員						がん発見率 (%) Q=O/D R=O/H			
	車検診		施設検診		計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	車検診 F	施設検診 G	計 H=F+G	要精検率 (%) I=H/D	精 受診者数 J	精 検 受診率 (%) K=J/H	異 認めず L	常 その他の 疾患 M		がん疑い N	が ん O	人 有所見者 P=M+N+O
	A	B	C	D														
鳥取市	59,003	3,473	13,256	16,729	28.4	232	1,144	1,376	8.2	1,097	79.7	251	800	3	43	846	0.257	3.1
米子市	44,119	0	11,007	11,007	24.9	0	1,119	1,119	10.2	831	74.3	224	560	1	46	607	0.418	4.1
倉吉市	17,150	643	2,432	3,075	17.9	56	273	329	10.7	264	80.2	80	175	0	9	184	0.293	2.7
境港市	11,206	760	2,244	3,004	26.8	53	211	264	8.8	219	83.0	68	141	1	9	151	0.300	3.4
岩美町	4,582	1,167	450	1,617	35.3	100	30	130	8.0	101	77.7	30	67	0	4	71	0.247	3.1
八頭町	6,230	1,846	758	2,604	41.8	128	81	209	8.0	164	78.5	26	131	0	7	138	0.269	3.3
若桜町	1,539	174	453	627	40.7	7	54	61	9.7	37	60.7	5	30	0	2	32	0.319	3.3
智頭町	3,027	420	499	919	30.4	31	41	72	7.8	55	76.4	11	40	2	2	44	0.218	2.8
湯梨浜町	5,676	1,009	820	1,829	32.2	73	109	182	10.0	129	70.9	28	97	0	4	101	0.219	2.2
三朝町	2,574	341	246	587	22.8	18	24	42	7.2	29	69.0	7	20	0	2	22	0.341	4.8
北栄町	5,516	2,527	212	2,739	49.7	193	28	221	8.1	162	73.3	44	109	3	6	118	0.219	2.7
琴浦町	6,751	1,324	391	1,715	25.4	116	57	173	10.1	132	76.3	17	111	0	4	115	0.233	2.3
南部町	4,011	293	1,151	1,444	36.0	22	105	127	8.8	83	65.4	29	49	0	5	54	0.346	3.9
伯耆町	4,257	997	161	1,158	27.2	86	19	105	9.1	69	65.7	27	40	0	2	42	0.173	1.9
日吉津村	1,008	246	229	475	47.1	17	27	44	9.3	23	52.3	6	17	0	0	17	0.000	0.0
大山町	6,967	1,209	0	1,209	17.4	93	0	93	7.7	73	78.5	25	47	0	1	48	0.083	1.1
日南町	2,551	534	35	569	22.3	49	5	54	9.5	47	87.0	14	32	0	1	33	0.176	1.9
日野町	1,553	254	0	254	16.4	19	0	19	7.5	15	78.9	3	12	0	0	12	0.000	0.0
江府町	1,412	546	0	546	38.7	34	0	34	6.2	33	97.1	13	18	0	2	20	0.366	5.9
合計	189,132	17,763	34,344	52,107	27.6	1,327	3,327	4,654	8.9	3,563	76.6	908	2,496	10	149	2,655	0.286	3.2
東部	74,381	7,080	15,416	22,496	30.2	498	1,350	1,848	8.2	1,454	78.7	323	1,068	5	58	1,131	0.258	3.1
中部	37,667	5,844	4,101	9,945	26.4	456	491	947	9.5	716	75.6	176	512	3	25	540	0.251	2.6
西部	77,084	4,839	14,827	19,666	25.5	373	1,486	1,859	9.5	1,393	74.9	409	916	2	66	984	0.336	3.6

(3) 令和2年度大腸がん検診発見大腸がん患者確定調査結果

表1 報告癌と確定癌

	地域検診				施設検診				計			総計
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	
報告癌	18	14	9	41	45	14	59	118	63	28	68	159
確定癌	15	12	8	35	41	13	56	110	56	25	64	145
腺腫	0	0	0	0	1	0	1	2	1	0	1	2
その他	3	2	1	6	3	1	2	6	6	3	3	12

表2 性及び年齢

年齢		40～	45～	50～	55～	60～	65～	70～	75～	80～	計
地域	男	0	0	0	1	0	3	4	3	3	14
	女	1	0	0	1	0	4	6	2	7	21
	計	1	0	0	2	0	7	10	5	10	35
施設	男	0	0	1	3	3	13	22	8	9	59
	女	1	0	2	3	4	6	22	5	8	51
	計	1	0	3	6	7	19	44	13	17	110
計	男	0	0	1	4	3	16	26	11	12	73
	女	2	0	2	4	4	10	28	7	15	72
総計		2	0	3	8	7	26	54	18	27	145

表3 部位

	地域検診				施設検診				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
P	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R	4	4	4	12	8	3	20	31	43(29.7)
S	7	2	1	10	7	8	19	34	44(30.3)
D	1	1	0	2	5	0	2	7	9(6.2)
T	0	1	1	2	6	0	5	11	13(9.0)
A	2	4	2	8	10	2	7	19	27(18.6)
C	1	0	0	1	3	0	3	6	7(4.8)
V	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	2	0	0	2	2(1.4)
計	15	12	8	35	41	13	56	110	145

表4 大きさ

大きさ (mm)	地域検診				施設検診				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
0~10	6	1	4	11	4	2	14	20	31(21.4)
11~20	6	2	1	9	16	5	18	39	48(33.1)
21~50	2	7	1	10	17	4	22	43	53(36.6)
51~	0	1	2	3	3	0	1	4	7(4.8)
不明	1	1	0	2	1	2	1	4	6(4.1)
計	15	12	8	35	41	13	56	110	145

表5 肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
0	23	68	91(62.8)
1	1	5	6(4.1)
2	10	36	46(31.7)
3	1	1	2(1.4)
4	0	0	0
5	0	0	0
不明	0	0	0
計	35	110	145

表6 O型の肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
I p	6	10	16(17.6)
I sp	3	15	18(19.8)
I s	9	23	32(35.2)
II a	1	12	13(14.3)
II a + II c	4	6	10(11.0)
II b	0	0	0
II c	0	2	2(2.2)
III	0	0	0
その他	0	0	0
不明	0	0	0
計	23	68	91

表7 深達度

深達度	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
m	12	3	5	16	6	25	67(46.2)
sm	0	3	0	8	3	10	24(16.6)
不明	0	0	0	0	0	0	0
小計	12	6	5	24	9	35	91(62.8)
mp	1	1	0	3	0	8	13(9.0)
ss	2	5	2	10	3	10	32(22.1)
se	0	0	1	4	0	2	7(4.8)
si	0	0	0	0	1	0	1(0.7)
不明	0	0	0	0	0	1	1(0.7)
計	15	12	8	41	13	56	145

表8 Dukes分類

Dukes分類	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
A	12	9	5	23	9	40	98(67.6)
B	2	3	1	9	1	8	24(16.6)
C	0	0	2	3	2	5	12(8.3)
D	0	0	0	2	0	1	3(2.1)
不明	1	0	0	4	1	2	8(5.5)
計	15	12	8	41	13	56	145

表9 組織型分類

組織型	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
Wel	12	6	5	24	6	25	78(53.8)
Mod	3	5	1	15	4	26	54(37.3)
Por	0	1	0	0	1	0	2(1.4)
Muc	0	0	1	1	0	1	3(2.1)
その他	0	0	1	0	2	4	7(4.8)
不明	0	0	0	1	0	0	1(0.7)
計	15	12	8	41	13	56	145

表10 治療法

治療方法	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
外科手術	1	7	3	7	2	11	31(21.4)
内視鏡下手術	2	1	0	15	5	15	38(26.2)
内視鏡治療	12	4	5	18	6	29	74(51.0)
その他不明	0	0	0	1	0	1	2(1.4)
計	15	12	8	41	13	56	145

6. 肝 臓 が ん 検 診

1. 鳥取県における肝臓がん検診事業の沿革

年 度	検 診 事 業	実 施 方 法
H 7～9	肝臓がん検診（単県）	・基本健診と同時実施 ・3年間のうち1年間のみ全市町村が実施
H10～13	肝臓がん検診（単県）	・原則、基本健診と同時実施。単独も可 ・希望市町村のみ。複数年にわたる継続実施も可 ・定期検査開始
H14	肝炎ウイルス検査（国庫）	・基本健診と同時実施（H18までの緊急対策） ・節目検診（40-70歳の5歳刻み）+節目外（要指導者等）
	肝臓がん検診（単県）	・H10-13と同様
H15～16	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14-と同様
	肝臓がん検診（単県）	・肝炎ウイルス対象外の者を対象とする補完的検診に ・検査内容を肝炎ウイルス検査に統一 ・検診事業はH16で廃止（定期検査は継続）
H17～18	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14-と同様
H19～	肝炎ウイルス検査（国庫）	・節目検診（40歳のみ+未受診者）+節目外（要指導者等）
		・H23年より節目検診（40歳以上の5歳刻み）に個別受診勧奨

2. 肝臓がん検診実績

1) 令和2年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

令和2年度は19市町村で実施し、対象者は205,096人（前年度207,065人）のうち受検者数は4,399人（前年度4,872人）で、受検率は2.1%（前年度2.4%）であった。要精検者数はHBs抗原陽性者60人で陽性率1.4%（前年度0.9%）、HCV抗体陽性者11人で陽性率0.3%（前年度0.1%）であった。要精検者のうち精密検査受診者は48人で受診率は67.6%（前年度57.7%）と前年より9.9ポイント増加した。精検受診者48人中肝臓がん0人であった（がん発見率0%）。

2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対する定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は19市町村で実施された。結果は以下のとおりである。

区 分	対 象 者	受 診 者	受 診 率	定 期 検 査 結 果			
				慢性肝炎	肝 硬 変	肝臓がん	がん疑い
B型肝炎	2,014人	1,022人	50.7%	155人 (15.2%)	14人 (1.4%)	6人 (0.6%)	4人 (0.4%)
C型肝炎	741人	385人	52.0%	43人 (11.2%)	5人 (1.3%)	2人 (0.5%)	1人 (0.3%)

受診率は昨年より2%増加し51.07%であった。

※肝臓がんと報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

3) 平成7年度から令和2年度の26年間を集計すると、受診者総数は175,200人、HBs抗原陽性者3,693人 陽性率2.11%、HCV抗体陽性者3,754人 陽性率2.14%であった。年齢別陽性率はB型は65-69歳をピークに山型を示し、C型は高齢になるほど陽性率が高かった。

3. 肝臓がん検診発見肝臓がん追跡調査結果

- (1) 令和2年度肝炎ウイルス検査からは肝臓がんは発見されなかった。また、肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の結果、B型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が4名、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が1名であった。
- (2) 平成7年から開始した肝臓がん検診によって発見された肝臓がんは令和2年度までで31人で現在生存中の患者は4人であった。平成10年から開始した定期検査によって発見された肝臓がんは令和2年度までで191人で現在生存中の患者は44人である。

(1) 肝炎ウイルス検査受診者数等の推移

(1) 一次検診

年 度	受 検 者 数	HBs陽性者	HBs陽性率	HCV陽性者	HCV陽性率
H30	5,521	58	1.1	15	0.3
R 1	4,872	46	0.9	6	0.1
R 2	4,399	60	1.4	11	0.3

※各陽性者数にはB型、C型ともに陽性である者が含まれるため、各陽性者数の合計は下段の要精検者数に一致しない。

(2) 精密検査

年 度	要精検者数	精検受診者数	精検受診率	が ん	がん発見率
H30	72	46	63.9	1	0.02
R 1	52	30	57.7	0	0.00
R 2	71	48	67.6	0	0.00

※がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

(3) 年齢階級別受診状況

区 分	令和2年度			平成7～令和2年度		
	受 診 者 数	HBs陽性率	HCV陽性率	受 診 者 数	HBs陽性率	HCV陽性率
40～44歳	935	0.5	0.1	19,068	1.70	0.49
45～49歳	386	1.6	0.3	13,314	2.70	1.10
50～54歳	320	0.9	0.0	14,696	2.92	1.35
55～59歳	330	2.4	0.0	18,097	2.55	1.84
60～64歳	627	1.3	0.6	30,688	2.20	2.27
65～69歳	792	1.4	0.0	33,055	2.09	2.52
70～74歳	700	1.4	0.4	27,204	1.76	2.93
75～79歳	161	3.7	0.6	10,758	1.49	3.54
80歳以上	148	2.0	0.7	8,320	1.36	3.28
計	4,399	1.4	0.3	175,200	2.11	2.14

(2) 令和2年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年齢階級	一次検診受診者数 a		一 次 検 診 結 果								HBs抗原陽性率 (%)			HCV抗体陽性率 (%)		
			異常認めず		HBs抗原のみ陽性 b		HCV抗体のみ陽性 c		HBs・HCVともに陽性 d		e = (b + d) / a			f = (c + d) / a		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	349	586	345	584	4	1	0	1	0	0	1.1	0.2	0.5	0.0	0.2	0.1
45～49歳	172	214	169	210	2	4	1	0	0	0	1.2	1.9	1.6	0.6	0.0	0.3
50～54歳	134	186	133	184	1	2	0	0	0	0	0.7	1.1	0.9	0.0	0.0	0.0
55～59歳	162	168	156	166	6	2	0	0	0	0	3.7	1.2	2.4	0.0	0.0	0.0
60～64歳	296	331	289	326	5	3	2	2	0	0	1.7	0.9	1.3	0.7	0.6	0.6
65～69歳	436	356	430	351	6	5	0	0	0	0	1.4	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0
70～74歳	382	318	373	314	7	3	2	1	0	0	1.8	0.9	1.4	0.5	0.3	0.4
75～79歳	94	67	89	65	4	2	1	0	0	0	4.3	3.0	3.7	1.1	0.0	0.6
80歳以上	78	70	76	68	1	2	1	0	0	0	1.3	2.9	2.0	1.3	0.0	0.7
計	2,103	2,296	2,060	2,268	36	24	7	4	0	0	1.7	1.0	1.4	0.3	0.2	0.3
合 計	4,399		4,328		60		11		0		1.4			0.3		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	区分	精密検査受診者		精密検査対象者												結果				
		無症候性キャリア		脂肪肝		慢性肝炎		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の疾病		その他		肝臓がん発見率 (%) h = g/a		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		男	女
		3	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0
40~44歳	B型陽性	3	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
45~49歳	全体	3	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	B型陽性	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
50~54歳	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	B型陽性	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
55~59歳	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
60~64歳	B型陽性	3	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
65~69歳	全体	3	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	B型陽性	4	3	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
70~74歳	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	6	2	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	B型陽性	3	2	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
75~79歳	C型陽性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	4	2	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
80歳以上	B型陽性	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	全体	24	19	21	14	1	0	0	3	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	
	B型陽性	4	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	全体	28	20	22	14	1	0	2	3	0	2	0	0	0	0	1	1	2	0	
	B型陽性	43	35	35	21	1	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	
	C型陽性	5	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	
合計	全体	48	36	36	21	1	0	5	5	2	2	0	0	0	0	2	2	2	0	
	B型陽性	48	36	36	21	1	0	5	5	2	2	0	0	0	0	2	2	2	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。
 ※2 がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診 受診者数 a'		一 次 検 診 結 果									HBs抗原陽性率 (%) $e' = (b' + d')/a'$			HCV抗体陽性率 (%) $f' = (c' + d')/a'$		
			異常認めず		HBs抗原 のみ陽性 b'		HCV抗体 のみ陽性 c'		HBs・HCV ともに陽性 d'		男	女	計	男	女	計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女							計
直 営	21	30	21	29	0	0	0	1	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	2.0	
保 健 事 業 団	447	607	437	601	10	6	0	0	0	0	2.2	1.0	1.5	0.0	0.0	0.0	
中国労働衛生協会	32	44	32	43	0	1	0	0	0	0	0.0	2.3	1.3	0.0	0.0	0.0	
病 院	451	427	444	420	7	4	0	3	0	0	1.6	0.9	1.3	0.0	0.7	0.3	
診 療 所	1,152	1,188	1,126	1,175	19	13	7	0	0	0	1.6	1.1	1.4	0.6	0.0	0.3	
計	2,103	2,296	2,060	2,268	36	24	7	4	0	0	1.7	1.0	1.4	0.3	0.2	0.3	
合 計	4,399		4,328		60		11		0		1.4			0.3			

4) 令和2年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査受診状況

実施市町村数=19

市町村名	対象者数			受診者数			陽性者数			精密検査結果別人員							がん発見率 (%) R = P/D			
	A	B	C	施設検診	計	受診率 (%) E = D/A	HBs抗原のみ陽性	HCV抗体のみ陽性	HBs抗原HCV抗体ともに陽性	H	I = (F+H)/D	HBs抗原陽性率 (%) I = (F+H)/D	HCV抗体陽性率 (%) J = (G+H)/D	K	精受診率 (%) I = (K)/(F+G+H)	M		N	O	P
鳥取市	63,670	377	951		1,328	2.1	17	1	0	1.3	0.1	14	77.8	11	2	0	0	2	0	0.000
米子市	64,458	0	1,151		1,151	1.8	17	4	0	1.5	0.3	15	71.4	14	1	0	0	1	0	0.000
倉吉市	16,789	77	237		314	1.9	8	4	0	2.5	1.3	9	75.0	5	3	0	0	3	0	0.000
境港市	11,206	73	180		253	2.3	2	0	0	0.8	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000
岩美町	4,607	57	0		57	1.2	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000
八頭町	4,878	112	0		112	2.3	2	0	0	1.8	0.0	2	100.0	1	1	0	0	1	0	0.000
若桜町	1,450	3	7		10	0.7	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000
智頭町	3,081	42	27		69	2.2	2	0	0	2.9	0.0	1	50.0	1	0	0	0	0	0	0.000
湯梨浜町	7,985	31	190		221	2.8	6	0	0	2.7	0.0	3	50.0	3	0	0	0	0	0	0.000
三朝町	2,574	51	58		109	4.2	0	1	0	0.0	0.9	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000
北栄町	3,891	32	96		128	3.3	1	0	0	0.8	0.0	1	100.0	0	1	0	0	1	0	0.000
琴浦町	4,531	47	27		74	1.6	1	0	0	1.4	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000
南部町	4,410	45	222		267	6.1	0	1	0	0.0	0.4	1	100.0	0	1	0	0	1	0	0.000
伯耆町	843	86	0		86	10.2	1	0	0	1.2	0.0	1	100.0	0	1	0	0	1	0	0.000
日吉津村	968	3	0		3	0.3	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000
大山町	4,731	84	0		84	1.8	2	0	0	2.4	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000
日南町	1,349	33	34		67	5.0	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000
日野町	2,263	4	38		42	1.9	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000
江府町	1,412	24	0		24	1.7	1	0	0	4.2	0.0	1	100.0	1	0	0	0	0	0	0.000
合計	205,096	1,181	3,218		4,399	2.1	60	11	0	1.4	0.3	48	67.6	36	10	0	0	10	0	0.000
東部	77,686	591	985		1,576	2.0	21	1	0	1.3	0.1	17	77.3	13	3	0	0	3	0	0.000
中部	35,770	238	608		846	2.4	16	5	0	1.9	0.6	13	61.9	8	4	0	0	4	0	0.000
西部	91,640	352	1,625		1,977	2.2	23	5	0	1.2	0.3	18	64.3	15	3	0	0	3	0	0.000

※ がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上。

(3) 平成7～令和2年度肝臓がん検診により発見された肝炎ウイルス陽性者の定期検査結果

1) 令和2年度B型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果（年齢階級別）

年齢	定期検査結果														
	健康指導対象者						検査診断名								
	健康指導対象者 (令和2年4月1日現在の実人員)		受診者数 (令和3年10月31日現在の実人員)		慢性肝炎		脂肪肝		脂肪肝		肝臓がん		その他の疾病		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
40～44歳	10	9	3	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	30	24	9	4	5	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	15	33	3	15	2	13	0	0	0	0	1	0	0	0	0
55～59歳	39	62	12	33	8	27	0	1	4	5	0	0	0	0	0
60～64歳	85	113	38	55	23	37	1	3	11	14	1	0	0	1	0
65～69歳	121	171	55	103	45	81	2	2	6	16	2	0	0	0	0
70～74歳	175	269	81	162	63	133	1	6	12	19	3	1	0	1	0
75～79歳	153	208	89	120	65	100	3	4	17	9	2	3	0	2	0
80歳以上	140	357	78	160	51	130	1	3	19	18	1	1	0	3	4
計	768	1,246	368	654	264	527	10	19	72	83	9	5	1	6	12
合計 (比率%)	2,014		1,022 (100)		791 (77.4)	29 (2.7)			14 (1.4)	155 (15.2)	1 (0.1)	4 (0.4)	6 (0.6)	18 (1.8)	4 (0.4)

※ 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

2) 令和2年度C型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果（年齢階級別）

年齢	定期検査結果														
	健康指導対象者						検査診断名								
	健康指導対象者 (令和2年4月1日現在の実人員)		受診者数 (令和3年10月31日現在の実人員)		慢性肝炎		脂肪肝		脂肪肝		肝臓がん		その他の疾病		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
40～44歳	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	5	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	7	5	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
60～64歳	14	20	6	13	2	2	0	0	0	2	0	0	0	4	8
65～69歳	29	20	11	14	2	3	0	0	0	3	1	0	0	1	7
70～74歳	34	68	17	37	3	6	1	1	1	4	0	1	0	11	25
75～79歳	39	95	22	62	5	21	3	3	3	7	0	0	1	10	30
80歳以上	88	304	46	152	11	68	2	8	6	17	1	2	0	24	52
計	222	519	104	281	23	100	6	12	10	33	2	3	0	8	124
合計 (比率%)	741		385 (100)		123 (31.9)	18 (4.7)			5 (1.3)	43 (11.2)	0 (0.0)	1 (0.3)	2 (0.5)	8 (2.1)	182 (47.3)

※ 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

(4) 平成7～令和2年度肝臓がん検診結果

年齢階級	一次検診 受診者数 A		HBs抗原陽性					HCV抗体陽性				
			陽性者数 B		陽性率(%) C = B/A			陽性者数 D		陽性率(%) E = D/A		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	計
40～44歳	6,407	12,661	133	191	2.08	1.51	1.70	42	51	0.66	0.40	0.49
45～49歳	4,337	8,977	132	227	3.04	2.53	2.70	44	103	1.01	1.15	1.10
50～54歳	4,439	10,257	149	280	3.36	2.73	2.92	41	157	0.92	1.53	1.35
55～59歳	5,575	12,522	150	312	2.69	2.49	2.55	82	251	1.47	2.00	1.84
60～64歳	11,939	18,749	320	356	2.68	1.90	2.20	219	478	1.83	2.55	2.27
65～69歳	14,396	18,659	332	360	2.31	1.93	2.09	309	525	0.00	2.81	2.52
70～74歳	11,639	15,565	221	257	1.90	1.65	1.76	320	478	2.75	3.07	2.93
75～79歳	4,301	6,457	73	87	1.70	1.35	1.49	151	230	3.51	3.56	3.54
80歳以上	3,108	5,212	34	79	1.09	1.52	1.36	116	157	3.73	3.01	3.28
計	66,141	109,059	1,544	2,149	2.33	1.97	2.11	1,324	2,430	2.00	2.23	2.14
合計	175,200		3,693		2.11			3,754		2.14		

(5) 肝臓がん検診及び定期検査による発見がん患者追跡調査結果について

- (1) 令和2年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査による発見がんまたはがん疑い発見がんなし

(2) 令和2年度定期検査による発見がんまたはがん疑い

No	年齢	性	市町村	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考
1	85	男	鳥取市	肝臓がん	その他	2021/6/10	単発	S7	45×30	腫瘍	無	B	2.6	820	死亡 胃癌、前立腺癌、上行結腸癌の合併あり 2021/7/9胃亜全摘術施行、結腸切除、肝切除術、両側精巣切除 2021/7/19死亡(急性心不全)
2	85	女	米子市	肝臓がん	TAE	2020/11/26	単発	S7	12×10	腫瘍	無	B	2.4	25	生存 2020/12/4 TACE実施
3	73	女	倉吉市	肝臓がん	RFA	2021/1/28	単発	S5	8×8	腫瘍	有	B	2.6	16.22	生存 2021/1/28 エコー下にRFAを行った。
4	64	男	伯耆町	肝臓がん	肝切除	2017/11/24	2個	S2、S5	33×26 20×20	腫瘍	無	B	18.8	48	生存 2017/11/24 部分切除2か所
5	79	女	倉吉市	肝臓がん	RFA	2014/2	単発	S3	12	腫瘍	有	C			生存 2014年2月 S5:12mm大 肝がんに対しRFA 以後再発なく経過観察中

(3) 平成10年度～令和元年度肝炎ウイルス陽性者定期検査による発見癌追跡調査報告

No	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2022年1月現在
1	71	男	切除	95. 8.	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C			再発、6年11か月後死亡	
2	63	男	切除	97. 2. 26	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C			4年6か月後死亡	
3	71	男	TAE	97. 7. 16	2個	S68	30×30	腫瘍	有	C			再発、5年9か月後死亡	
4	63	女	PEIT	97. 12. 3	単発	S2	10×10	腫瘍	無	C			12年11か月後他病死	
5	59	女	TAE	98. 5.	単発	S8	20×20	腫瘍	有	B			再発、3年2か月後死亡	
6	76	女	TAE	98. 6. 30	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C			再発、2年3か月後死亡	
7	70	男	切除	98. 9. 1	単発	S8	40×30	腫瘍	有	C			再発、2年9か月後死亡	
8	68	男	MCT	99. 1. 25	4個	S2377	27×27	腫瘍	有	C			再発、3年5か月後死亡	
9	83	男	TAE	99. 2. 11	>4個	S35678	40×30	腫瘍	有	C			11か月後死亡	
10	79	男	TAE	99. 6. 9	単発	S8		浸潤	有	C			8か月後死亡	
11	64	男	切除	00. 2. 8	2個	S5/6.4	75×70	腫瘍	有	C			再発、3年6か月後死亡	
12	79	女	TAE	00. 3. 1	単発	S6	10×10	腫瘍	有	B			8年8か月後死亡	
13	66	男	切除	00. 9. 27	2個	S65	15×15	腫瘍	有	B			再発、4年2か月後死亡	
14	82	男	TAE	00. 4. 5	単発	S4	55×40	腫瘍	有	C			1年2か月後他病死	
15	74	女	切除	00. 2. 28	単発	S2	32×32	腫瘍	有	C			再発、4年4か月後死亡	
16	64	女	TAI	99. 10. 14	>4個	S23457	10×10	腫瘍	有	C			再発、5年8か月後死亡	
17	75	男	TAE	00. 4. 19	単発	S7	30×30	腫瘍	有	C			4年5か月後死亡	
18	75	男	TAE	97. 11.	>4個	S4568	25×25	腫瘍	有	C			4年1か月後他病死	
19	86	男	PEIT	00. 8. 18	単発	S4	15×15	腫瘍	無	C			7年9か月後他病死	
20	70	女		01. 7. 2						C			同月死亡	
21	65	男	切除	98. 2. 5	単発	S1	90×90	腫瘍	有	B	28396		3年10か月後死亡	
22	67	男	切除	01. 11. 19	単発	S8	13×13	腫瘍	有	B	5		3年8か月後再発	2021/10 県外へ転出
23	76	女	T/P	01. 8. 1	単発	S7	15×15	腫瘍	有	C	3		再発、4年3か月後死亡	
24	66	女	TAE	01. 7. 26	単発	S7	10×10	腫瘍	無	C	8		無再発生存中	再発なし
25	75	女	T/P	02. 3. 4	単発	S5/6	37×31	腫瘍	無	C	719		5年1か月後他病死	
26	73	男	TAE	01. 4. 10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	2074		7か月後死亡	
27	76	女	T/P	02. 10. 10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	4		2年1か月後他病死	
28	79	女	TAE	01. 6. 27	>4個	S2457	40×40	腫瘍	有	C	83		1年10か月後死亡	
29	79	女	切除	03. 2. 26	単発	S3	30×30	浸潤	有	C	538		再発、3年6か月後死亡	
30	82	女	RFA	03. 5. 26	単発	S5	35×35	腫瘍	無	B	5		再発、2年5か月後死亡	
31	78	女	T/R	02. 9. 24	単発	S8	40×40	腫瘍	無	C	4		1年3か月後他病死	
32	75	男	切除	03. 6. 3	単発	S6	20×20	腫瘍	有	B	6215		再発、10年8か月後死亡	
33	76	男	切除	04. 3. 10	2個	S28	50×50	腫瘍	無	C	22		再発、3年5か月後死亡	
34	76	男	MCT	03. 8. 14	単発	S8	25×20	腫瘍	有	C	59		再発、9年8か月後死亡	
35	83	男	PEIT	03. 5. 30	単発	S5/6	22×21	腫瘍	無	C	29		再発、6年8か月後死亡	
36	80	男	RFA	04. 8. 3	>4個	S13468	30×25	腫瘍	無	C	15		3年10か月後死亡	
37	91	女	未治療		>4個	S3478	100×100	腫瘍	不明	C	NT		2か月後死亡	
38	74	女	TAE		>4個			腫瘍	無	C	NT		2年10か月後死亡	
39	75	女	TAE	03. 10.	単発	S8	23×23	腫瘍	有	C	239		再発、4年2か月後死亡	
40	79	男	RFA	04. 3. 15	単発	S8	30×20	腫瘍	無	C	6		再発、6年4か月後死亡	
41	56	男	RFA	04. 4. 7	単発	S7/8	23×26	腫瘍	無	B	8		無再発生存中	
42	78	男	TAE	04. 5. 19	単発	S5	25×25	腫瘍	不明	C	1447		再発、7年3か月後死亡	
43	75	男	TAI	05. 1. 6	3個	S568	15×15	腫瘍	有	C	80		再発、1年3か月後死亡	
44	68	男	切除	04. 9. 13	単発	S6	30×20	腫瘍	有	C	5		再発、8年2か月後死亡	
45	72	女	T/R	04. 10.	2個	S86	20×20	腫瘍	有	B/C	44		再発、1年5か月後死亡	
46	62	女	TAE	03. 4.	不明	不明	不明	腫瘍	有	C	1055		再発、3年後死亡	
47	86	女	TAE	04. 6.	単発	S8	40×40	腫瘍	有	C	55		5か月後死亡	
48	73	男	切除	00. 3.	単発	不明	10×10	不明	有	B			再発、6年後死亡	
49	76	男	切除	05. 5. 12	単発	S7/8	90×80	腫瘍	無	B	2		4年3か月後再発H28. 3. 3 S3部分切除再発なし、生存	再発なし
50	64	女	TAE	09. 1.	単発	S5	10×10	腫瘍	有	C	28		再発、3年3か月後死亡	
51	73	男	未治療		>4個	S278	7×7	腫瘍	有	C	270		4年10か月後死亡	
52	75	男	切除	06. 3. 29	単発	S7/8	43×25	浸潤	有	C	170		再発、3年10か月後死亡	
53	74	男	RFA	04. 9. 6	単発	S7	18×18	腫瘍	有	C	3		5年5か月後死亡	
54	75	男	T/R	05. 8.	2個	S67	25×25	腫瘍	有	C	11		4年2か月後死亡	
55	87	女	未治療		単発	S2	20×20	腫瘍	有	C	22		4年後他病死	
56	89	女	T/P	05. 12.	単発	S2	15×15	腫瘍	無	C	210		4年1か月後他病死	
57	82	女	T/R	05. 10.	単発	S6	50×50	腫瘍	有	C	1		1年9か月後他病死	
58	77	女	切除	04. 11. 7	2個	S68	20×20	腫瘍	有	C	20		2年11か月後再発H28. 9. 26死亡	
59	59	女	RFA	06. 1.	単発	S5	13×12	腫瘍	無	B/C	35		再発、7年7か月後死亡	
60	67	女	RFA	04. 4.	単発	S5	15×15	腫瘍	無	B	4		6年3か月後再発生存不明	2019/8/3死亡 他病死
61	68	男	肝癌否定		(単発)	S6	13×13	腫瘍	無	B	2		生存不明	
62	69	男	TAE	07. 11. 14	2個	S57	15×15	腫瘍	有	C	147		再発、3年6か月後死亡	
63	79	男	TAE	06. 11.	多発	両葉	20×20	腫瘍	有	C	54		1年10か月後死亡	
64	87	女	T/R	06. 11. 15	単発	S4	16×23	腫瘍	有	C	158		再発、6年4か月後死亡	
65	79	男	T/R	06. 11. 20	単発	S8	30×30	腫瘍	無	C	10		再発、6年10か月後他病死	
66	82	女	TAE	06. 3. 14	単発	S8	35×35	腫瘍	有	C	14		再発、7年3か月後死亡	
67	69	男	切除	06. 9. 26	2個	S67	22×20	腫瘍	無	C	12		H28. 5 再発S5 43mm 治療希望されず 12年7か月後死亡、死亡原因不明	
68	72	女	TAE	06. 5. 18	単発	S6	15×15	腫瘍	有	C	79		再発、4年10か月後死亡	
69	81	女	切除	97. 3. 24	単発	S8		腫瘍	無	C	251		再発、12年11か月後死亡	
70	80	男	T/R	06. 8. 31	>4個	S84	31×27	腫瘍	有	C	42		再発、6年1か月後死亡	
71	73	女	TAE	06. 2. 21	>4個	S853	37×31	腫瘍	有	C	28		1年6か月後死亡	
72	64	男	切除	07. 1. 12	単発	S5	35×35	腫瘍	無	C	14		2年10か月後再発、13年5か月後死亡、肝臓連死	
73	82	女	TAE	06. 9. 6	単発	S1	20×20	腫瘍	有	C	22		再発、1年後死亡	
74	80	男	RFA	02. 9.	単発	S8		腫瘍	有	C	2.4		再発、9年6か月後死亡	
75	63	女	T/R	07. 5. 8	単発	S8	16×16			B	17		7年1か月後再発、2020/2 S6 8mm RFA	
76	73	男	M/R	03. 8. 5	>4個	S348	15×15		無	B	58.6		再発、8年後死亡	
77	73	男	切除	05. 3. 14	単発	S45	42×28	腫瘍	有	B	289		再発、3年後死亡	
78	74	男	切除	06. 12. 21	単発	S458	35×30	腫瘍	有	C	4.7		再発、8年10か月後死亡	
79	60	女	RFA	07. 7.	単発	S7	17×12	腫瘍	有	C	9.8		3年4か月後再発。	生存、再発なし
80	87	女	未治療		単発	S6	66×56	腫瘍	有	C	2.8		2年7か月後他病死	

No	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2022年1月現在
81	80	女	TAE	03. 3.	単発	S2/3	20×20			C	7.0		再発、8年7か月後死亡	H30.6.21 S8亜区域切除 2.3cm
82	77	女	TAE	08.10. 7	単発	S6	50×50	腫瘍	有	C	3.2		再発、2年後死亡	
83	70	男	RFA		単発	S5	12×12	腫瘍	有	B	4		H29. 3. 22 S1 2.5cm 再発肝切除	
84	77	女	TAE	09. 3. 24	2 個	S58	25×25	腫瘍	有	C	2012		1年3か月後肝不全死	
85	84	女	T/P	09. 9. 7	単発	S7	30×30	腫瘍	有	C	3643		2年1か月後肝不全死	
86	72	女	TAE	09.12.18	>4個		40×40	腫瘍	有	C	7.8		再発、3年2か月後死亡	
87	79	女	TAE	10.11.18	2 個	S8/3	40×35	腫瘍	有	C	197		4年1か月後再発	
88	89	男	TAE	09.10. 6	>4個		20×20	腫瘍		C	3.7		3年9か月後死亡	
89	76	女	T/R	08. 5. 12	単発	S3	25×25	腫瘍	有	C	3.9		5年2か月後再発、9年8か月後死亡、他病死心不全	
90	76	女	T/R	09. 7. 22	2 個	S3/5	25×25	腫瘍	有	C	11.8		1年7か月後死亡	
91	79	男	T/R	10. 3. 25	単発	S7	23×23	腫瘍	有	C	9		2年11ヶ月後他病死	
92	85	女	切除	10. 3	単発	S3	25×25	腫瘍	無	C	3.9		再発、3年後死亡	
93	66	男	TAE	09. 7.	>4個	S1		浸潤	無	B	58		1年10か月後死亡	
94	73	男	切除	09.10.20	単発	S5	40×40	腫瘍	無	B	2.8		無再発生存中	
95	68	女	切除	09. 8. 21	>4個	S348	15×15	腫瘍	無	B	4.9		生存中、リスト外という意見有	
96	75	男	TAE	08. 1	>4個	S2458	38×25	腫瘍	有	C	10.9		再発、5年3か月後死亡	
97	78	男	精査中							C	189			
98	75	男	TAE	07. 2. 11	単発	S6			無	B	5.3		再発、7年5か月後死亡	
99	66	男	TAE	11. 1. 20	2 個	S5/6	12×12	腫瘍		C	5		H28.11.11 HCC再発リンパ節転移 H29. 7. 10死亡	
100	80	女	RFA	10.11.09	単発	S6~7	18×18	腫瘍	無	C	48.4		3年8か月後再発、生存不明	
101	64	女	TAE	10.11	単発	S6	5×5	腫瘍	有	C	26		再発、5年1か月後死亡	
102	75	女	切除	08. 7. 30					無	C			H27. 1再発	
103	75	男	TAE	10.12.08	>4個	S2/5/6/7/8	20×17	腫瘍	有	C			再発、2年5か月後死亡	
104	69	女	RFA	10. 4	単発	S6	18×18		無	C	19		3年10か月後再発、8年1か月後死亡、肝臓死	
105	79	男	TAI	09.10.26	2 個	S7/8	18×15	腫瘍		C	60.3		2年8か月後死亡	
106	71	女	切除	07. 8. 17	単発	S2~3	60×60	腫瘍	有	B	148		再発、4年5か月後死亡	
107	85	女	RFA	10. 7	2 個	S4/7	15×15	腫瘍	有	C	16.6		再発、5年4か月後他病死	
108	84	女	RFA	09.10.30	単発	S8	15×15	腫瘍	有	C	1.9		無再発生存中	
109	65	男	T/R	10.03.	単発	S5	24×24		有	B	7.8		再発、4年11か月後死亡	
110	57	女	切除	11. 1. 18	単発	S6	40×25	腫瘍	無	B	4		無再発生存中	
111	78	女	肝がん否定		単発	S5	5×5		有	C	4.9		5か月後腫瘍消失、他病死	
112	87	男	RFA	11. 4. 7	単発	S5	15×16	腫瘍	無	C	7.8		死亡詳細不明	
113	67	男	肝がん否定							C	14.2			
114	77	女	RFA	11. 7	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C	9.9		再発、3年8か月後死亡	
115	92	女	TAE	11.10. 4	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C	9.2		再発、2年5か月後死亡	
116	78	女	T/R	10. 3. 24	単発	S2/3	19×18	腫瘍	有	C	31		9か月後再発	
117	76	男	切除	11. 7. 26	単発	S7	80×75	腫瘍	無	C	8.7		無再発 H24. 6. 24死亡	
118	75	男	RFA	11. 7	単発	S6	14×14	腫瘍	有	B	5.3		3年2か月後再発	
119	84	男	転移性肝腫瘍(肺大細胞癌)						B	2		5か月後死亡		
120	75	男	RFA	13.10. 2	単発	S7	15×14	腫瘍	有	B	52		1年11か月後再発 H27. 9 H27.12 H29.10再発しRFA施行	
121	75	男	切除	11. 6.					有	B	17		4年0か月後他病死	
122	70	女	PEI	12. 5. 9	単発	S4	27×20	腫瘍	有	C	21		再発、8か月後死亡	
123	83	男	TAE	11. 8. 30	単発	S6	35×30	腫瘍	無	C	5		2年7か月後再発 2015. 7 2016.10再発にてRFA死亡他病死	
124	75	女	RFA	8. 1	単発	S5	20×20	腫瘍	無	C	9.2		2016. 4再発 RFA	
125	80	女	TAE	12.11.20	単発	S1	40×40	腫瘍	無	C	5.7		再発、1年11か月後死亡	
126	86	男	T/R	13.11	3 個	S146	13×13	腫瘍	無	C	36.6		無再発生存中	
127	78	女	RFA	12. 3. 1	単発	S4	8×9	腫瘍	有	C	16.2		1年10か月後再発 H27. 10 H28. 5 TACE H29. 1 RFA	
128	82	女	RFA	12. 3. 14	単発	S7	13×9	腫瘍	有	C	10.1		2年10か月後死亡	
129	87	女	TAE	12. 7. 6	2 個	S3	20×15	腫瘍	有	C	414.5		再発、2年5か月後死亡	
130	85	男	RFA	12. 2. 13	単発	S5	10×17	腫瘍	有	C	15.2		再発、3年8か月後死亡	
131	76	男	TAE	12. 6. 20	>4個	S45678	55×52	腫瘍	有	C	82		3年1か月後死亡	
132	81	女	TAE	10.11.10	単発	S3	15×15	腫瘍	有	C			再発、2年6か月後死亡	
133	68	男	切除	13. 5. 20	単発	S5	35×38	腫瘍	無	B	52		2年9か月後死亡 死因不明	
134	60	女	TAE	13. 8. 26	単発	S3	18×15	腫瘍	有	B	3548		再発、4年5か月後死亡、肝臓死	
135	70	女	RFA	14. 4	単発	S1	14×14	腫瘍	無	B	2.9		無再発生存中	
136	83	女	T/R	13.10	単発	S7	26×26	腫瘍	無	C	2638		再発、5年7か月後死亡	
137	88	男	TAE	13.10.31	>4個	S4278	34×34	腫瘍	有	C	28.9		1年後再発 肺転移 左副腎転移 肝内再発、3年2か月後死亡	
138	79	女	切除	13. 3	単発	S8	45×45	浸潤	無	C	32		1年3か月後死亡	
139	73	男	T/R	13. 7. 2	>4個	両葉	24×24		無	C	19		1年8か月後死亡	
140	80	女	T/P	13. 5. 1	単発	S5	30×30	腫瘍	無	C	21		9か月後再発 7年4か月後死亡、心不全死、肝がん死を除く関連死	
141	94	男		12. 8. 6						C			2年4か月後死亡	
142	83	女	TAE	7	>4個	S157		浸潤	有	C	10250		再発、7年後死亡	
143	67	男	切除	14. 5. 27	単発	S5	20×20	腫瘍	無	B	3.0	14	再発なし	2021/12/9生存、再発なし

No	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2022年1月現在
144	66	女	T/R	14.9.10	単発	S3	25×25	腫瘍	有	B	32.0		2016.10 再発 TACE	2021/7/5死亡
145	73	男	T/R	14.4.16	2個	S45	10×17		無	B	3.0	26	再発、6年4か月後死亡、 肝癌死	
146	77	女	TAE	12.10.17	2個	S6	7×14	腫瘍	有	C	119.1		3年2か月後死亡	
147	78	女	切除	15.12.17	単発	S5	15×15	腫瘍		C	2.1	9799	再発無	2021/8生存、再発なし
148	89	女								B	1.7	16	死亡	
149	85	男	TAE	15.11.13	単発	S8	32×28	腫瘍	無	B	2.5	23	生存不明	
150	74	男	T/R	15.9.7	単発	S4	24×22	腫瘍	無	B	8.4	1.7	再発なし	2021/7/7他病死
151	76	女	TACE	17.8.2	>4	S5678	36×33	腫瘍	有	C	31.7	811	再発、1年1か月後死亡、 肝癌死	
152	76	男	切除	16.3.16	単発	S8	23×20	腫瘍	有	NBN C	7.8	226	再発なし	生存、再発なし
153	80	女	TAE・ RFA	16.9.23	単発	S7	29×29	腫瘍	無	C	4.1	123	1年後再発 RFA施行	2020/10/8肝癌死
154	90	女	RFA	13.5	2個	S6 S8	14×13 11×10	腫瘍	無	C	15.5	12	4年4か月後 他病死 脳 出血	
155	81	男	RFA	16.10.5	単発	S8	14×14	腫瘍	有	C	7.0	19	H29.8 再発なし	2021/12/9生存、再発なし
156	79	女	RFA	16.6.15	単発	S6	7×8	腫瘍	無	C	1.6	14.6	SVR後発癌	2021/12/8生存、再発なし
157	73	女	無治療	18.1.15	単発	S8	10×10	腫瘍	有	C	7.0	62	Pugh 10にて無治療を希望 9か月後死亡	
158	68	男	肝切除	17.10.20	単発	S8	13×13	腫瘍	無	B	6.8	26	再発、生存	2018/12再発あり テセントリク・アバス チン
159	75	女	TAE+ RFA	16.2.17	単発	S7	11	腫瘍	有	B	2	15	生存、再発なし	
160	77	女	TAE/ RFA	17.4.1	2個	S2, S6	12, 19	腫瘍	有	C	46	20	再発、生存	2020/11再発 2020/11/17 TACE(S 3/4) 2021/6/8 TACE(S 3/4) 2021/7/27 RFA
161	74	男	TAE/ TAE+ RFA	15.6.2	2個	S5 S7	14, 13	腫瘍	有	C	2	9	再発、生存	
162	85	男	RFA	14.2.18	単発	S4	15	腫瘍	有	C	2	12	再発、4年9か月後死亡	
163	82	男	TAE	17.5.10	4個以上	S4578	46	浸潤	無	C	446	346	2年1か月後死亡	
164	70	男	TAE	17.6.26	4個以上	S3S7	14×13	腫瘍	有	C	11.57	54	2年10か月後死亡	
165	70	女	RFA	14.8.15	単発	S6	20	腫瘍	無	C			生存、再発なし	
166	82	男	肝切除	10.7.15	単発	S5	13	腫瘍	有	C			再発、生存	2021/1/11死亡
167	85	女	TAE	16.1.26	単発	S6	25×14	腫瘍	有	B	1		再発、生存	2021/2/16死亡
168	88	女	無	19.1.21	単発	S4	41×43	腫瘍	有	B	688.9	54	1年間後死亡、肝癌死	
169	69	男	肝切除	19.2.25	不明	S7	30mm	腫瘍	無	B	2.1	11	生存、再発なし	
170	77	男	肝切除	19.6.11	不明	S2		腫瘍	無	B	2.04	3500	生存	2021/10/14生存
171	71	男	RFA	18.1.31	2個	S7	21×19	腫瘍	無	B	3.5	28	再発、生存	
172	74	女	TAE		3個	S358	10×10	腫瘍	無	C	1603	27	再発、生存	2021/6/1死亡
173	97	女	無	19.3.22	単発	右葉	50	腫瘍	無	C	866.4		2か月後死亡	
174	85	男	無	18.5.9	2個	右葉	不明	腫瘍	不明	C	2966		2年5か月後死亡	
175	83	女	肝切除	19.5.8	単発	S4	14×11	腫瘍	無	C	3.5	17	生存、再発なし	
176	80	男	BSC		単発	S8	26×20	腫瘍	有	B	16.16	66	HB+アルコール Pugh C のため治療はされず 尾崎 病院に転院 2019年11月8 日診断	
177	81	女	肝切除	18.10.16	単発	S5	30×23	腫瘍	無	B	3.1	34	2018/6/19診断 前区域切 除+S6亜区域切除 20201102再発なし	2022/1 再発なし
178	74	女	TAE+ RFA	16.3.15	単発	S8	15×15	腫瘍	無	B	27.2	17	20201022 再発なし	
179	72	女	肝切除	19.5.10	単発	S3	25×25	腫瘍	無	B	6.1	68	20190408診断 腹腔鏡下外 側区域切除 20201029再発 なし	2022/10 再発なし
180	81	男	TACE	16.7.12	多発	S8(S3)	15	腫瘍	有	C	7	172	鳥大医受診歴無 鳥取赤十 字病院にてTACE H28年 7月	
181	85	男	TAE	19.9.6	単発	S7	32×32	腫瘍	無	C	3	1581	2019/7/5診断 20200902 再発なし	
182	86	女	TAE	19.7.25	単発	S4	38×28	腫瘍	有	C	53.1	32	肝癌破裂にてTACEにて止 血 201909以後に死亡	
183	80	女	RFA	19.3.29	単発	S8	17×11	腫瘍	無	C	3	20	20201008再発なし	2021/12/16再発なし
184	98	女	BSC		多発	S8	30	腫瘍	無	C	4	535	鳥取赤十字 202010HCC 多発転移 要確認	
185	84	男		20.11.10						C	2.7	195	肝切後時期不明 多発骨転 移 放射線療法20201109	2019/6 骨転移にて 対して放射線治療開始 以後も骨転移病巣判明 しては放射線治療を 行っている経過。
186	83	女	肝切除	15.5.18	単発	S2	27×22	腫瘍	有	C	13	38	術後 鳥取赤十字 満田先 生に確認	

(4) 平成7年度～令和元年度肝臓がん検診発見癌追跡調査報告

No	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2022年1月現在
1	74	女	切除	95.10.24	単発	S4	55×55	腫瘍	有	C			再発、7年7か月後死亡	
2	70	女	TAE	96.2.20	単発	S8	40×38	腫瘍	無	C			再発、2年1か月後死亡	
3	63	女	切除	96.3.13	単発	S7	30×23	腫瘍	有	C			再発、15年1か月後死亡	
4	83	男	TAE	96.7.15	単発	S4	12×12	腫瘍	無	C			再発、3年9か月後死亡	
5	74	女	TAE	96.8.29	単発	S5678	35×35	腫瘍	無	C			再発、1年8か月後死亡	
6	64	女	TAE	96.10.25	>4個	S67	67×57	腫瘍	無	B			9か月後死亡	
7	72	男	TAE	96.11.1	2個	S6	20×20	腫瘍	有	—			再発、1年1か月後死亡	
8	70	男	PEIT	96.11.22	単発	S5	25×25	腫瘍	有	C			再発、5年2か月後死亡	
9	69	男	PEIT	97.1.7	単発	S7	10×9	腫瘍	無	C			再発、6年1か月後死亡	
10	73	男	TAE	97.11.17	>4個	S234	80×60	腫瘍	無	C			3か月後死亡	
11	61	男	TAE	97.11.17	3個	S568	15×10	腫瘍	有	C			再発、2年3か月後死亡	
12	75	男	TAE	97.12.4	単発	S7/8	40×32	腫瘍	無	C			7か月後死亡	
13	57	男	TAE	98.3.3	単発	S1	70×50	腫瘍	有	B			1年後死亡	
14	80	男	切除	98.7.31	単発	S5/6	25×25	腫瘍	無	C			9か月後死亡	
15	49	男	RES	99.12.15	>4個	S4568	80×80	浸潤	無	B			4か月後死亡	
16	69	男	切除	00.12.23	単発	S8	50×50	腫瘍	無	—			再発、1年5か月後死亡	
17	66	男	TAE	01.9.19	単発	S6	100×100	腫瘍	無	C	260		1年10か月後死亡	
18	72	男	PEIT	04.8.2	2個	S1.5	25×25	腫瘍	有	C	219		再発、3年11か月後死亡	
19	83	男	T/R/P	05.10.17	2個	S1.4	30×30	腫瘍	有	C	25		再発、3年11か月死亡	
20	67	女	切除	06.8.9	単発	S8	25×25	腫瘍	有	B			無再発生存中	
21	79	男	T/R	06.11.	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C	28.9		3年後再発、生存不明	
22	72	男	切除	08.4.21	単発	右葉	100×100	腫瘍	有	C	22.3		37日後死亡	
23	60	男	TAE	08.4.	>4個	両葉	40×40	腫瘍	有	C	594		2年6か月後死亡	
24	61	男	動注/放射	11.10.	>4個	骨転移あり				B	2200		10か月後死亡	
25	78	男	切除	12.4.19	単発	S3	20×20	腫瘍	有	C	18.3		1年5か月後再発 2017.5.9死亡 肝がん死	
26	77	男	切除	13.12.17	単発	S4	53×53	腫瘍	有	B	7.2		無再発生存中	2019/6/8 肝癌死
27	72	男	TAE	13.11	>4個	S4	44×39	腫瘍	有	B	960		1年5か月後死亡	
28	74	女	TAE	15.3.26	2個	S45	72×72	腫瘍	有	C	3106		死亡H27.4.27溺死	
29	86	女	緩和治療		>4個	S24578	68×60		有	C	14219		死亡	
30	48	男	切除	16.7.13	単発	S7	23×19	腫瘍	無	C	4923		2016.12動注 2017.3ネクサパール 2018/1/11生存	2021/9/5 肝部分切除
31	60	男	切除	19.8.6	2個	S4	25	腫瘍	無	B	11.8	16	再発、生存	2021/8 胸骨転移→胸骨腫瘍切除2021/12胸椎転移→放射線治療

7. 全国がん検診実績との比較

令和元年度（※69歳以下の実績）

（単位：人 %）

	区 分	令和元年度実績 (鳥取県)	令和元年度実績 (全国)	留 意 事 項
胃 が ん 検 診	対象者数 (人)	76,814	51,221,170	○受診者・がん発見=(鳥取県)「X線」「内視鏡」の合計値 (全国)「X線」のみ ○要精検者・精検受診者=「X線」のみの数値 ○精検受診者は精検結果未把握の者を除く(以下の部位も同じ)
	受診者数 (人)	25,940	1,513,777	
	受診率 (%)	33.8	3.0	
	要精検者数 (人)	387	86,894	
	要精検率 (%)	5.46	5.74	
	精検受診者数(人)	335	68,292	
	精検受診率 (%)	86.6	78.6	
	がんの者 (人)	60	965	
がん発見率 (%)	0.23	0.06		
子 宮 頸 部 が ん 検 診	対象者数 (人)	59,087	39,024,588	○「頸部のみ」の数値 ○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数})+(\text{当該年度受診者数})-(\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算(厚生労働省地域保健・健康増進事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(3,625,872)+(3,547,376)-(969,880)}{(39,024,588)} \times 100 = 15.9$ 鳥取 $\frac{(26,470)+(25,836)-(14,914)}{(59,087)} \times 100 = 63.3$
	受診者数 (人)	25,836	3,547,376	
	受診率 (%)	43.7(63.3)	(15.9)	
	要精検者数 (人)	445	85,209	
	要精検率 (%)	1.72	2.40	
	精検受診者数(人)	379	63,584	
	精検受診率 (%)	85.2	74.6	
	がんの者 (人)	4	858	
がん発見率 (%)	0.02	0.02		
肺 が ん 検 診	対象者数 (人)	76,814	51,255,721	○「X線のみ」「X線及び喀痰」の合計値(「喀痰のみ」は除く)
	受診者数 (人)	24,722	3,466,673	
	受診率 (%)	32.2	6.8	
	要精検者数 (人)	758	55,500	
	要精検率 (%)	3.07	1.60	
	精検受診者数(人)	672	45,942	
	精検受診率 (%)	88.7	82.8	
	がんの者 (人)	9	1,070	
がん発見率 (%)	0.04	0.03		

区 分		令和元年度実績 (鳥取県)	令和元年度実績 (全国)	留 意 事 項
乳 が ん 検 診	対象者数 (人)	44,660	25,602,706	○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算(厚生労働省地域保健・健康増進事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(2,413,232) + (2,344,748) - (423,023)}{(25,602,706)} \times 100 = 16.9$ 鳥取 $\frac{(14,064) + (13,694) - (1,276)}{(44,660)} \times 100 = 59.3$
	受診者数 (人)	13,694	2,344,748	
	受診率 (%)	30.7(59.3)	(16.9)	
	要精検者数 (人)	850	147,806	
	要精検率 (%)	6.21	6.30	
	精検受診者数(人)	807	131,940	
	精検受診率 (%)	94.9	89.3	
	がんの者 (人)	51	6,949	
がん発見率 (%)	0.37	0.30		
大 腸 が ん 検 診	対象者数 (人)	76,814	51,254,815	
	受診者数 (人)	27,903	3,961,985	
	受診率 (%)	36.3	7.7	
	要精検者数 (人)	1,961	234,661	
	要精検率 (%)	7.03	5.92	
	精検受診者数(人)	1,528	163,681	
	精検受診率 (%)	77.9	69.8	
	がんの者 (人)	71	6,543	
がん発見率 (%)	0.25	0.17		

(出典) 鳥取県数値 = 鳥取県健康対策協議会各がん検診専門委員会資料

全国数値 = 地域保健・健康増進事業報告(厚生労働省)

- (注) 1 鳥取県の数値は、県が独自に調査した結果であり、厚生労働省による調査結果である「地域保健・健康増進事業報告」に記載された数値とは異なる場合がある。
- 2 全国の精検受診者は国が発表していないため、次により算定
精検受診者 = 「要精検者 - (未受診者 + 精検結果未把握の者)」
- 3 平成25年度から全国数値は、69歳以下の実績が公表されていることから、鳥取県数値も69歳以下の実績で比較している。
- 4 平成27年度から「地域保健・健康増進事業報告」対象者数は、各がん検診の対象年齢の「全住民」を報告することとなった。
- 5 平成28年度から乳がん検診について対象者数は「視触診方式及びマンモグラフィの併用者」「マンモグラフィのみ」が統一された。

厚生労働省「今後のわが国におけるがん検診事業評価の在り方について」報告書
 がん検診事業の評価に関する委員会（平成20年3月）による
 プロセス指標と本県実績との比較

令和2年度実績

		胃がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	24.4%		28.9%		
要精検率 [X線のみ]	許容値	11.0%以下	7.2%	○	5.5%	○	
精検受診率 [X線のみ]	許容値	70%以上	85.2%	○	83.6%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.11%以上	0.30%	○	0.12%	○	
陽性反応の中度 [X線のみ]	許容値	1.0%以上	1.6%	○	1.1%	○	

		肺がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	26.3%		27.8%		
要精検率	許容値	3.0%以下	3.7%		2.9%	○	
精検受診率	許容値	70%以上	89.9%	○	89.8%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.03%以上	0.06%	○	0.03%	○	
陽性反応の中度	許容値	1.3%以上	1.7%	○	1.1%		

		大腸がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	27.6%		31.5%		
要精検率	許容値	7.0%以下	8.9%		7.2%		
精検受診率	許容値	70%以上	76.6%	○	77.2%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.13%以上	0.29%	○	0.20%	○	
陽性反応の中度	許容値	1.9%以上	3.2%	○	2.7%	○	

		子宮がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	23.0%		40.7%		
要精検率	許容値	1.4%以下	1.79%		2.17%		
精検受診率	許容値	70%以上	87.5%	○	87.7%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.05%以上	0.02%		0.02%		
陽性反応の中度	許容値	4.0%以上	1.1%		1.2%		

		乳がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	14.1%		26.1%		
要精検率	許容値	11.0%以下	6.77%	○	7.33%	○	
精検受診率	許容値	80%以上	95.4%	◎	95.5%	◎	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.23%以上	0.59%	○	0.52%	○	
陽性反応の中度	許容値	2.5%以上	8.7%	○	7.2%	○	

※子宮がん、乳がんの受診率は単年度計算

Ⅲ. 令和3年度各がん検診従事者講習会及び 症例研究会開催状況

令和3年度がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況

事	業名	開催日時	場所	出席者	内容
胃がん	胃がん検診従事者講習会及び症例研究会	令和4年3月5日(土) 午後4時～午後5時15分	ハイブリッド開催 ①メイン会場/倉吉未来中心 ②オンライン	180名 内訳 ①31名 ②149名	演題：「Helicobacter pylori感染を考慮した早期胃癌の内視鏡診断」 講師：島根県環境保健公社・総合健診センター 足立経一先生 (講師の足立先生は遠隔地からオンラインにて講演) 症例検討 中部—1例：鳥取県立厚生病院 竹本和弘先生
子宮がん	子宮がん検診従事者講習会	令和4年2月6日(日) 午後4時～午後5時10分	ハイブリッド開催 ①メイン会場/鳥取県健康会館 (鳥取県医師会館) ②オンライン	58名 内訳 ①5名 ②53名	演題：「婦人科領域の腹水細胞診の役割」 講師：弘前大学医学部産科婦人科教授 横山良仁先生 (講師の横山先生は遠隔地からオンラインにて講演) ※新型コロナウイルス感染症の流行状況を鑑みて、本年度の症例検討会は中止とした。
肺がん	肺がん検診従事者講習会	令和4年2月5日(土) 午後4時～午後5時25分	ハイブリッド開催 ①メイン会場/鳥取県健康会館 (鳥取県医師会館) ②オンライン	108名 内訳 ①21名 ②87名	演題：「肺がんの単純X線診断と遺伝子変異」 講師：千葉大学医学部附属病院画像診断センター 遠藤正浩先生 (講師の遠藤先生は遠隔地からオンラインにて講演) ※新型コロナウイルス感染症の流行状況を鑑みて、本年度の症例検討会は中止とした。
乳がん	乳がん検診従事者講習会	令和4年1月29日(土) 午後4時～午後5時	ハイブリッド開催 ①メイン会場/鳥取県西部医師会館 ②サブ会場/鳥取県健康会館 (鳥取県医師会館) ③オンライン	41名 内訳 ①6名 ②9名 ③26名	演題：「乳がん検診とプレストアウエアス」 講師：松江赤十字病院 乳腺外科 村田陽子先生 ※新型コロナウイルス感染症の流行状況を鑑みて、本年度の症例検討会は中止とした。
大腸がん	大腸がん検診従事者講習会及び症例研究会	令和4年2月26日(土) 午後4時～午後5時5分	ハイブリッド開催 ①メイン会場/倉吉未来中心 ②オンライン	98名 内訳 ①18名 ②80名	演題：「大腸癌診療の現状と課題」 講師：鳥取大学医学部統合内科医学講座消化器・腎臓内科学分野 栗 裕貴先生 症例検討 中部—1例：鳥取県立厚生病院 加藤雅之先生
肝臓がん	肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会	令和4年2月19日(土) 午後4時～午後5時25分	ハイブリッド開催 ①メイン会場/倉吉未来中心 ②オンライン	119名 内訳 ①29名 ②90名	演題：「慢性肝炎および肝臓の診断と治療について」 講師：香川大学医学部肝・胆・膵内科学先端医療学 小野正文先生 (講師の小野先生は遠隔地からオンラインにて講演) 症例検討 東部—1例：鳥取市立病院 谷口英明先生 西部—1例：鳥取大学医学部附属病院 池田 傑先生

1. 胃がん検診症例研究会

日 時 令和4年3月5日(土) 午後4時～午後5時15分

開催方法 ハイブリッド開催

参加方法 ①現地参加

倉吉市 倉吉未来中心

②オンライン参加

中部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 竹本和弘

症 例：60歳代 男性

既往歴：十二指腸潰瘍、虫垂炎

検診歴：これまで検診受診なし

経 過：2021年に受診した検診の胃透視検査にて胃体部前壁欠損様陰影を指摘された。精査目的に当院にて上部消化管内視鏡検査が施行され、胃体上部前壁に20mm大の2型の腫瘍を認めた。生検にてgroup5(por1)であった。後日当院消化器外科にて腹腔鏡下胃切除術が施行された。

病 理：Carcinoma with lymphoid stroma、SM(4mm)、ly1a、v1a、INF β 、intermediate type、PM(-)、DM(-)、LN(-)、stage IA(pT1bN0M0)

考 察：これまでの検診受診はなかったが、受診を契機に胃癌の診断、根治的手術に至った。検診受診やその勧奨の重要性を再認識した症例であった。

2. 大腸がん検診症例研究会

日 時 令和4年2月26日(土) 午後4時～午後5時5分

開催方法 ハイブリッド開催

参加方法 ①現地参加

倉吉市 倉吉未来中心

②オンライン参加

中部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 加藤 雅之

症 例：70歳代 男性

主 訴：便潜血陽性

現病歴：高血圧症にて近医通院中。毎年大腸がん検診を受けているが、2021年10月、大腸がん検診にて初めて便潜血陽性(-107/+145)を指摘された。11月に近医にて下部消化管内視鏡検査施行され、多発ポリープを認めたため、精査目的に当院紹介受診となった。

既往歴：20代 虫垂炎手術

家族歴：特記事項なし

生活歴：喫煙なし、飲酒 機会飲酒

内視鏡所見：S状結腸に30mm大の0-IIa病変を認めた。NBI観察ではJNET分類type 2Aが主体だが、陥凹部はtype 2Bと判断した。これらの所見からcarcinoma in adenomaと考え、ESDにて一括切除を行った。また直腸Raに7mm大の黄色調の隆起性病変を認めた。正常粘膜に覆われており、表面に毛細血管の増生を伴っていた。神経内分泌腫瘍と考え、胸部～骨盤部造影CTにて転移がないことを確認し、ESDにて一括切除を行った。

病理結果：S状結腸、Adenocarcinoma (20%) in high grade tubular adenoma

pType0-IIa、tub2、pTis(M)、Ly0、V0、HM1、VM0

直腸Ra、Carcinoid tumor(NET G1)、Ki-67 2%未満、クロモグラニン陽性、シナプトフィジン陽性、CD56陽性

検 討：直腸神経内分泌腫瘍は腫瘍径10mm以上、腫瘍表面性状(陥凹、潰瘍形成)、病理検査での脈管侵襲陽性はリンパ節転移の危険因子と言われている。リンパ節転移のない症例は予後良好であるが、リンパ節転移・遠隔転移を有する場合には、リンパ節郭清を伴った外科的切除が必要となる。今回の症例では、腫瘍径10mm未満、表面性状も陥凹などを認めず、CT検査においても転移がないことを確認の上ESD施行した。直腸神経内分泌腫瘍と診断した際は、リンパ節転移の有無を考慮した上で治療方針を決めることが重要である。

3. 肝臓がん検診症例研究会

日 時 令和4年2月19日（土） 午後4時～午後5時25分

開催方法 ハイブリッド開催

参加方法 ①現地参加

倉吉市 倉吉未来中心

②オンライン参加

〔東部症例〕

提出者：鳥取市立病院 谷 口 英 明

はじめに：近年、ウイルス性肝炎から発生する肝細胞癌が減少し、非ウイルス性肝疾患を背景とする肝細胞癌が増加している。今回、非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）を背景とした肝細胞癌の一例を経験したので報告する。

症 例：70歳代 男性

主 訴：肝腫瘍精査

既往歴：高血圧、2型糖尿病、軽度認知障害

生活歴：タバコ：15本/日×20年 20歳～40歳、アルコール：なし

現病歴：糖尿病、高血圧にて近医に通院中。202X年10月近医にて健診を受け、腹部USにて肝右葉背側に35mm低エコー腫瘍を認め、精査加療目的に紹介受診となった。

初診時血液検査：Alb 4.4g/dl、T.Bil 1.2mg/dl、AST 70IU/L、ALT 70IU/L、HbA1c 7.2%、PT 97.5%、血 小 板 $15.2 \times 10^4 / \mu\text{l}$ 、HBsAg(-)、HCVAb(-)、AFP 4.4ng/ml、PIVKA II 2676mAU/ml

腹部超音波所見：肝腎コントラストを認め脂肪肝と診断した。肝S7に均一な低エコーとして描出される3.5cmの低エコー腫瘍を認めた。腫瘍は肝細胞癌に特徴的とされるモザイクパターンや辺縁低エコー帯は認めなかった。

ダイナミックCT：単純CTでは腫瘍は不明瞭、動脈相において、早期濃染を認め、門脈層、平行相で腫瘍の辺縁にリング状の濃染を認め、肝細胞癌が疑われた。門脈層、平行相でのWash-out像は明瞭には観察できなかった。

治療経過：画像所見、および腫瘍マーカーの上昇より肝細胞癌が考えられ、肝切除を行った。

病理診断：低分化型肝細胞癌 大索状型（Edmondson分類Ⅲ型）

3.7×3.5×3.5cm、単純結節周囲増殖型、S0、SM(-)、vp1、vv1、va0、b0、im0、pT3N0M0、Stage IIIであった。非癌部の組織では、中等度以上の脂肪滴沈着を認め、門脈領域に炎症細胞浸潤、F2-F3の肝線維化認めた。背景肝はNASHと考えられた。

考 察：今回我々はNASH、2型糖尿病を背景として発症したHCCを経験した。肝線維化が進行し“Burn out”NASHとなると、背景肝がNASHと診断できないことがあるが、本症例は画像検査と組織検査において、NASH由来の肝細胞癌と診断された症例である。

本症例は腹部超音波検査において肝細胞癌に特徴的所見とされるモザイクパターンや周囲低エコー帯は不明瞭であった。またダイナミックCTでは門脈層、平行相でのWashout像が明瞭には観察されなかった。その原因として、脂肪肝によるエコーの減衰やCT値の低下が関与したものと推察した。高度な脂肪肝状態における肝腫瘍の画像診断には注意が必要と思われた。

NASH/NAFLD診療ガイドライン2020ではNAFLD/NASHを背景とした肝癌のスク

リーニングにはFib4 indexやNAFLD fibrosis scoreを用いることが推奨されている。本症例に適用すると、Fib4 index 4.24、NAFLD fibrosis score 0.895となり、いずれも「肝線維化高リスク群」となる。NASH肝硬変、原因不明の肝硬変を発生母地とする肝細胞癌が増加しており、今回提示したような症例が増加することが予想され、代謝異常、特に糖尿病の合併がある症例では、脂肪肝の有無を評価し、FIB-4 indexが高い症例では肝細胞癌の定期スクリーニングが望まれる。

[西部症例]

提出者：鳥取大学医学部附属病院 池田 傑

はじめに：核酸アナログの投与によりB型肝炎の活動性を抑えることが出来る。しかしながら核酸アナログ内服中であっても発癌リスクがあり、内服開始後も定期的な画像検査が必要になる。今回、核酸アナログ内服中の患者で発見時には既にStage IV Aであった症例を経験したので報告する。

症 例：50歳代 男性

主 訴：腹痛

現病歴：20XX-5年にB型肝炎を指摘されていたが、強力ミノファージェンの投与で経過観察されていた。20XX-3年7月に健康診断でB型肝炎を指摘され、近医にて核酸アナログ製剤を処方されていた。20XX-2年9月のCTでは異常所見は認めなかった。20XX年2月に心窩部痛が出現し、同年4月の腹部単純CTで右肝腫瘤を指摘されたため、精査加療目的に当院紹介となった。

既往歴：慢性B型肝炎

現 症：身長：169.2cm、体重：60.8kg、BMI：21.2、体温：37.3度、眼球結膜：貧血なし、黄染なし、点状出血なし、咽頭：発赤なし、扁桃腫大なし、頸部：明らかなリンパ節腫大なし、腹部：平坦軟 軽度の心窩部痛あり、肝脾腫蝕知せず、明らかな皮疹なし

来院時血液所見：WBC 10100/ μ L、RBC 476 \times 10⁴/ μ L、Hb 13.4g/dL、Plt 20.5 \times 10⁴/ μ L、TP 7.7g/dL、Alb 3.4g/dL、T-bil 0.8mg/dL、D-bil 0.2mg/dL、AST 39U/L、ALT 22U/L、ALP 162U/L、 γ -GTP 76U/L、LDH 224U/L、BUN 14.0mg/dL、Cr 0.65mg/dL、CRP 5.45mg/dL、PT 74.4%、PT(INR) 1.19、AFP 1841ng/mL、PIVKA-II 99mAU/mL、CEA 11.2ng/mL、CA19-9 1503U/mL、HBs抗原(+)、HBs抗体(-)、HBc抗体(+)、HBV DNA 2.4logIU/mL

腹部DynCT：肝右葉を占拠するHCC病変を認め、門脈左枝にも腫瘍栓を認めた。明らかな遠隔転移は認めなかった。

治療経過：当院紹介6日後からテセントリク+アテゾリズマブ導入を行ったが、1か月後の画像検査でPDの判定となった。その後も化学療法のレジメンを変更して加療継続していたが、いずれも副作用やPDとなり早期に治療中止となった。7月以降は治療を希望されず、苦痛緩和を中心に加療を行い、10月に永眠された。

考 察：慢性B型肝炎において、核酸アナログ製剤の投与により78%発癌リスクを減少させることが報告されているが、治療開始後も発癌のリスクは存在する。慢性B型肝炎の発癌予測指標としてPAGE-B、JPHC Study、REACH-Bなどが提唱されている。本症例はまだ肝硬変には至っていなかったが、前述した予測指標ではいずれも5~10年で発癌率1~4%程と予測されており、定期的なフォローが必要であった。

結 語：核酸アナログ製剤内服中にStage IVで発見された肝細胞癌の一例を経験した。慢性B型肝炎

炎自体が高危険度群であり、核酸アナログ製剤投与後も定期的な画像フォローを必要とする。症例によって発癌リスクは異なり、リスクに応じてフォロー間隔を決定していく必要がある。

4. 各地区がん検診症例検討会開催状況

事業名	東 部			中 部			西 部			合 計		
	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数
胃 がん	5	7	203	1	8	15	8	55	256	14	70	474
子宮がん	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
肺 がん	1	1	28	7	56	73	1	5	28	9	62	129
乳 がん	0	0	0	1	3	14	1	6	10	2	9	24
大腸がん	3	4	147	0	0	0	6	39	177	9	43	324
肝臓がん	0	0	0	0	0	0	5	24	145	5	24	145
合 計	9回			9回			21回			39回		

Ⅳ. 各がん検診精密検査医療機関登録について

鳥取県健康対策協議会においては、市町村が実施する各種がん検診の精度管理、向上のため、登録基準を設け、各がん検診精密検査医療機関の登録を行っております。登録基準については、平成10年度鳥取県成人病検診管理指導協議会総合部会及び各がん部会並びに鳥取県健康対策協議会各がん対策専門委員会において、統一基準が決定し、これに基づき、各がん検診精密検査医療機関登録実施要綱等が設定され、平成11年度以降の登録更新から適用することとしております。

なお、登録手続きは従来と同様に、地区医師会経由で申請を受け付けます。ご不明の点がありましたら、鳥取県健康対策協議会事務局（☎0857-27-5566）へお問い合わせ下されれば幸いです。

申請の届出書は「鳥取県健康対策協議会ホームページ」からダウンロードできます。

記

1. 改正の要点

- ① 平成11年度以降の登録更新から従事者講習会等の出席状況を点数化し、点数基準を満たしたもののについてのみ登録する。
- ② 登録基準点数は原則として、従事者講習会は5点、各地区症例検討会等、各ブロック学会等は3点とする。
- ③ 点数の取得は担当医師ごととし、申請書の様式は、出席状況が確認できるよう改正を行う。
- ④ 新規開業、県外転入等の場合についても同様に扱う。
- ⑤ 担当医師が非常勤の場合は登録を認めない。

2. 次回の更新時期

次回の更新時期

◎一次検診登録

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期
子宮がん検診実施 (一次検診)医療機関	令和4. 4. 1～令和5. 3. 31 (2022. 4. 1～2023. 3. 31)	令和4年度中
肺がん一次検診医療機関	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31 (2020. 4. 1～2023. 3. 31)	令和4年度中
乳がん検診一次検査 (乳房X線撮影)医療機関	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31 (2020. 4. 1～2023. 3. 31)	令和4年度中

◎精密検査登録

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期	従事者講習会等 受講点数対象期間
胃がん検診精密検査	令和3. 4. 1～令和6. 3. 31 (2021. 4. 1～2024. 3. 31)	令和5年度中	令和3. 4. 1～令和6. 3. 31
子宮がん検診精密検査	令和3. 4. 1～令和6. 3. 31 (2021. 4. 1～2024. 3. 31)	令和5年度中	令和3. 4. 1～令和6. 3. 31
肺がん検診精密検査	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31 (2020. 4. 1～2023. 3. 31)	令和4年度中	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31
乳がん検診精密検査	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31 (2020. 4. 1～2023. 3. 31)	令和4年度中	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31
大腸がん検診精密検査	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31 (2020. 4. 1～2023. 3. 31)	令和4年度中	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31
肝臓がん検診精密検査	令和4. 4. 1～令和7. 3. 31 (2022. 4. 1～2025. 3. 31)	令和6年度中	令和4. 4. 1～令和7. 3. 31

鳥取県胃がん検診精密検査医療機関登録基準（平成30年度より改正）

- 1 精密検査として、内視鏡検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な胃内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間100例以上あること。ただし、部会等の長及び地区医師会の代表の委員が十分な実績があると認める機関については、この限りではない。
- 4 精密検査の結果判明後は、胃精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見胃がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 胃がん検診読影委員会が主催する症例検討会に出席すること。
- 7 担当医が、胃がん検診従事者講習会を過去3年間に1度は受講していること。
- 8 担当医が、胃がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。
- 9 関連の各種学会等への参加を通じて、常に胃がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
胃がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
胃がん検診症例研究会	東部 4回/年 西部 1回/年	3点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	3点
胃疾患研究会	東部 11回/年	3点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回/年	3点
胃がん内視鏡検診講習会	東部 1回/年	3点
消化器病研究会	中部 6回/年	3点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	3点
消化管研究会	西部 5回/年	3点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	3点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器がん検診学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点

※胃内視鏡検診マニュアルに従い、精密検査医療機関の登録基準の臨床例数は原則年間100症例以上に変更することとなり、平成30年度より「胃がん検診精密検査医療機関実施要綱」が一部改正しました。

「年間の症例数」について、医師個人とするか医療機関とするかについては、協議の結果、医師の習熟度の目安となるので「医師個人で原則年間100例以上」とすることとなりました。次回の更新3年後に向けて努力目標としていただくこととなりました。

また、登録基準においては、「食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間100例以上あること。ただし、部会等の長及び地区医師会の代表の委員が十分な実績があると認める機関については、この限りではない。」としており、100例を満たさない医師については、健対協が十分な実績があると認めれば登録されます。

鳥取県子宮がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 コルポスコープに習熟した医師が対応できること。
- 2 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 3 検診の資料及び検診結果は3年以上にわたって整理、保存されること。
- 4 担当医が、日本産科婦人科学会専門医であること及び子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会を過去3年間に2回以上受講していること。ただし、やむを得ず、3年間のうち1回しか受講できなかった場合については、別途追加で開催する講習会に出席すれば登録条件を充たしたこととする。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度
子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会	全県 1回/年

鳥取県肺がん検診精密検査医療機関登録基準（平成31年度より改正）

- 1 胸部エックス線撮影、CT撮影が可能であること。
- 2 気管支ファイバースコープ検査が施行でき、かつ気管支ファイバー下病理検査が可能であること。
ただし、他施設に委託することも可能であること。
- 3 CT読影を含む精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見肺がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、肺がん検診従事者講習会を過去3年間に以下に指定する学会及び研究会に参加して、合計20点以上を取得すること
 - (1) 鳥取県健康対策協議会主催の肺がん検診従事者講習会
10点（過去3年間に1回は必須事項）
 - (2) 各地区医師会主催の肺がん検診研究会 2点
 - (3) 日本肺がん学会総会 5点
 - (4) 肺がん検診セミナー 5点
 - (5) 日本肺がん学会中四国地方会 3点
- 8 関連各種学会等への参加を通じて、常に肺がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肺がん検診従事者講習会	全県 1回/年	10点
東部地区肺がん医療機関検診従事者講習会	東部 1回/年	2点
東部胸部疾患研究会（年5回）	東部 5回/年	2点
胸部疾患研究会・肺がん検診症例検討会（年12回）	中部 12回/年	2点
西部地区肺がん検診胸部X線勉強会	西部 4回/年	2点
日本肺がん学会総会（全国学会・地方会）	—	5点
肺がん検診セミナー（全国学会・地方会）	—	5点
日本肺がん学会中四国地方会（全国学会・地方会）	—	3点

鳥取県乳がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（以下「乳房撮影装置」という。）及び乳房専用超音波検査装置を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
 なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
 なお、日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 同一施設内で乳房造影、細胞診等の乳がん検査が可能であること。
- 5 精密検査結果判明後は、乳がん精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに当該市町村に送付すること。
- 6 発見乳がんに関して健対協が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 7 担当医は、県、健対協、医師会が主催する乳腺疾患関係の研修会、症例検討会に積極的に参加し、乳がん研究会等各種集会への参加を通じて常に乳がん検診に関する学術的情報の補足に努めることとし、できれば日本乳癌学会の認定医であることが望ましい。
 また、乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に20点以上取得していること。ただし、「乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会」、「各地区症例検討会」、「鳥取県乳腺疾患研究会」以外の学会、研究会については、出席した事が証明できる書類等の写しを添付すること。
- 8 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回/年	5点
日本乳癌学会	1回/年	5点
日本乳癌検診学会	1回/年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回/年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回/年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回/年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

[附則2]

- 1 責任者の欠員を生じた医療機関は遅滞なく、地区医師会を通じ、健対協に継続の意志の有無を届け出ることとし、適格な責任者がなければ登録資格は喪失するものとする。
- 2 部会等の長は、これらの医療機関に対して、必要に応じて届出機器で撮影した乳房エックス線像の提出を求めることができる。
- 3 超音波診断装置は乳房疾患診断可能な周波数（MHz）の異なる複数のプローブが必要である。
- 4 健対協は、委員会の審議までに委員長の指名する2名の委員に届出機関の視察を依頼し、その結果を委員会での審議の資料とする。

鳥取県乳がん検診一次検査（乳房エックス線撮影）医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（以下「乳房撮影装置」という。）を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
なお、日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

鳥取県大腸がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 全大腸内視鏡検査が実施できること。なお、精密検査を全大腸内視鏡検査で行うことが困難な場合においては、S状結腸内視鏡検査と注腸エックス線検査（二重造影法）の併用による精密検査を実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 内視鏡検査の臨床例が年間30例以上あること。
- 4 注腸エックス線検査を実施する場合には、次の基準にあうエックス線装置を有すること。
 - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
 - (2) エックス線管は小焦点であること。（小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい）。
 - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 5 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 6 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 7 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 8 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 9 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 10 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 11 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

（別記） 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 4回/年	2点
胃疾患研究会	東部 11回/年	1点
消化器病研究会	中部 6回/年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	2点
消化管研究会	西部 5回/年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	2点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点
消化器がん検診学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点

鳥取県肝臓がん検診精密検査医療機関登録基準（平成31年3月改正）

- 1 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 2 検診の資料及び結果は3年以上保存されること。
- 3 精密検査として、血小板検査、超音波検査、アルファフェトプロテイン（AFP）検査、HCV-RNA検査及びPIVKA II検査が実施できること。
- 4 次の基準に合う超音波検査機器を有し、かつ超音波検査に習熟した医師の対応ができること。
 - (1) 走査法式は、電子コンベックス方式が可能であること。
 - (2) 2系統以上の距離計測機能を有していること。
 - (3) ポラロイド撮影装置、プリンター、マルチフォーマットカメラ、電子媒体のいずれかの画像記録装置を有していること。
 - (4) 観察用モニターは、12インチ以上であること。（※携帯型超音波装置は除く。）

※一部携帯型で高機能の装置が出ているため、希望があれば装置を確認し、十分な画像があれば承認するものとする。
- 5 腹部超音波検査について、次のいずれかを満たしていること。
 - (1) 臨床例が年間100例以上あること。
 - (2) 最近5年間で300件以上の検査の実績があること。
 - (3) 検者が、超音波医学会認定超音波専門医（腹部または総合）又は超音波医学会認定超音波検査士（腹部）であること。
 - (4) 部会等の長及び地区医師会の代表の委員が、十分な実績があると認める機関については、この限りでない。
- 6 担当医が、肝臓がん検診従事者講習会等受講点数を、過去3年間に10点以上取得していること。ただし、肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会に各1回必ず出席していること。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会	全県 1回/年	5点
山陰肝・胆・膵研究会	全県 1回/年	2点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
東部地区腹部超音波研究会	東部 4回/年	2点
腹部画像診断研究会	中部 6回/年	2点
中部肝疾患セミナー	中部 2回/年	2点
肝・胆・膵研究会	西部 3回/年	2点
消化器超音波研究会	西部 2回/年	2点
肝がん撲滅運動講演会	全県 1回/年	3点
山陰肝臓治療研究会	全県 1回/年	3点

（鳥根県開催も対象）

（注） 上記以外の講習会等については、評価委員会及び専門委員会においてその都度協議することとする。

※登録基準の「腹部超音波検査の年間症例数」の取り扱いが変更することとなり、平成31年3月に「肝臓がん検診精密検査医療機関実施要綱」が一部改正しました。

あ と が き

令和2年度から、鳥取大学医学部環境予防医学分野 尾崎米厚教授を中心に、鳥取県特有のがんリスク要因の究明を目的として、5つのがん（胃、肺、乳、肝、膵）を対象とした「鳥取県がん症例対照研究」が進行中です。対象群は市町村で実施している集団検診会場での調査が本年度終了し、がん症例群はがん拠点病院及び準ずる病院の8施設にご協力を頂き調査中です。今後の解析が待たれます。

鳥取県で実施している各種がん検診の実績を全て公表し、精度管理について評価、批判を戴くための報告書第29報です。この報告書は単年度のがん検診の全体像を一覧いただけるものと考えております。がん検診実績は追跡調査、予後調査まで含まれているため、前年度の実績内容となっておりますのでご承知おき下さい。編集にあたり、各部会長、各専門委員長の先生方には多々ご助言を戴きました。御礼申し上げます。発刊に際し、県医師会事務局の皆様には何時もの様に強力なお手伝いを戴きました。皆様に心から感謝申し上げます。

鳥取県健康対策協議会

理 事 岡 田 克 夫